

都名所図會 上卷

190  
2  
43

025683-001-9

特20-933

都名所図會

秋里 舜福 / 著

1冊(上310p)

M34

ADC-3205



特20  
933

秋里舜福著

竹原信繁畫



都名所圖會

松風閣藏梓



子平の名家図云

卷一

いふは、西  
かきつゝあはれ  
山崎寺のし  
まゝにまゐ  
るに、  
いふは、

とるのしるし  
勝つた系か  
ろくしるし  
遠くは  
ふた

かたむね  
ふた  
は  
は  
は  
は

のこころをいかに  
此國の心をたのし  
く業はなすべし  
とてあはれむ  
流久し神風の心

そとにふりかへ  
りし事とては  
安永九年仲秋

安永九年仲秋

五條式部大輔管原為俊卿

栖霞殿

凡例

一 此編の巻首より平安城とあり其四方に帝の鎮座の  
 四神小宮とあり免神社の芳境佛圖に佳邑山川の史記を  
 今時の凡意をのりてまゝに模寫し舊本花洛細見圖を増  
 益して時々其遺漏を巡歴し按社州府たりと一字と誤  
 知童に坐して古蹟の勝地と見ゆるは肝要とす  
 一文讀の宮古兼時記に地名所記行と終し且舊記亦兼  
 其大意を考へ又脱漏あり微細に搜て求むるは後撰書  
 による事専らとす  
 一 圖中に境地廣大なる所は悉く細畫之被ふるは神祠小堂と  
 又亦るは故屋家毎に人物あり形容を以て微少なる人物は其  
 地廣大なるを以て形容微少ありと雖も境地狭少なるは  
 加茂社と野宮との境地を初るとるは便とす

一 圖中の向より人物は又画あり四時の使役と書きて橋本の地と  
 和名のためと洛東の花見宇治堂将等と  
 一 圖中れ名所又連綿の地あり圍乃上に橋系と書きたれと  
 繋ぐ八幡神宮寺より宿院の清ありといふ宇治乃橋あり  
 惠心院興隆寺かとの連綿の地と  
 一 比叡山の圖あり東塔坂ありと近江之志ありと西塔あり  
 連綿の地ありて除くと然らば山崎谷観音も橋明乃界  
 かまごとも書きたれといふと成圖と

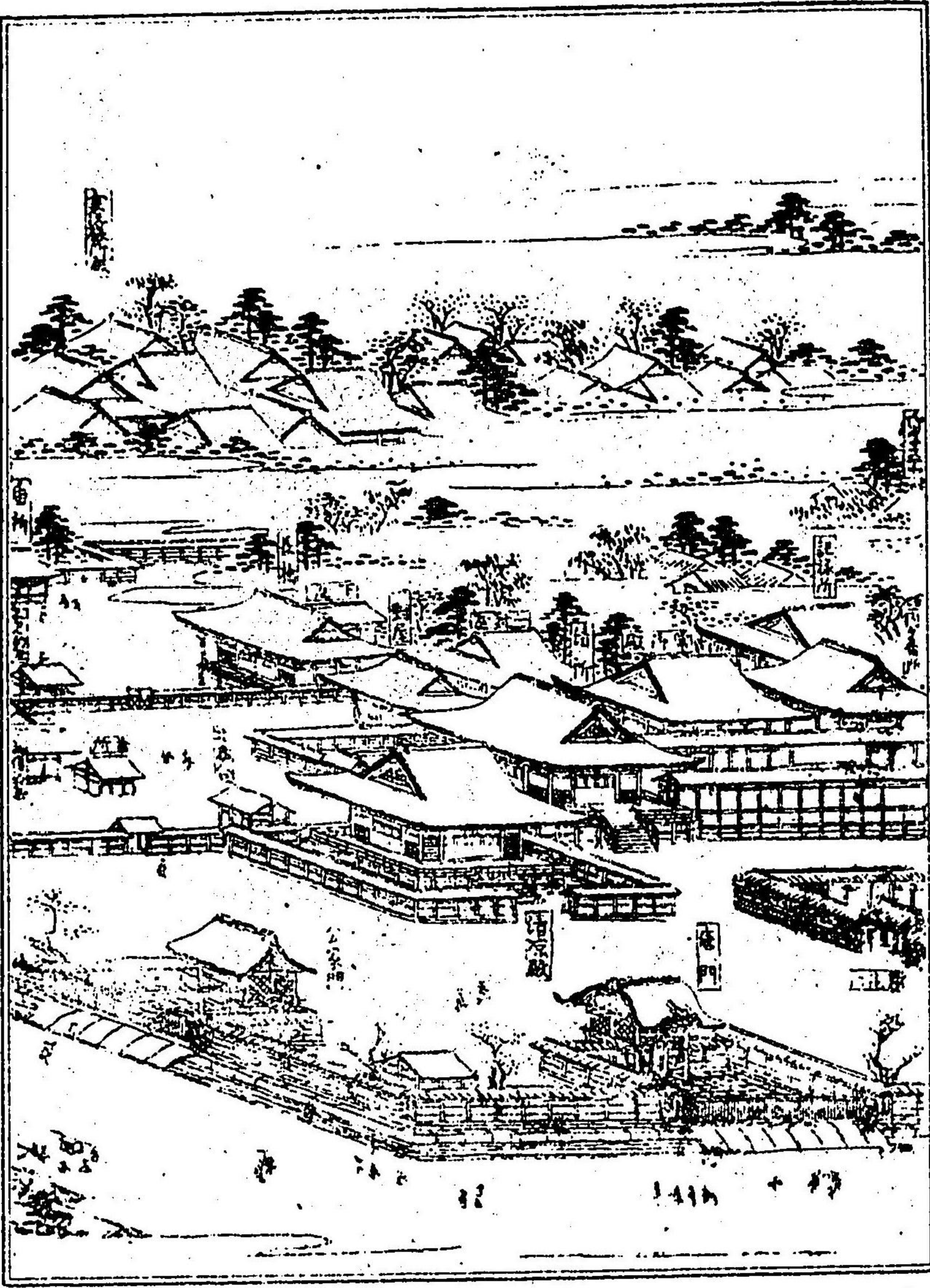
都名所圖會卷之一目錄

平安城首

- |          |       |       |         |
|----------|-------|-------|---------|
| 内裏圖      | 上御靈   | 中川    | 相國寺     |
| 京極八幡     | 幸神社   | 藤井    | 妙覺寺     |
| 妙蓮寺      | 妙顯寺   | 本法寺   | 千宗住家    |
| 大應寺      | 報恩寺   | 堀川    | 一条庚橋    |
| 小野小町草紙洗水 | 安倍清明社 | 水火天神  | 興聖寺     |
| 瑞光院      | 奉隆寺   | 櫻葉宮   | 石像寺     |
| 欽喜寺      | 石神社   | 聚樂亭旧地 | 般舟院     |
| 西陣織物袴    | 淨福寺   | 大起寺   | 阿弥陀寺    |
| 十念寺      | 奉滿寺   | 廬山寺   | 淨華院     |
| 下御靈      | 華堂    | 清荒神   | 高田奉誓寺   |
| 妙滿寺      | 奉徳寺   | 頂妙寺   | 源之住頼政旧跡 |







内裏之圖







相國寺





妙覺寺

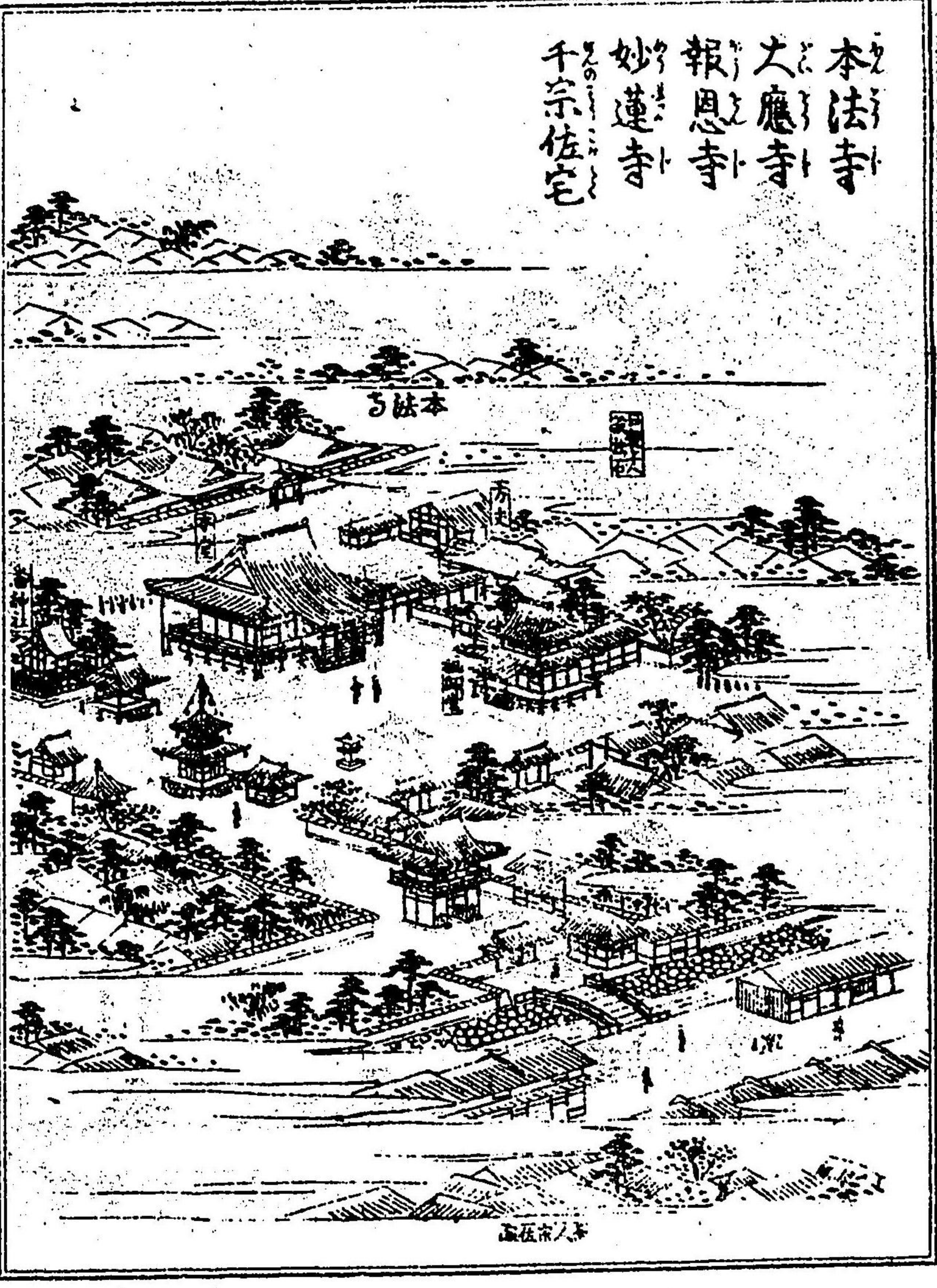
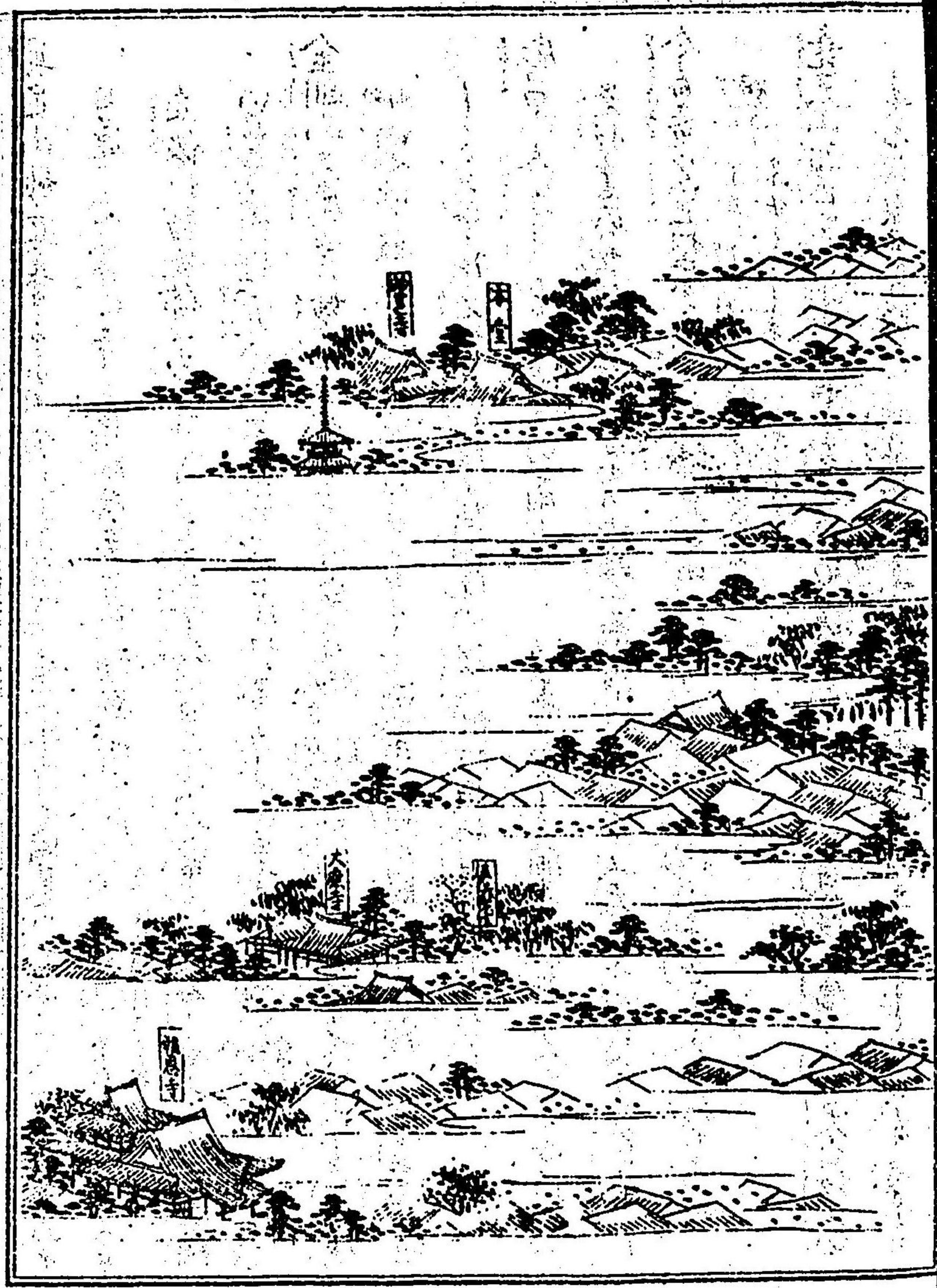


萬年一相國水天禪寺今出川の北あり五丁一ノ末二ノ末ノ間基と云ふ公國師...世々  
 妙庵後小松院に許す明徳二年足利二代の將軍義満公の建てる佛殿の釋迦  
 佛を主として如意阿難を左右に建てる人の像と殿壇の安んぬ師堂の如意國師  
 の像のり後水尾院に許す再建して同帝の神牌は安んぬ之重塔を六百如き  
 を尊くまはし後ろ左の許再建して門を圓通閣といひ休成功德は一橋  
 松大界橋と云ふをけりて庫裏の儀あり毘沙門と云ふを  
 普光院に竹林の末門を家郷の墓あり 基前石燈あり基あり鐘あり日貞二年  
 法然水の塔頭松鷲軒にあり 地蔵上人の像あり人の入りのあり  
 極八幡宮の上許靈の西のり諸社根元記曰古の三條京極あり應仁の頃は此  
 への盛衰記曰白極寺の古の末社あり今真言の僧あり成守の  
 出雲路神を極北西今出川の北あり今出川の所藤田氏命して通祖神あり今  
 幸神といふ旧地を極北東に  
 縣井戸の洛陽の名所と云ふ一糸は小東院の西あり 縣井戸の洛陽の名所と云ふ一糸は小東院の西あり

都人といふやうに性むかひのりあり 備公平女  
 極むかひのりあり 後鳥羽院  
 具足山妙覺寺の新町頭は極北のり 後鳥羽院  
 弘法大師の祖師堂あり日蓮日朗日像三師の像を安んぬ 弘法大師の祖師堂あり日蓮日朗日像三師の像を安んぬ  
 恰好比類の諸堂 恰好比類の諸堂  
 建之の規矩 建之の規矩  
 茶羅角龍の湯茶羅 茶羅角龍の湯茶羅  
 あり今妙覺寺あり あり今妙覺寺あり  
 卯本山妙蓮寺と寺内通小川の西あり右は宮あり 卯本山妙蓮寺と寺内通小川の西あり右は宮あり  
 西洞院五条小川の柳屋仲真といふの日像を歸依して宅地あり 西洞院五条小川の柳屋仲真といふの日像を歸依して宅地あり  
 寺と稱し其後大宮通四條南小川のり 寺と稱し其後大宮通四條南小川のり  
 小松院と當寺の付寶に祈雨の尊尊して日蓮上人は自筆法 小松院と當寺の付寶に祈雨の尊尊して日蓮上人は自筆法  
 羅あり後光嚴院に許す 羅あり後光嚴院に許す  
 此法を修むむ靈靈あり 此法を修むむ靈靈あり







本法寺  
 大應寺  
 報恩寺  
 妙蓮寺  
 千宗佐宅

本法寺

千宗佐宅

興山妙躰寺も小川の北よりの法華宗より開基の日像上人は洛陽よりて

日蓮の最初のまの後醍醐天皇の勅願所なり 初、西洞院二条の南あり。天正

立像の釋迦佛の長をすりて黄金に日蓮上人常小持念のゆきを蜀錦

の曼荼羅維経一九の曼荼羅維共日蓮上人常小持念の什物 經一九日像上人の

金剛山大應寺の妙多寺の西よりの宗旨 天台眞言 比叡公は属して用ゆる虚應

和尙之佛殿も釋迦佛を尊く 迦葉阿難を脇士に額を大懸るに

して茨葉陰之れを花園院の後に押し隅竹林の中なり

叡昌山本法寺も大應寺の南よりの法華宗よりて開基日親上人の本堂は額

光悦書に神護小路の西よりの中道一条堀川に西移り又天正年中に今れたるなり

今由菴宗且の法華宗は法華上人の町にあり千家累代の系人たる位に上流

号 宗良は千利休の縁あり。宗良の息

亮天山報因等も小川の西よりにあり浄土宗よりて香月院に属し初天台浄土の

系宗は系宗の同士の明泉和尙より西蓮社慶譽上人浄土の二宗と改むる首を

阿弥陀佛よりて安阿弥の位あり當寺の什物も虎の画あり四明陶伯れをすり

秀吉との御聚楽草のありて聲を發せ故に世人鳴虎と称ん

堀川の水よりの流あり其一鴨川のぬきより上流より今家の下流にあり

石に系屋橋の下に合流を小川より又一流の系屋より出ると今東流は二

名は若狭川といふ其系屋橋の下を合し南へ流れる寺を經て上鳥羽より鴨川へ入

水より流るるなり 昔林好忠

屋橋も一条通堀川の上より安徳晴明十二神將の位に橋下鎮を奉り

是と傳ふ世の人吉山とい橋ありて神將の位に人小説してきりぬ 保平盛業は

二位殿一条堀川屋橋の位に車をまると善清の死を討つに降藏のふをん 中宮は

置肝膽を推し念珠を抹大小の神祇を掃く速に力絶羅尼に徳ふの圖

王男小徹は文清の息孫を淨森と揮てと抱き家よりぬるるなり

けく世人屋橋より足路陽に名橋あり



小野小町雙紙洗の水を庚格の良諸侯の河に流すあり清和水といふ傳  
 町塔あり暗明水い新あり安陪暗明密はたけ下た社あり人下り下り松  
は所あり一条の下り松は足あり

安陪暗明社と一条の西院庭町暗明町あり多し所へ暗明の靈神  
 古といは地暗明の居籠ぬりくそ

水穴天神の堀川れ小天神のけ子小あり多し所水穴に靈神ありといふ  
 瑞光院へ安居院れ小ありといふは瑞光院の多宅に鎮守れ神は依那

稻荷と稱に播列布穂城未は神田区頭長短具外家臣の塔一基あり  
大石内飛分良と始富院に什物小内飛分は画像群世の詩歌書翰等あり

惠光山本降寺と云はの小あり法華宗あり一圓基の日直上人の題目の  
 石塔を日像上人の多し聖觀音造像の何今の地より

權乘宮を出水通千本れありありなり所天照左社とむり右近馬場  
 天降りの人日降の社明と稱に

水火天神  
 瑞光院



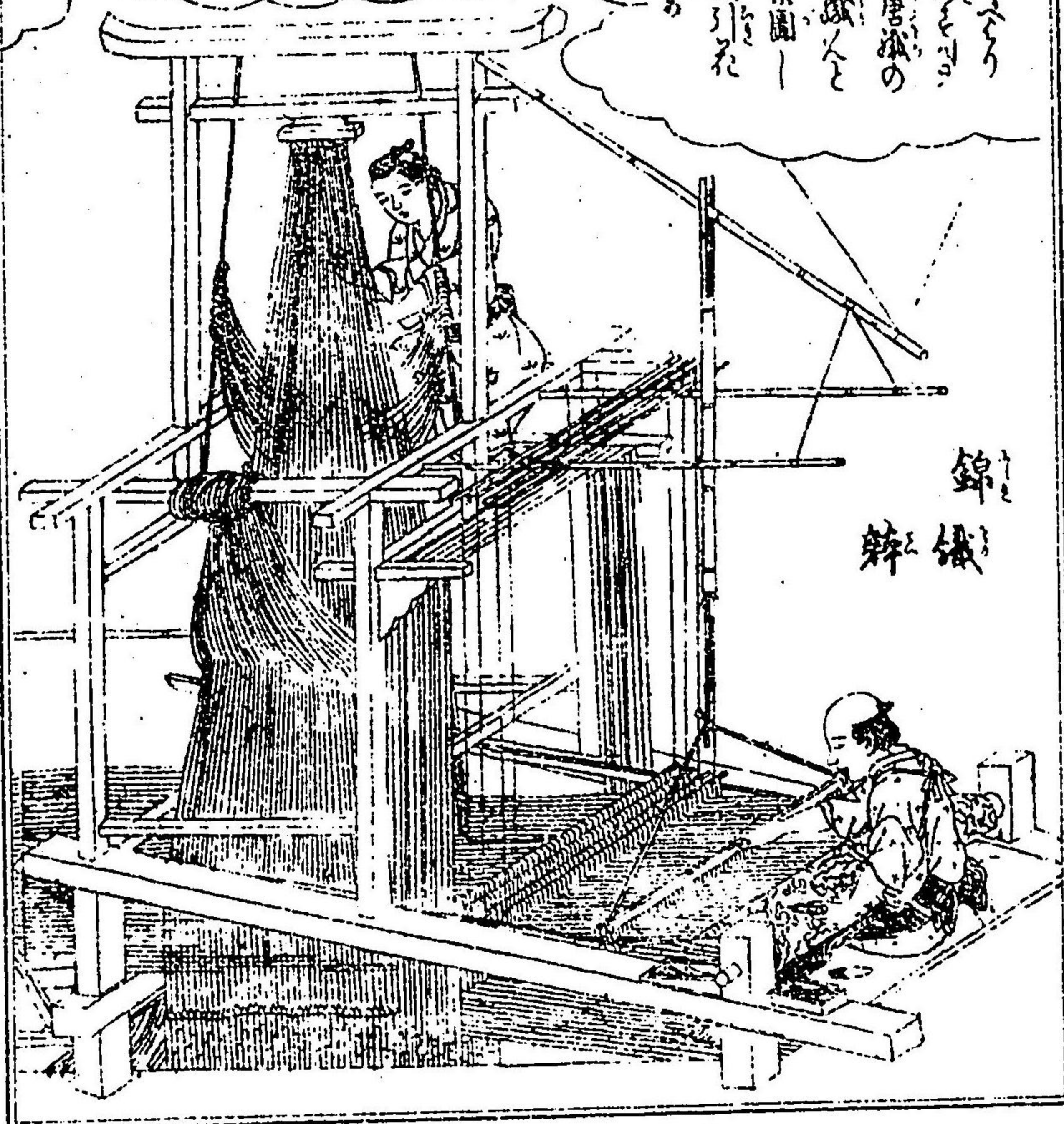




般舟院

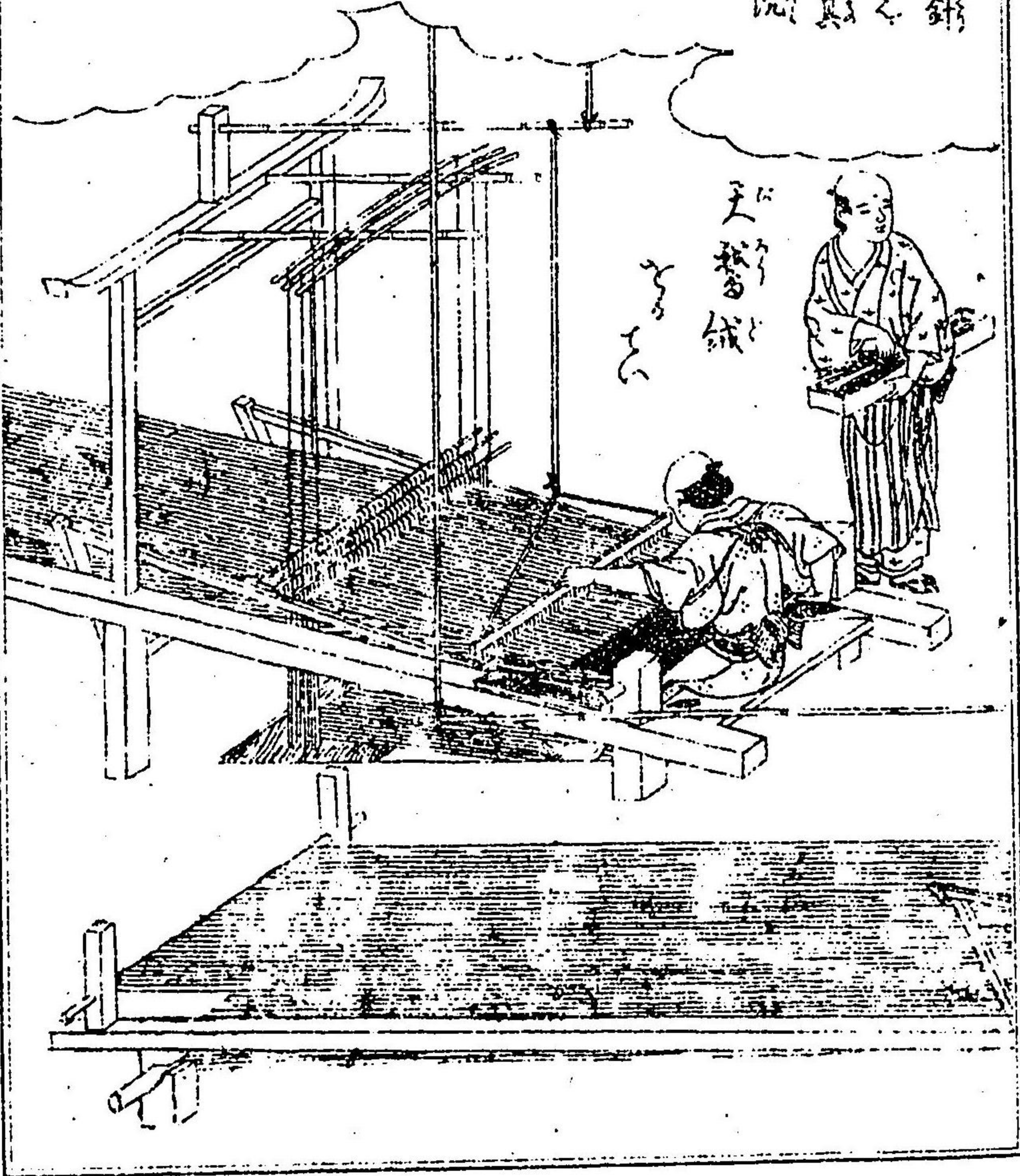


西陣は町小染といふ一色一  
 とりの呉服織物で、その  
 際限なく金銀錦唐織の  
 るんをとりとるゝ織物と  
 なるゆゑ其地紋を依り圖一  
 堅様を示されぬく筋を引花  
 具の糸紋はなすゝ空か  
 具波物の機組は白  
 る糸を十合一の  
 難政を梅ありを  
 求めても本一し初  
 亂してさぬくの地紋  
 わり不糸織品とし  
 文はけく高機



錦  
 織

六管織を針  
 金入て織く  
 紋天香織具  
 針金に染況  
 了てとる  
 作る形



天香織

般舟三昧院の今出川通系屋町の西小の宗首神皇正統記兼学よりして  
 禁裏内道場と稱し用ひる惠篤上人善空と號し家川議公源朝臣圓慈  
 和尚より本尊の阿弥陀佛に坐像よりして惠覺大師に他より帝王歷代乃  
 神牌板安多々後土御門院に御塔の本堂の西小の式子内親王の塚  
 當寺あり定家君の墳といふなりいかに定家無の跡にあり門前のはるかに定家のはす  
 惠照山淨福寺の一条に西小あり淨土宗よりして智恩院に属し本尊阿弥陀仏  
 の弘法大師に他より同基と弘蓮社深譽上人本堂の額と淨福寺  
 と書して後奈良院の宸筆あり  
 安穩山大超寺の淨福寺の西小あり右は宗よりして本尊阿弥陀佛の惠心信都  
 伊勢志神宮の一七日後系よりして阿弥陀の三尊空中に現すめ人初其  
 尊形と換して三尊を辨たり具阿化人あり其ふ故世人神明の所化といふ  
 西陣といふ明徳の頃と名細川に兩執権落中よりて教合我のり河堀川の西  
 一系より北小地と名西陣といふ堀川より東と東陣といふなり  
表の應仁記

淨福寺  
 大超寺







蓮臺山阿弥陀寺の極通馬の南あり浄土宗ありて百万遍に属し

本尊の阿弥陀佛の法大師の極と開基と清王上人方々の鐵田信長公

同信忠公の影像を安の周雨公の墳墓分明知を秀致逆の御本林寺

の御ありて討死の長教華の墓あり 清王上人の御ありて

華言山十念寺の阿弥陀寺のありての石の御ありて本尊の阿弥陀佛の法

大師の極と開基の真阿上人 永享十二年七月二日の御ありて

廣布山本満寺の十念寺の南ありて法華宗ありて開基の日秀上人の祖師堂

日蓮上人は像の初丹の國墨田村あり所の人熱病を發して死するものあり

あり則は像の祟ありてと權に入りて山中に捨ててまゝに皇親御ありて

あり御中に讀経は奉あり村民よりありて入りて入りて尊像あり

得たり則同所生福寺の安を及具後宇津宮の御ありての御あり

ありて都小登り市中に集めありての御ありて高祖の像ありて

買たりて當りて安を及り 折敷の御ありての御ありて

浄華院の京極通今川の南あり浄土宗ありて本堂ありて祖師上人

は像と安を及り阿弥陀寺の本尊の惠心の極と 當院より入る御ありて

馬丸の西あり内裏に御ありて 中興も法然上人より第五世阿上人の俗姓の

内道場と稱せり故に御あり 源成ありて武田安藝守時綱より舊の園城寺の住侶浄房證賢と

號し弘安十年發心して離りあり洛陽に開院され具後當院の開基なり

身代不動尊 當院の安を及りて三井寺の智光法師重信ありて

身代不動尊 光明法社より御ありて日蓮上人の命終の期本より徒衆の中身代あり

身代不動尊 命終の期本より徒衆の中身代あり 命終の期本より徒衆の中身代あり

命終の期本より徒衆の中身代あり 命終の期本より徒衆の中身代あり

命終の期本より徒衆の中身代あり 命終の期本より徒衆の中身代あり

命終の期本より徒衆の中身代あり 命終の期本より徒衆の中身代あり

命終の期本より徒衆の中身代あり 命終の期本より徒衆の中身代あり

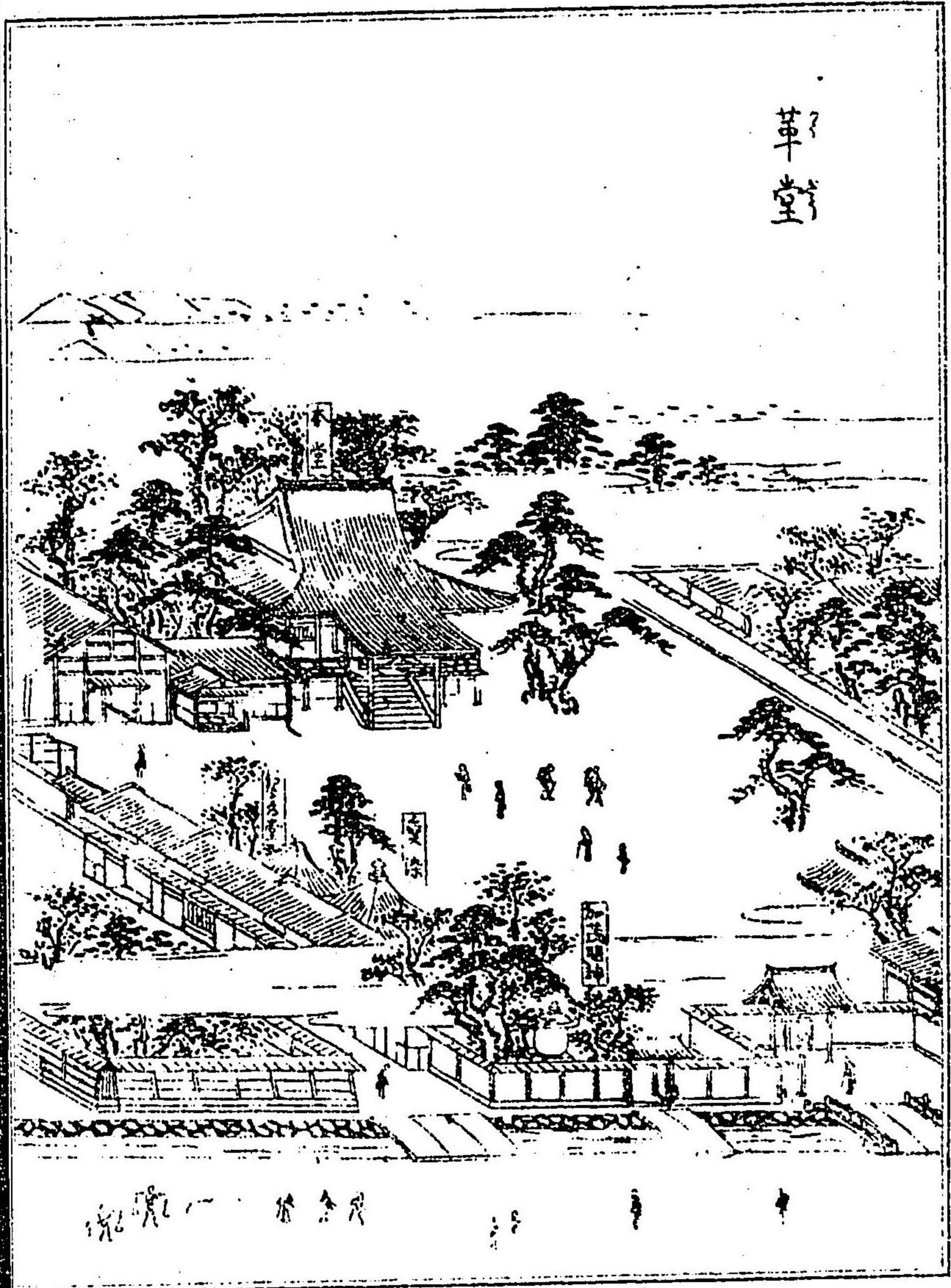
命終の期本より徒衆の中身代あり 命終の期本より徒衆の中身代あり

命終の期本より徒衆の中身代あり 命終の期本より徒衆の中身代あり

下御靈社



草堂



下清靈社の系極通春日今九巻也の南ありなる神八所北清靈うて上清靈と

同神なり八所の神なることなる神あり神ありは清陽神なり

行願寺と下清靈の南隣り一名入るふうして本尊十一面千手観音を

八人の立像行圓上人の住西國唐十九番北遊遊所又加茂明神の石塔五輪の

一高を主金あり塔あり除陽遊りの寺あり當寺の同基行圓上人原鎮西の人あり寛弘

二年小皇成は遊ひ頭了寶冠とてくた身は草服を着せり人

都れ人草上人と呼行圓は千手大悲陀羅尼持良材取求光

記名の像を神人奉成願りあり夜の爰にをんれ山本を靈本と見え

として嘗て嘗て朝果して一僧あり告々りも鳴社に債ふ若然とて

柳樹あり六齊日毎千手れ神祀を誦する齊聞へぬむり鴨を社宮

まれ樹下は天降るものくを則行圓より成るく求光則神官にんけ

菩薩の像をききり行願寺に安んじり當寺の本尊と

又行圓草服衣常に着るゆいけま草堂と稱は具後行圓乃

父子仁法師は餘材取得て又八尺の像を住り西山良華寺に奉るる

當寺初二條通新町の西あり故一條草堂といふ

清荒神社の系極の東荒神といふ所八面八臂は荒神あり初を捨別

勝尾山清鎮坐は後陽成院勅りして文禄年中五條坊門油小治の

西あり其後北國小近りくたかるとけ地に移る古ははなりの近邊は系といひ

本誓寺と河原町二條の北あり今言の親覺聖人の弘法ありて高田派と

本尊阿彌陀佛と惠公の住りて初は宇治惠心院小あり本堂と

秀吉臺北の政所は化粧殿堂内の画は狩野永徳が筆あり

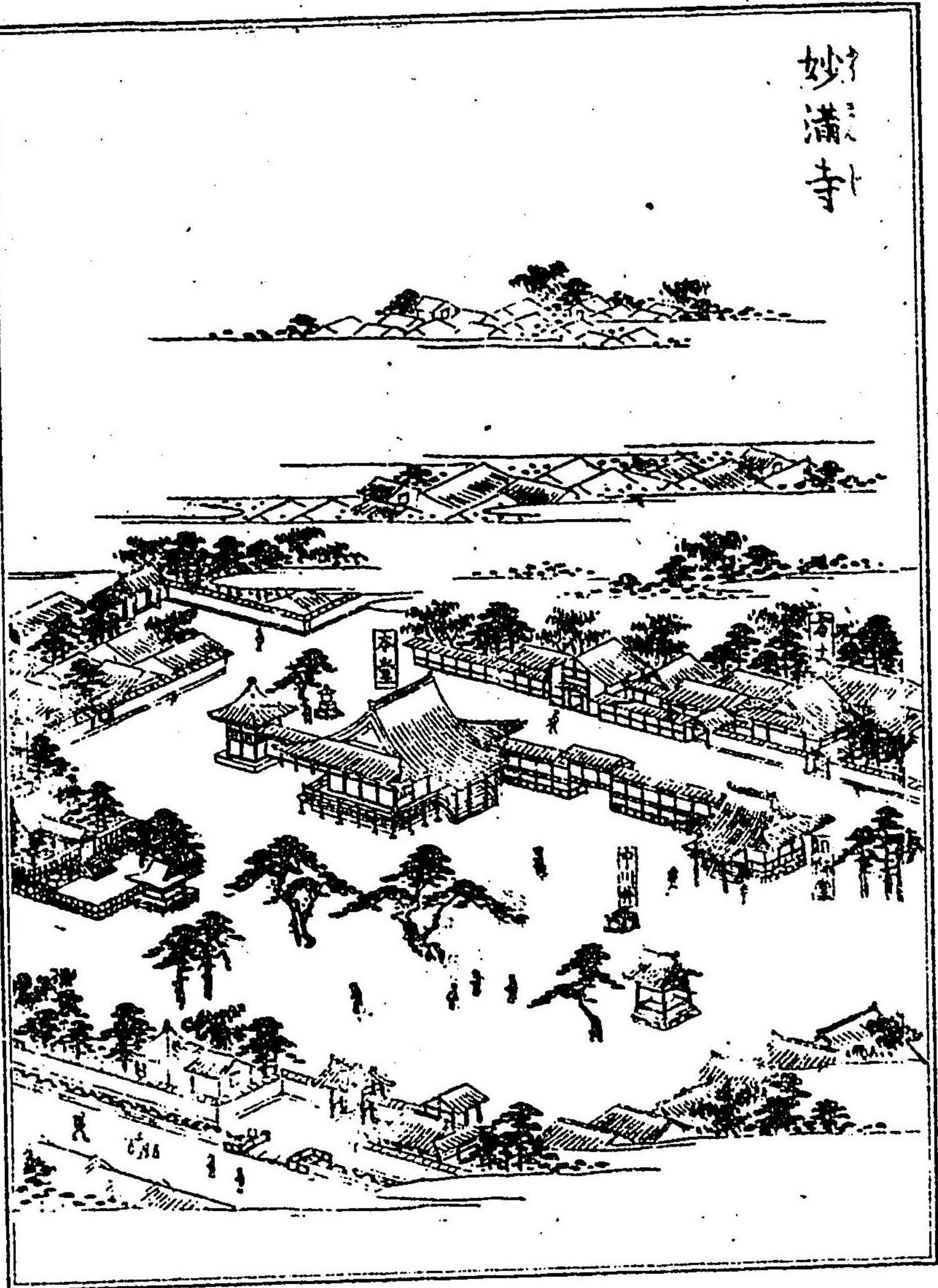
妙塔山妙満寺と系極通二条の南ありは毎家ありて同基の日計上人

あり永徳二年五月は建立ありとの地は後小治堀川の西あり今妙満寺

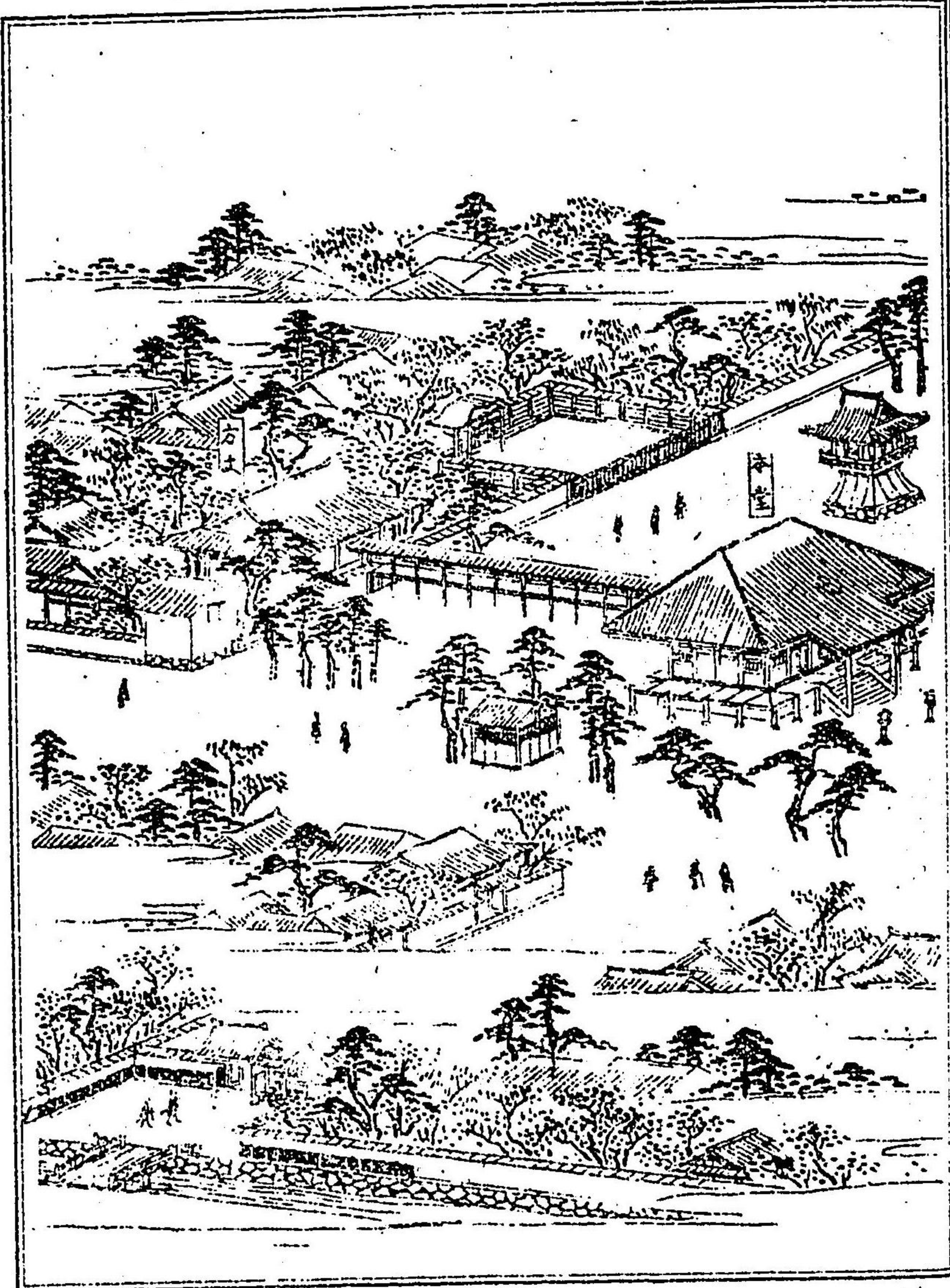
道成寺鐘當寺小ありされ記別日高道成寺の鐘あり銘あり兵乱よりして御堂

あり中川の井堂ありの鐘あり

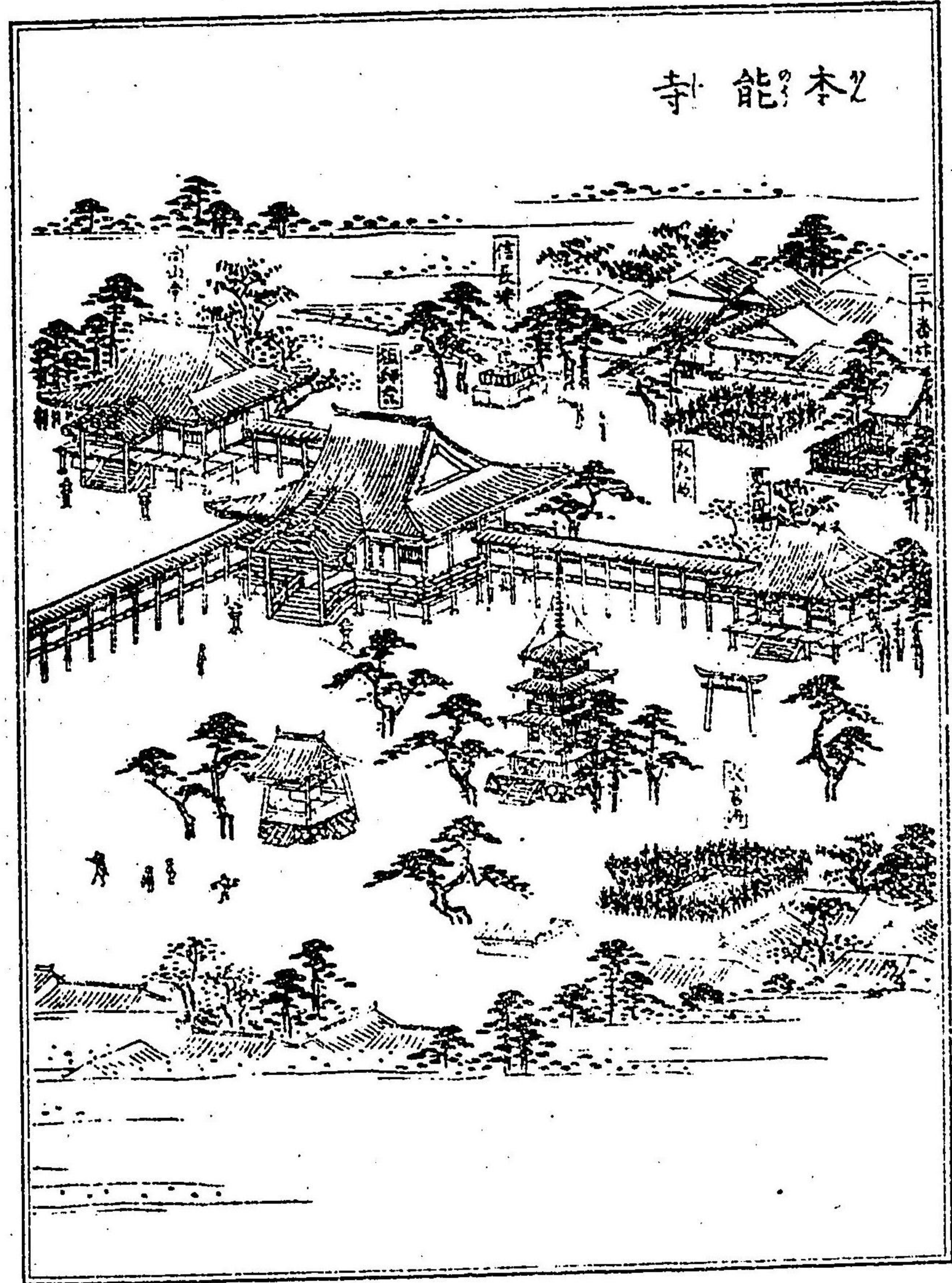
妙満寺



本能寺に系極通押小治の南あり法をめぐりて勝勢派あり  
日像上人より四世日齊上人 開基日隆上人 初の地を六角の南油小治の東に  
勝勢の一派を興隆せり  
 あり 今を承る者 中興権大僧都日興上人能波集とて入和語の書版著者と  
方丈の前への門の聚樂城よりあり移る  
愛宕山権現の古社あり 反葉より 織田信長公塔 本堂の東より天正十年六月二日  
為し自叙と奉へば 題目曼陀羅 宗祖日蓮上人の御子と表具と御子の地は 信長記にこそあり  
 聞法山頂妙寺の二條橋東の山に町あり右日宗一教派ありて開基日祝上人  
 あり権大僧都法印ありて姓は千葉氏下総國千葉郡の人と永正十一年四月  
 十二日寂れ未年八十七當寺樓門の二天東を待國天西の多門入りて運慶  
 安阿弥の兩社を靈驗新ありて常は諸人施を 樓門の前より二天の年取あり  
 細川治部少輔源勝益寺に依寄附し頂妙寺と号と初の地を新町通  
 廣司町あり 今此樓門の 小高倉所所れたるなりと  
 天正の末に入れたるは



寺能本



高田  
車修寺御坊



源三位頼政の旧蹟ハ大炊御門今の新田町 京極北西のあり

二月の日は...  
 是より...  
 高松神明へ姉小路新町の西より此地は多羽院の帝長守師行ふ御とも松

君のそむるれ指ねるぬるにけりし...  
 種政

高松神明へ姉小路新町の西より此地は多羽院の帝長守師行ふ御とも松

の内裏と造らしめり...  
 西行水へ三條坊門室町の東よりあり

曼陀羅山天性寺の系極北の原あり浄土宗ありて本尊阿彌陀佛の惠公乃

他あり織姫観音...  
 中将姫の像

久田山金剛寺も天性寺の南に隣り浄土宗ありて本尊地藏の満米上人の

他あり夕鳥薬師...  
 本堂のあり

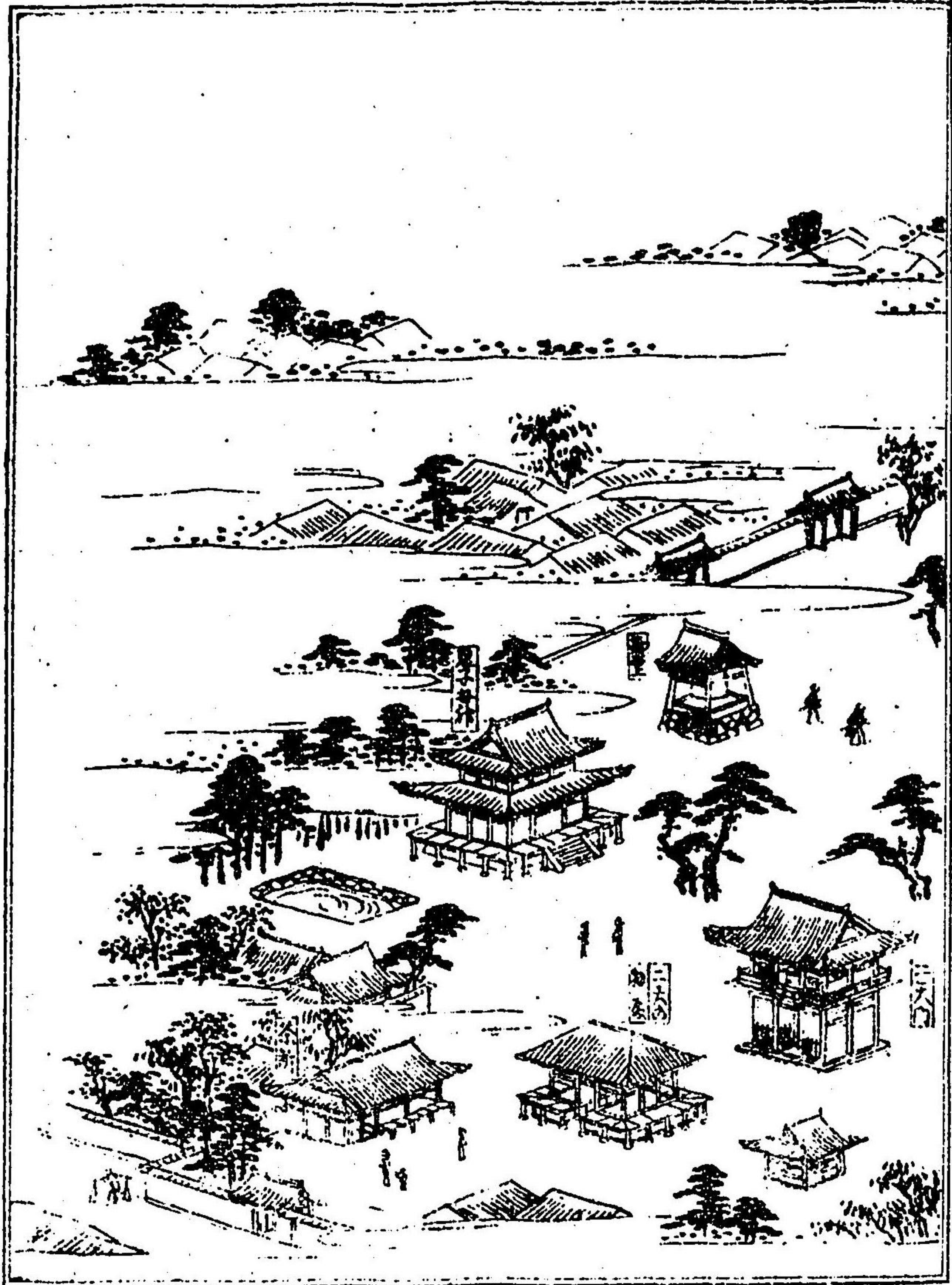


生例

生例といふは高瀬川船三郎の  
 小次郎の川を極夜をひらき  
 ともは魚をとりて食すなり  
 向酒者も南王様を感ず  
 三法も千五百人程を包ち  
 川邊に遊べ都府は風を  
 ずりてくまらぬ婦人の笑  
 三法の赤曲をたはゆり  
 は所の夜をひらき人々





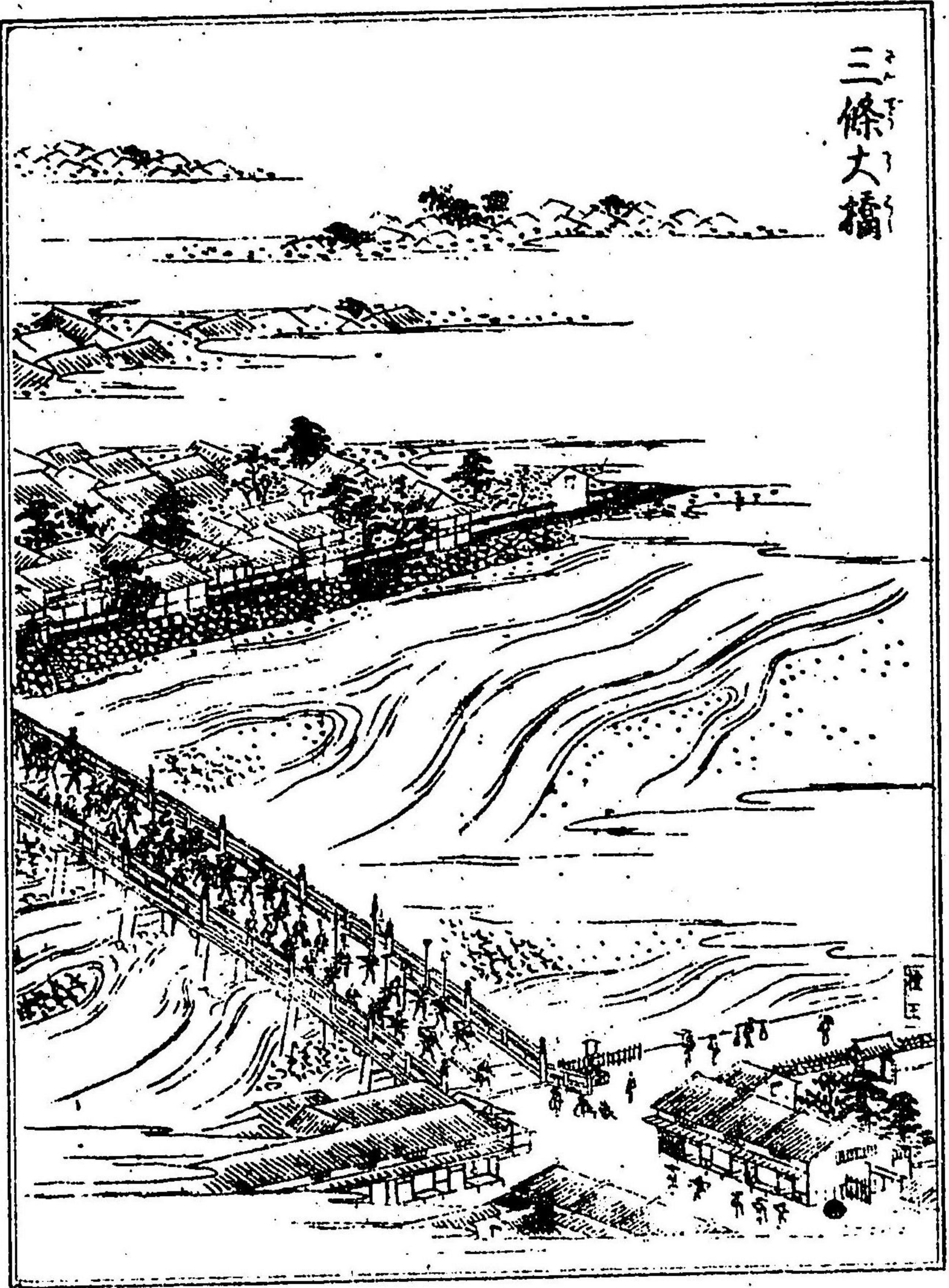
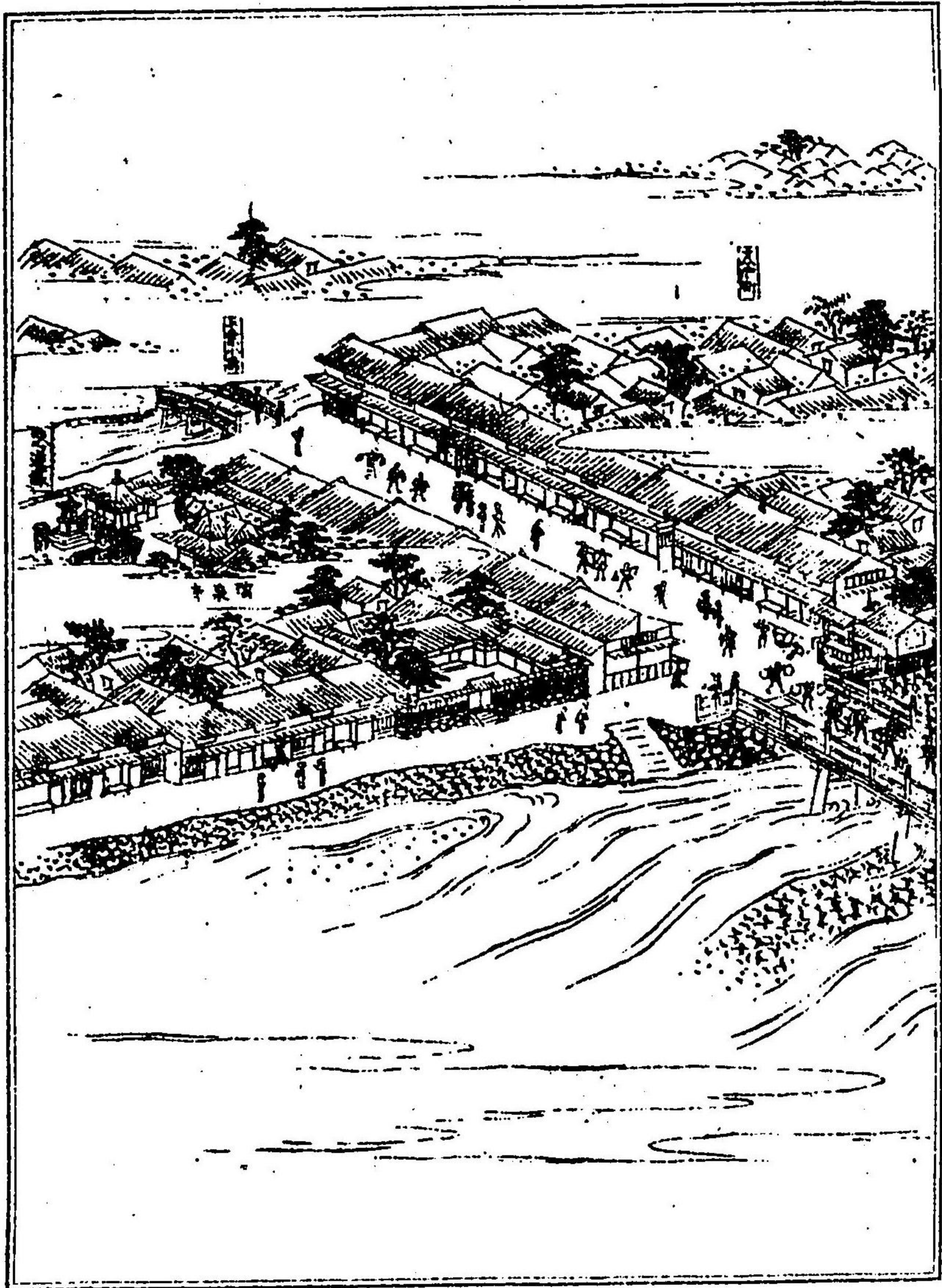


三條橋と東國より平安城小寺の喉口より貴賤の行人常々多くして皇州  
れ繁花のけ橋上よりとり欄干の紫銅の擬寶珠十八本ありて悉  
銘を刻其銘小曰 洛陽三條之橋至後代化度往還人磐石之礎入地  
五尋切石之柱六十二本蓋於日域石柱蓋錫乎天正十八年庚寅正月  
日豊臣初之御代奉増田右衛門尉長盛造之

檀王法輪寺と三條橋東爪あり降土家より奉尊阿弥陀佛の惠を授け  
古の悟真寺と號して良忠上人の弟子道安法師建立と應仁の乱後荒廢  
乃く慶長年中信宗上人再建ありて梅檀王院と号す 今略して檀王と号す  
又條橋東に隱居一室中庵 主夜神祠と開基代中上人の初法之縁起小曰  
慶長八年三月十八日信宗上人別行小入て念仏を修め終つて生衣小  
青袍を着て光明の中に居れ上人告て曰われ華嚴經小説のいへば  
娑演底主夜神と尊修念佛の行者は擁護とすと則ち叔父の授けを承り  
應驗新より常々信人多し 慶長八年三月十八日信宗上人別行小入て念仏を修め終つて生衣小

鎮守の加茂右神宮坂あり 鎮守の社は所々ありて鎮守の御所の  
龍王祠 鴨川の左に岸より大なる御ありて龍王とて人と書け 御留池  
瑞泉寺と三條小橋の南あり降土家より奉尊阿弥陀佛と聖徳太子

此化有り同基の三空柱叔和尚本願の園白秀次公の母堂瑞龍院有り  
秀次公退悼れ為に建立し 則ち秀次公の母堂瑞龍院あり 文禄年中に秀次公  
右衛門秀吉公に對して逆んば企めり故に紀別高村らより自教を  
首と取て三條河原に集りて二十余人に毒婦并に推子其け所より  
て斬罪して同穴に埋む其後塚を築て上り截るあり銘小曰秀次悪逆  
塚文禄四年七月十五日と書す 備ふる石塔ありて毒婦二十余人の塚あり  
先斗町の鴨川の西岸三條の南より川を以て水樓の如く軒端なつて  
坐りて洛東に風を吹賞し酣歌の英客若くは群れ  
花結乃底より雲ゆく流れの句 鬼貫

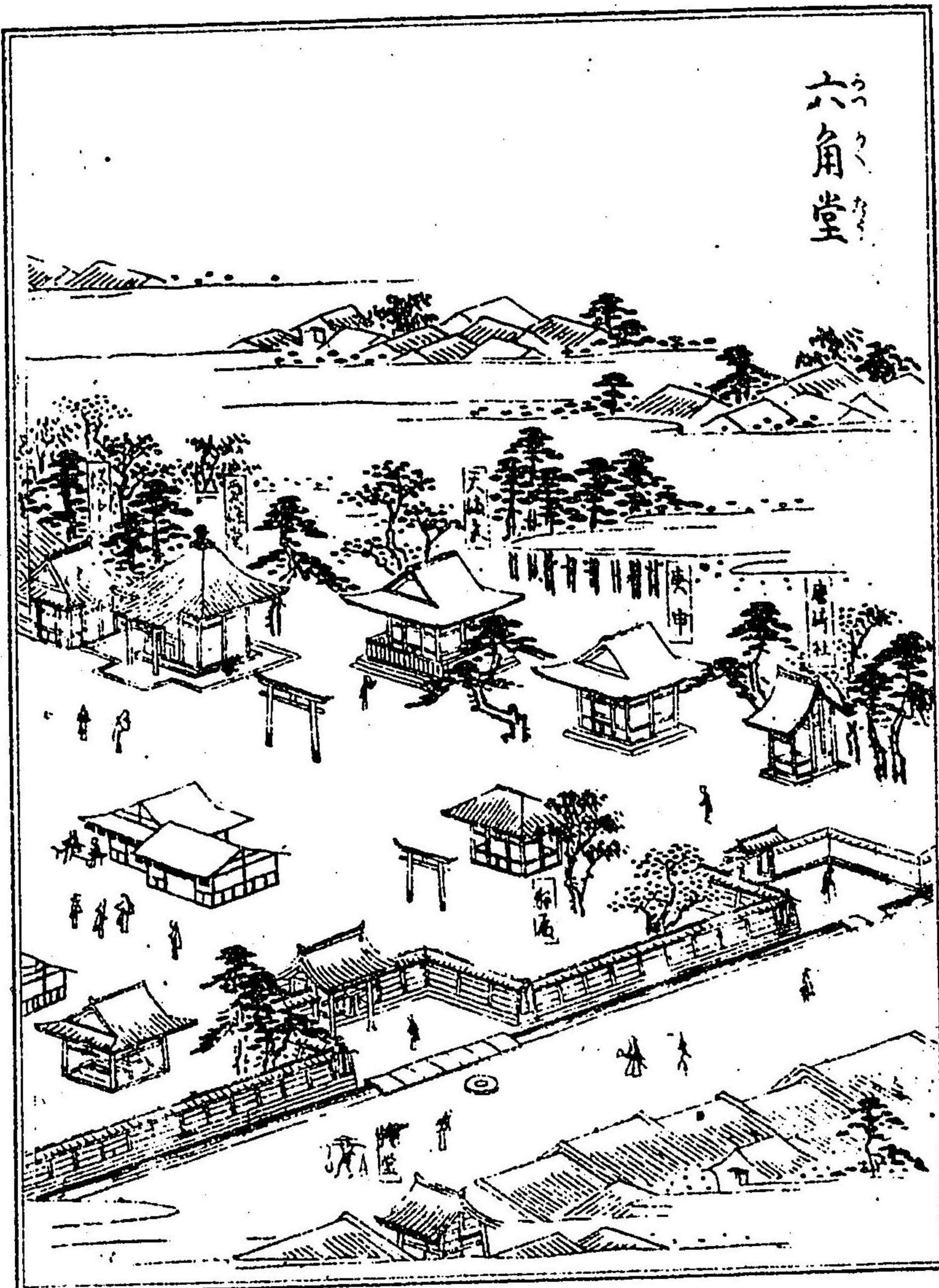
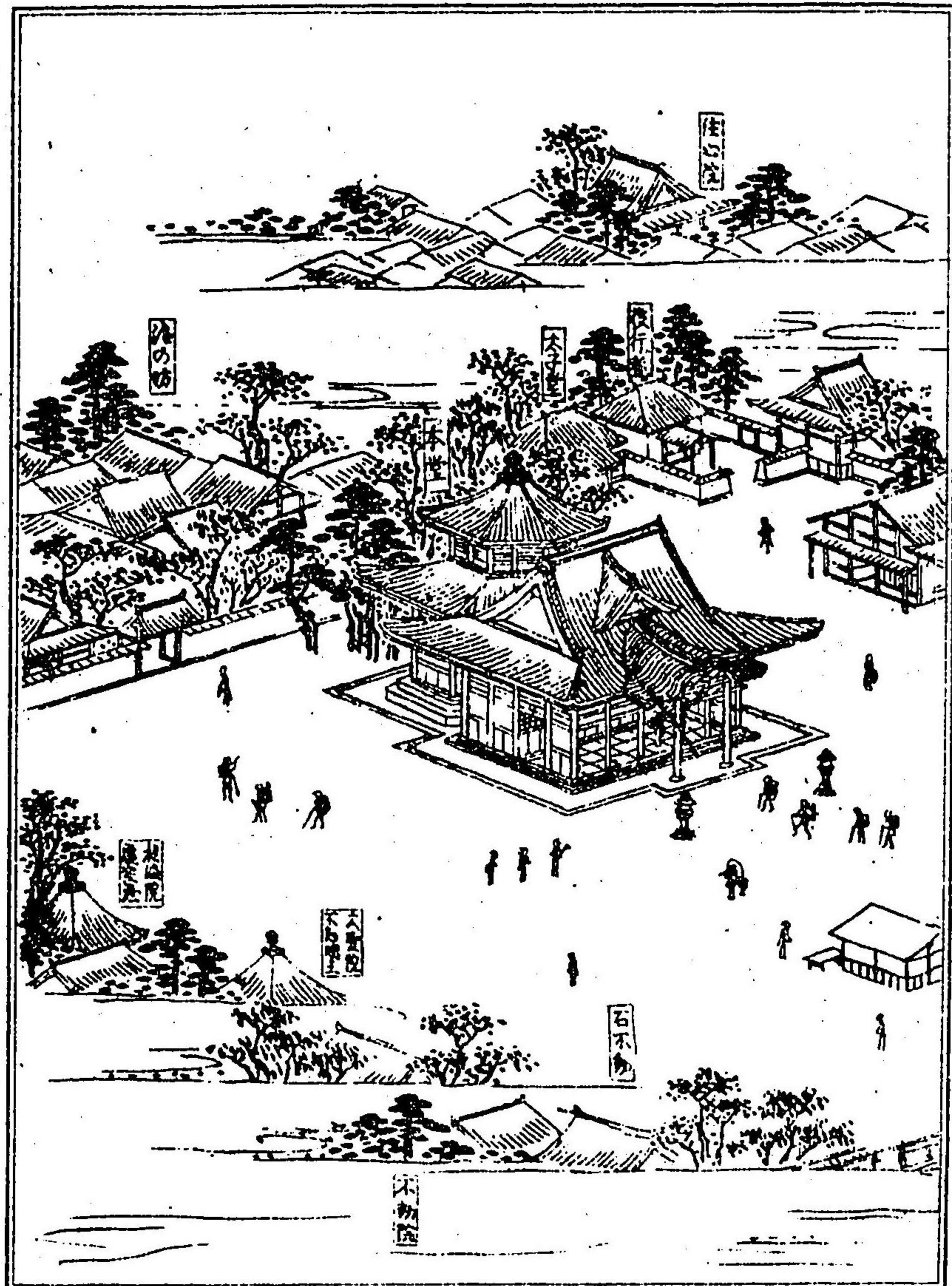




夕立や  
法善  
おけさ  
阿弥陀  
堂  
其角



所八幡社へ八幡町一名  
 高全の西ふり足利軍兵  
 康永年中に初めりて  
 風流は等持寺といふ  
 園圃と昔まはに位か  
 池と号するはしり  
 園殿下は亭ありて  
 沈り今雨替町池の  
 人家の裏に池の思  
 遠より訪ねた  
 島丸の西の石橋  
 は水基ふり  
 松の旧名あり



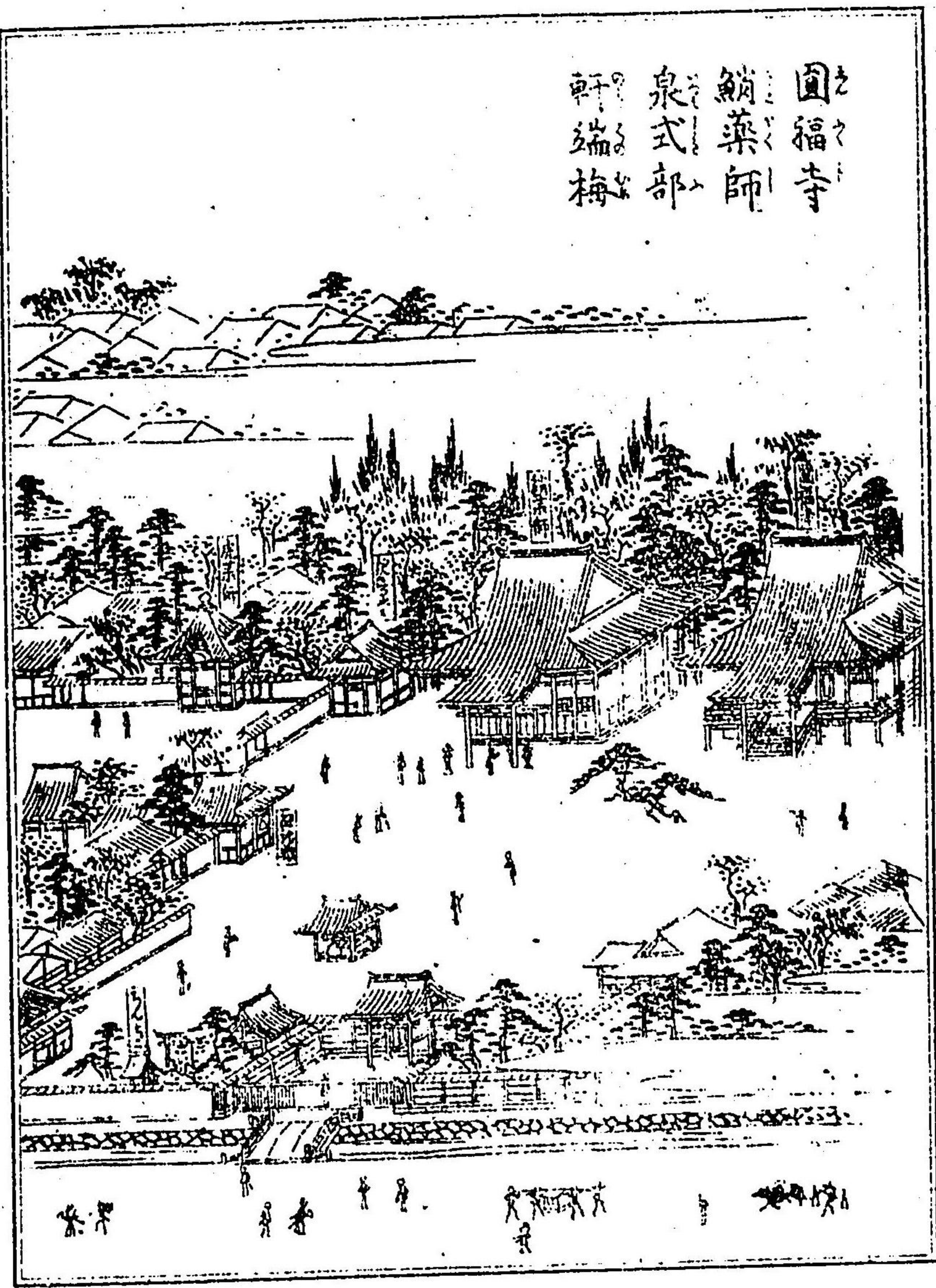
六角堂頂法寺の六角通馬九通のしんぐりある天台宗なりて同基  
 聖徳太子あり奉尊如意輪記の金像あり長一丈八歩之西國十八番地  
 三十神此尊像をむりて法隆寺山石屋浦に夜光あり換人ありとや  
 一の細と知りとも朱に唐櫃を傳へり具格の上正尊如意輪乃  
 像一尊後上日本皇のまがとせりゆりて因裏小敵りある早く  
 ぬして是を我前生七世の持尊なりと尊宗一常小隨身の  
 時、櫻御西天王寺に造人といはれ本所より求らる具頂は所と山原折田  
 御土車里のつる子けさ衣御細しあり清清水山原のんといはる像と  
 榊樹ふりけさ俗とを像なるの命い重くあり離るまか其夜乃  
 差小奉尊告て白我太子のつる小持尊なりと奉七世今といはれ固縁あり相  
 ありゆりて永衆生利益益せんといはれ後より東方なりと奉人の老嫗とて  
 曰は傍み之本の板あり毎朝紫を履て是とて靈材なりといはれ太子  
 とてふし初きといはれ本一様と交に六角の堂と宮の真後二百八十餘

歳を經て桓武天皇都城ありん定まらる府官使條路を極むる六角堂小  
 後の中其當まると皆足な思想なりとて建立精舎は他所移るんといは  
 と海はくは八儀に雲よりては堂自五丈斗山の方退り故事ゆか  
 小谷坂通して都とありふり一説は高麗國光明寺より傳像なり後坂の國  
 池坊に立り當坊住持の中東唐法師とて衣を授けし其衣のたし金衣とて  
 感のい立の秘を靈衣とて傳へりといはれ其衣のたし金衣とて  
 錦天社系極錦小谷山乃當ありなり所天満天神と鳥居は額に天満宮と  
 書き青蓮院尊英は親王の御を拜殿の額に寶鏡寺官理より尼公の筆と  
 聖自時よりて紫雲山歡喜光寺河原院六條道場號は同基一遍十の  
 聖聖戒上人とて二年二月十日寂當寺の旧地は東二條本願寺の境内に在り  
 寺あり千鳥池當寺庫裏の池あり 坂電土河原院の境内に在り  
 本當社の寺内の鎮守ありて古いた大社融る衣をばり中湧り  
 天満宮を勧請しとて

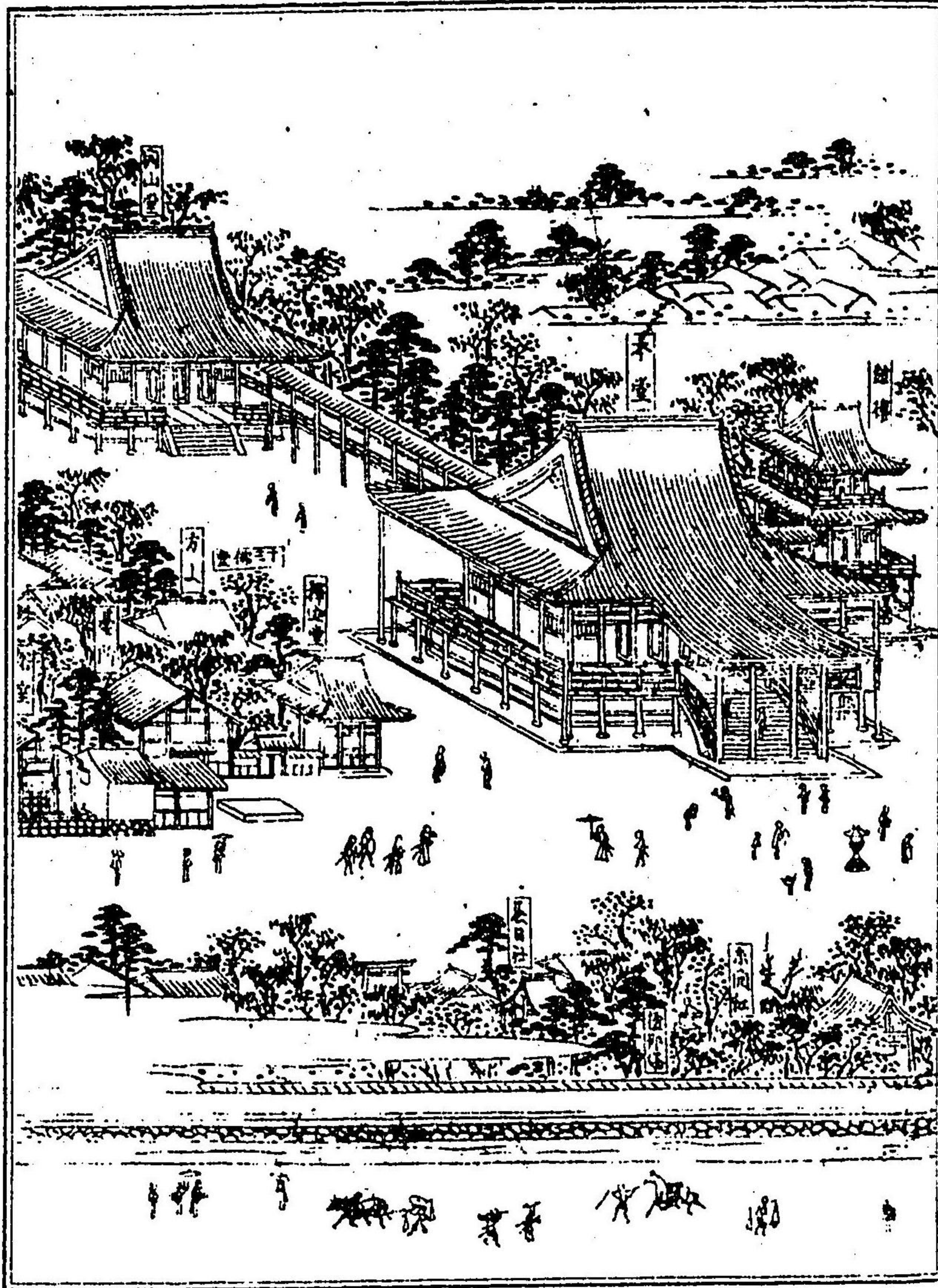


錦天神









誓願寺



和泉式部  
 誠心院の西光寺の  
 小浄堂あり  
 四十米の長  
 より尼ふあり  
 誠心院乃  
 小浄堂あり  
 専末末の資糧と  
 一遍上人誓願の  
 現れ上人の回  
 曲の縁とも

大本山圓福寺の京極通四條坊門  
 義の一本寺  
 本尊阿彌陀佛ハ法然上人の作なり  
 佛ハ石像なりて長二八傳教大師の作  
 長金寺の誠心院の西向の一言堂  
 清帶寺の西光寺の西向の一言堂  
 他有り  
 誠心院の西光寺の  
 本尊の河津陀佛脇壇の白道長公  
 風の果を有たり海乃音  
 言水

誓願寺の極二条のの清土家よりして源州流義の一本寺なり本後を  
 天智天皇崩基の惠隆僧都より和列平儀の植武まを建龍の後上  
 源信僧都一替り住し十餘世の後藏僧之誓願寺通小川の西より住る自注師  
 僧正法然上人の法體を傳入し傳主宗とるる本尊阿彌陀佛ハ長八尺八寸坐像  
 して佛工賢人の子なる國兩人の化有り又春日大明神を尊と仰りて授  
 助の故春日の神化といふ佛而一奉字の名有りあれ天智帝の老僧あり  
 額の大覺寺空性法親王の筆當寺再興大施主大相國山侍方六字額一編  
 上人の筆と堂内の壇上より天智帝の養子慧隱和尚の親と安良之重  
 塔と云ふ和八年に草創して本尊の谷葉師より開く堂といは然  
 上人の像あり釋迦堂より寶冠釋迦佛と安を及鎮守ハ春日明神五輪  
 石塔の秀吉公の愛妾松九殿の墓以て再興の施主ハ檀那塔と云ふ  
 辨慶石の方士の石假山のよあり辨慶石の方士の石假山の西柏石と小方士の西  
 半洗鉢をふり羽二重井の方士のあり辨慶石の方士の石假山の西當寺に什物と烟除佛舍利を  
 弘法大師より傳來と云ふ法然上人の「牧記法苑珠林」と休和尚の字あり

養具の中塚ハ源州の社丹のくくくして古作ハ分明儼々其文小曰  
小塚ハ源州の社丹のくくくして古作ハ分明儼々其文小曰  
 傳阿法然法如素 安坐蓮華上品其皇  
 尼入道同愚癡輩 一牧起請文取奇哉  
 南无阿彌陀佛  
 け外建廣虛堂つぬとの唯法然の一人まゝと  
 存する我々今日より淨土宗に成すは究賢く  
 應仁二年二月五日 新開恩院主 一休判  
 佛所所さぬ  
 當寺の境内より紅梅數株あり如月の夜ハ都下れ人々くふなり  
 未用紅の艶く色を賞して美観と云  
 立あゝぬ本と云ふしと云ふ梅花  
 塔中竹梅隠す小塚遠列の殺害屋あり塔中竹梅隠す小塚遠列の殺害屋あり  
 絶倫といは長仁院の住持境とせよと云ふ



空也堂縁くくの葉を  
 刺さるゝんじり樹上  
 云々此中夜寝かす  
 云々此中夜寝かす  
 空也上人の教を  
 依りて空也堂を  
 築かれぬは供一具を  
 法入ふてまじり  
 疾たらし平愈  
 して女者も  
 奇のいぬ  
 わりたる  
 空也堂の  
 ありて  
 年中非  
 とし  
 くら



柳水は西園に  
 いひ所に  
 入は  
 又柳成  
 の

井雲山極樂寺光勝寺の四条坊門坂川の東敵町あり空也堂と號す  
極樂寺高泉和尚の著るべき堂の類  
極樂寺の坊門跡の筆蹟あり  
自化の像を本尊と稱す及脇士の地藏毘沙門天之北の脇壇に坐像の河津法  
及安坐は是行基の化之又空也上人の像あり  
法師の像は安に杯空也上人延喜帝第二の白子ありしが塵外れ無為  
坂樂代志願はしくくは遂に出家し玉樓金殿とまいで山鞍馬は奥  
小蕭然として山居る人際鹿をたてて用坐を慰くる上人曰く憐れ其智と  
愛のゆゑ平定盗とてゆるす平定盗とてゆるすの遊獵して鹿と持たり  
けしむ力て討てしゆはい上人ふ然傷一具鹿を獲てはとすきし角を杖の  
頭小狹て常小推り申儀者定盜と上人の法使し歸入し神子も教化し世  
業の道具一頭は有髪は俗神りて衣衣者一  
と風つて寒中より夜と五三時市中身を徘徊し住任生れ因を記し  
坊内六軒あり鉢敷に林に徳止房金堂あり毒以た東坊正徳なる神は乃南坊西  
房寺あり皆空也法師の著るべき堂と號して業あり

上人空也法師の事

山川に末の像ありとありし身は捨つては浮い居りあり  
極樂寺とくはくは終るなりとありし身は捨つては浮い居りあり  
空也上人出遊の延喜三年之月日入寂の天禄三年九月十一日真如會澤川

卿八葉寺にて往生故遂中今年七十也  
上人空也法師の事  
上人空也法師の事

衣替鯉の口  
松尾明神老翁と現し上人は得して白は頭への神供と稱す經の註に於て  
後編よりつれよみありしや空也上人の著るべき堂の類  
既も四十年其妙香の著るべき堂の類

繪詞傳  
空也上人の著るべき堂の類  
善女龍王社の池の中

神泉苑の御池通大宮に西あり  
御池の御池通大宮に西あり  
御池の御池通大宮に西あり

朝日あり  
二重塔の丈日如まは本尊の法成社にありしなり  
裏は時の封境度大なりして天子遊覽したる  
乾臨園と号して近湯次格は別當職し庭中小の巨勢の金圍石を更しく凡

朝日あり  
二重塔の丈日如まは本尊の法成社にありしなり  
裏は時の封境度大なりして天子遊覽したる  
乾臨園と号して近湯次格は別當職し庭中小の巨勢の金圍石を更しく凡



光厳天皇御時諸龍成呪一統中に入法大師天竺無熱沙の觀女龍  
 神と清一天下早魁れ愁いと枝々敷感と世家の小野小町もわがと縁して雲降  
 一踏の宜言とけり羽と伏降れ官人たれ安くと捕む帝清感打あり入  
 位は爵と賜りては所へ又白河院清遊の時移れつらて敷感ありと移れ  
 池中入て金覆輪のた刀と喰めの上りり星より銘板移れつらと崇徳院小僧  
 六条判官為義と此清劔と編とる祇園會とつらに始り弘仁二年三月を後城  
 帝は苑中小於て花打暮あり星を宴の始へ本朝文粹と源順の曰神泉苑を禁  
 苑の具より紅林地廣くと楚夏夜白月中の吾緑池水高くと共江衣眼  
 下と結むとあり星霜漸累り遂に建保十三年より荒廢なる泉久の乱後の  
 武列の禪門築地敷高くと門と堅て修造の具後とありて旧の地なり  
 とえこれの後の流氷は僧賞雅とつら官小申と再興一真言の聖陽とるは北野  
 右近馬場は神泉苑とつら終るつらつらとつらと星久内裏の遺りなり



不來乎樂師

不來平茶師を金の座二条上西側あり奉尊る比叡山傳教大師  
 一刀三禮七尊彫刻しあり日本七佛の一拜有り住昔美濃は横倉  
 に一院の没け安並しあり其演尾張屋と田部に何某右馬允明長  
 とて武士あり明慕尊敬しありに故久二年夏又月京鎌倉乃我  
 又所高名有し七波川の我源も負取又言のなるは此茶師  
 一人の僧と化して草をのみあり人明長足を後とれは立所に  
 疵平愈一本園と歸りしと又寛喜二年夏六月より冬迄  
 冬けく極寒のさくくるれは疫疠流行り死するその甚に多し  
 終りに此茶師院との差又告を宣く一切の危生我前し來は法高悉  
 除るにこれりくとのりしは感涙袖又余りて世に是を福を  
 此貴姓群衆し系消の草疫病愈平愈を後に織田信長は阜  
 在住のしは初藤山城守し茶師を今の所に移しとて其都  
 の貴賤救多信仰し靈驗あり奉委記しとて

みやびし名水園云 三



都名所圖會卷之二目錄

平安城尾

官者殿系

祇園御旅所

四條乃場金蓮寺

十住心院源殿地蔵

大雲院

祇園會館

同山鉾圖

手洗水圖

座頭積塔

累河原夕條家

同芝居

目疾地藏

宮川世川の末

建仁禪寺

蛭子社

六道珍皇寺

六波羅蜜寺

姿見の池

阿古屋塚

胎魔堂

愛宕寺

晴明社

十禪寺社

若宮八幡

五條橋

首途八幡

御影堂

淺の池

塩竈井

奉覺寺

塩竈上徳寺

塩竈社

太子堂

新善光寺

蓮光寺

長講堂

萬年寺大講堂

竹林院

鬼頭天皇

等善寺

橋行半御塚

市中山金光寺

延壽寺

夕殿家

龍の池  
 佛老寺  
 固幡茶師  
 諏訪社  
 一音寺  
 新住吉  
 天造社  
 奉國寺加藤清正  
 古醒井  
 東殿  
 成真寺  
 芥根水  
 道祖社  
 藍染川  
 神明宮  
 繁昌社  
 新玉津湯社  
 壬生寺  
 荒神社  
 所右乃松  
 人丸社  
 興正寺  
 松明殿  
 判官塚  
 月見橋  
 稻荷所  
 稻荷所  
 花岡稻荷社  
 大原社  
 朝日宮  
 菅大臣社  
 同和之圖  
 化整水  
 石上宮  
 醒井  
 常樂寺  
 稻荷宗礼家  
 宇賀社  
 稻荷社  
 藏王森  
 修成御社  
 白天社  
 神明宮  
 五条天神宮  
 蛭子森  
 松極子  
 久養寺  
 西本願寺  
 東本願寺  
 金光寺  
 夜内御智家  
 不動堂  
 寛井石

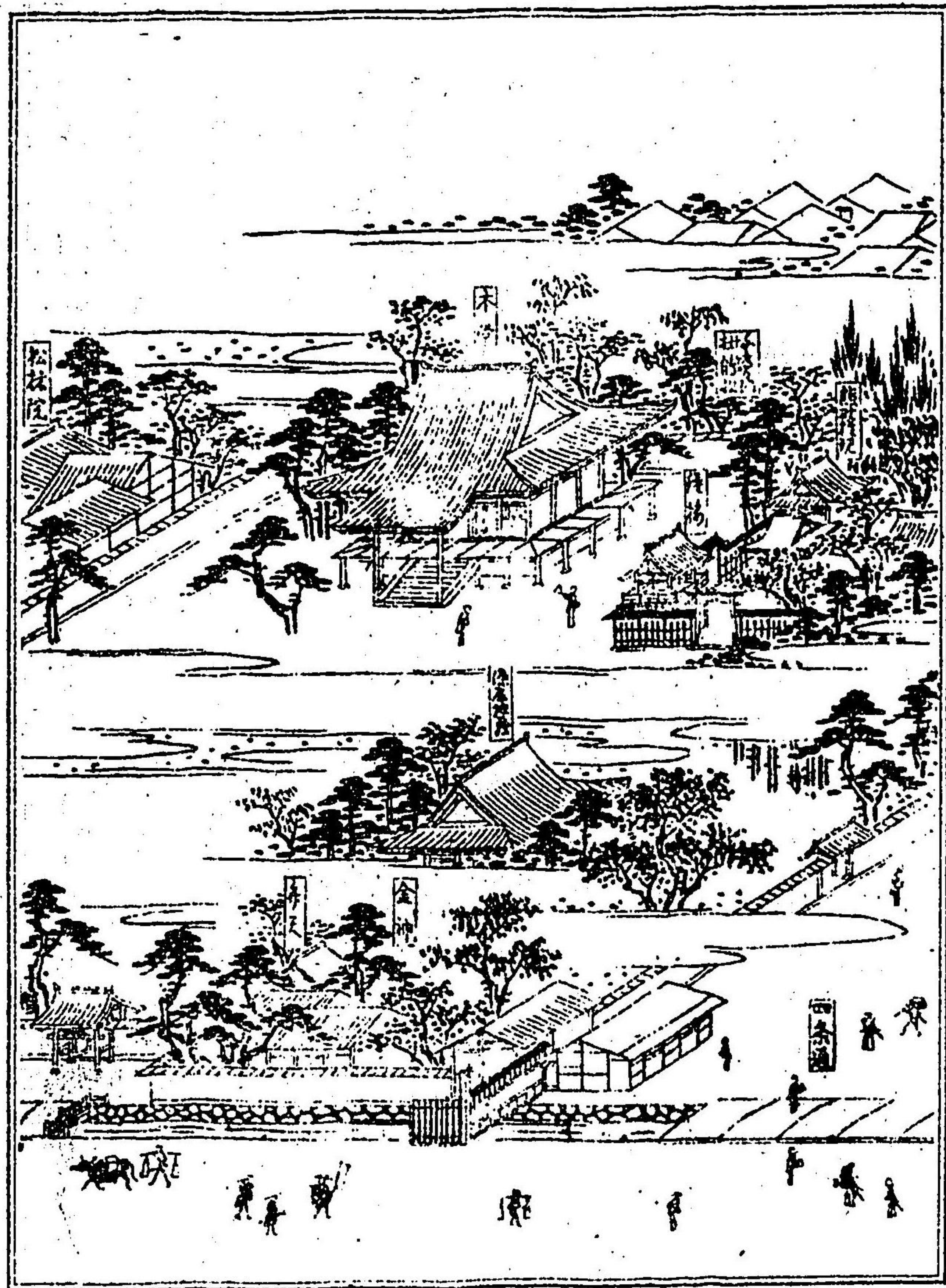
春日森  
 古井社  
 三銘松  
 六孫王社  
 福大明神森  
 古津旅  
 清盛旧地  
 松子坊松  
 誕生水  
 人丸塚  
 宗守長老  
 住吉社  
 夜生門旧跡  
 滿仲公誕生地  
 橋原傾城町  
 栗橋社  
 東寺  
 大通寺  
 歡喜森



十月廿日 北の山 寺にて  
 大僧正 宗元 乃  
 官共 願 宗 乃 群  
 集 津 國 鴨 川 の  
 邊 於 一 の 塚 木 下 へ  
 ち へ ち へ ち へ ち へ  
 其 夜 宗 元 宗 元 宗 元  
 宗 元 宗 元 宗 元 宗 元  
 宗 元 宗 元 宗 元 宗 元  
 宗 元 宗 元 宗 元 宗 元

暖 湯 湯 湯  
 都 都 都  
 酒 の  
 三 三 三 湯

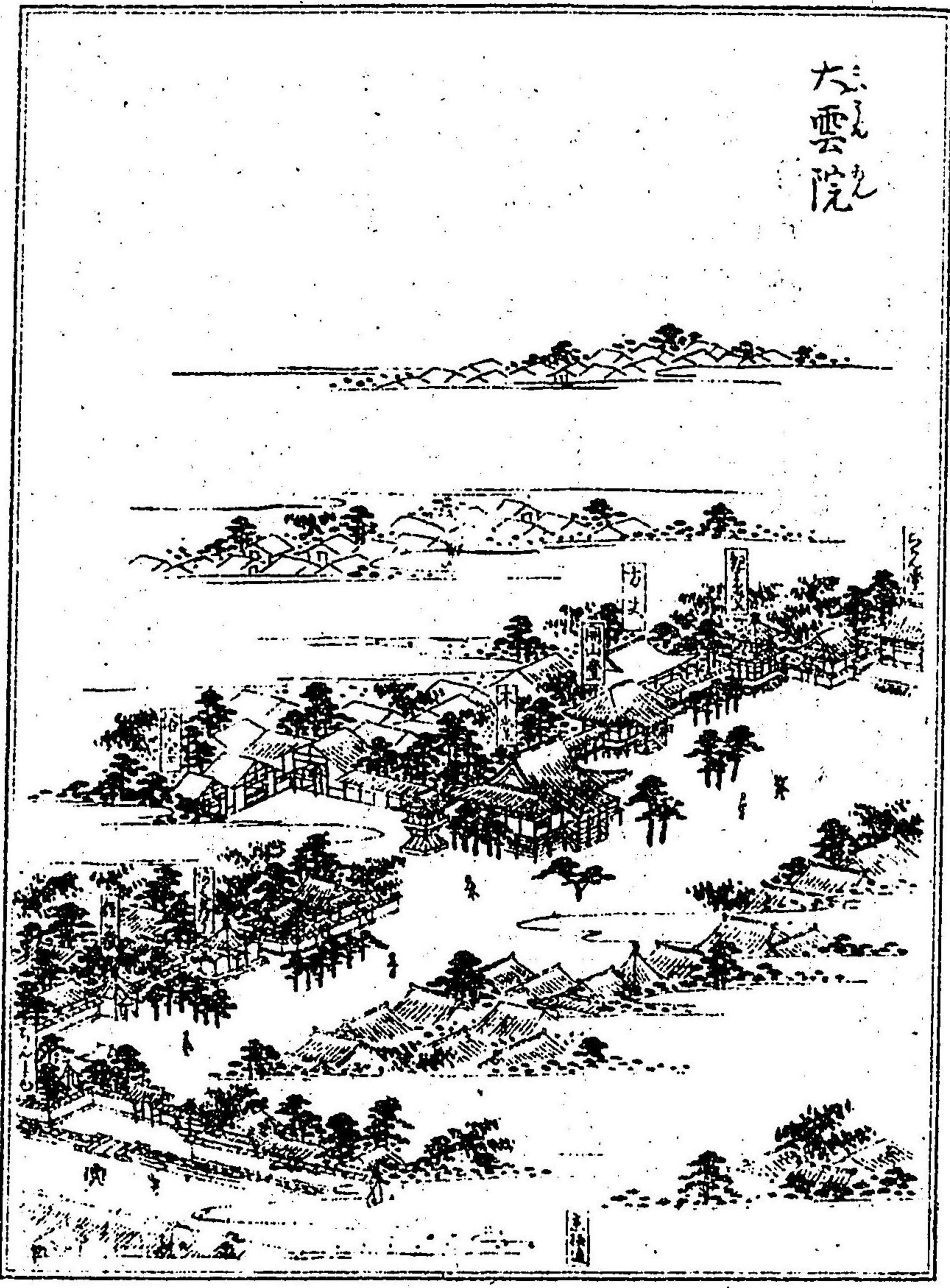
具 角



祇園御旅所  
四條道場



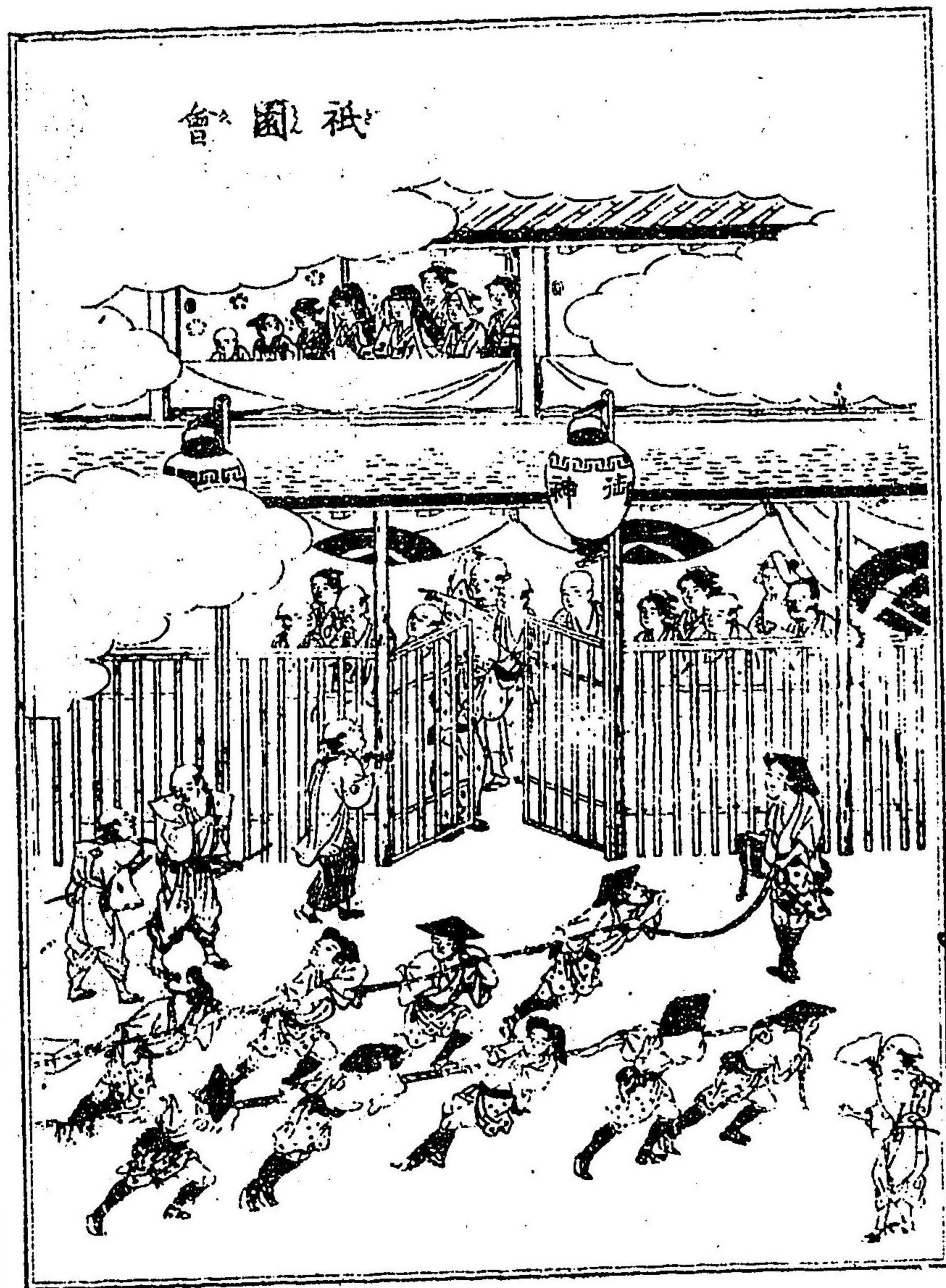
祇園作旅所高系極の辻のり再奉六月七日祇園會の神樂之基  
 け所小神幸一ゆひ十四日小祭禮ありて本殿(還幸一ゆひ)兩日れ小神を  
 多かくけ神前なり候と北の社に素戔尊八王子とあり南の社を  
 少將開天皇を奉る初社一坐の政所と號してむう一為九通五系坊門の  
 南小所後所有 小大の所 少の井の一坐の為九二條のゆあり 今かの井 二坐社 八條  
 春日明神 官者殿 多の所神 土佐防正其の遺教ありて今も奉る 此の社に十月廿日の  
 祭あり 悪王子社 仲旅所 小のり 紙團會 奉禮 奉の 為九通  
 錦綾山金蓮寺の極通四系けゆあり 四系道場 時宗ありて奉る 阿弥陀佛  
 開基と傳阿上人の祀徳也 藏 運慶のゆあり 熊野社 當寺の鎮守ありて  
 杜鶴松 方丈の東ありて杜鶴松ありて 先は樹を築りて 杜鶴松ありて  
 十住心院の四系道場の南にありて 眞言ありて奉る 徳藏尊の弘法大師  
 の位あり 徳藏尊皇后常の尊信ありて 當院に建立ありて 故小所殿也 徳  
 松 類は徳藏と書して 僧正賢の書と



龍池山太雲院と京極四條に南あり侍十宗ありて智恵院も備はる事河  
 弥陀佛の恵心僧都れなりも入国基の貞安上人ありけ人安上論の時候は此  
 文ありて信長公厚く帰依し多し別八幡も西より建立して貞安上人  
 信職の時信長公侍たり明智秀吉を為生害しゆゆ貞安上人侍りて  
 多死を免れし事あり二条馬丸に居りて室敷の事ありて侍喜授と申す其後  
 秀吉公に命じりて天竺の末は織田信忠卿追福のため太雲院を草創しありけ  
 郷のはた多々太雲院殿三品羽林仙藏居士と称ん當院の御出づり信長公に  
 公御向付けし所あり  
 信長公安土小治其城の時貞安上人七種の奇物御賜り今當院の付家之具中  
 には然上人の一枚記清文あり是一體和尚様より貞翁僧授あり圓達上人師  
 の後向は画あり其讚曰  
 蓮花悟りて入りて入りて胸にありて  
 むんてりもるんあくるもの師  
 九年十月とせしむるもむむまは旅の時の旅の二聲  
 一休判

御所所ごへ

祇園會の系式に村毎季五月朔日教齊より四條河原橋町山村と云ふ是乃乘  
 後の田地より同廿日の吉者入り鉾の町々難事初あり神樂は同日晦日して  
 御近桃灯煉物の行旅懸々として洛東の極い六月朔日鉾の児祇園系して  
 系物のついで騎馬とて具行列花燈とほく高貴の住末は廿二日五日の  
 引燈の早夫とて六角堂の井のくも鉾行列前後の團取あり廿日の夕ぐも  
 首宮鎧とて鉾とて廿日のめくもも桃燈かどく連て夜ふりて難事ありとく  
 貴徳は群集のく方あり七日の法園會とて外の村より鉾とてし四條通より  
 系極と南へ松系松西引込とて日神樂の系れ末の系よりて感神院より御  
 旅所へ神幸あり八日より十四日の鉾の宮あり十七日れは團取あり十四日  
 れは鉾の三條通と東系極と南へ四條松西引込とて神樂の系式に河原所より  
 四條松西へ東洞院より神樂の南へ引別とて後あり二條は西へ旅社とて同類し  
 二条松東へ還幸しあり同十八日の神樂洗へ梅日平等祇園鴨川のやくりハ  
 竹葺れ如く群とせり  
 鉾の團の二三等とて今國創系古書の本より祇園會御記



山鉾は式部一  
 あり奥より侍の定  
 許大合人の名を神所  
 の跳神家など車馬流  
 比造り八段舞神と  
 ついありん庄も鹿敷あり  
 八八和漢花錦備地まひ  
 七宝と栴檀の権威を  
 一と天下ののち観も  
 びざー



かまねさん  
 山名は尾の  
 長た日ぬ  
 神の園とせ

鳥家  
 かんあかりん





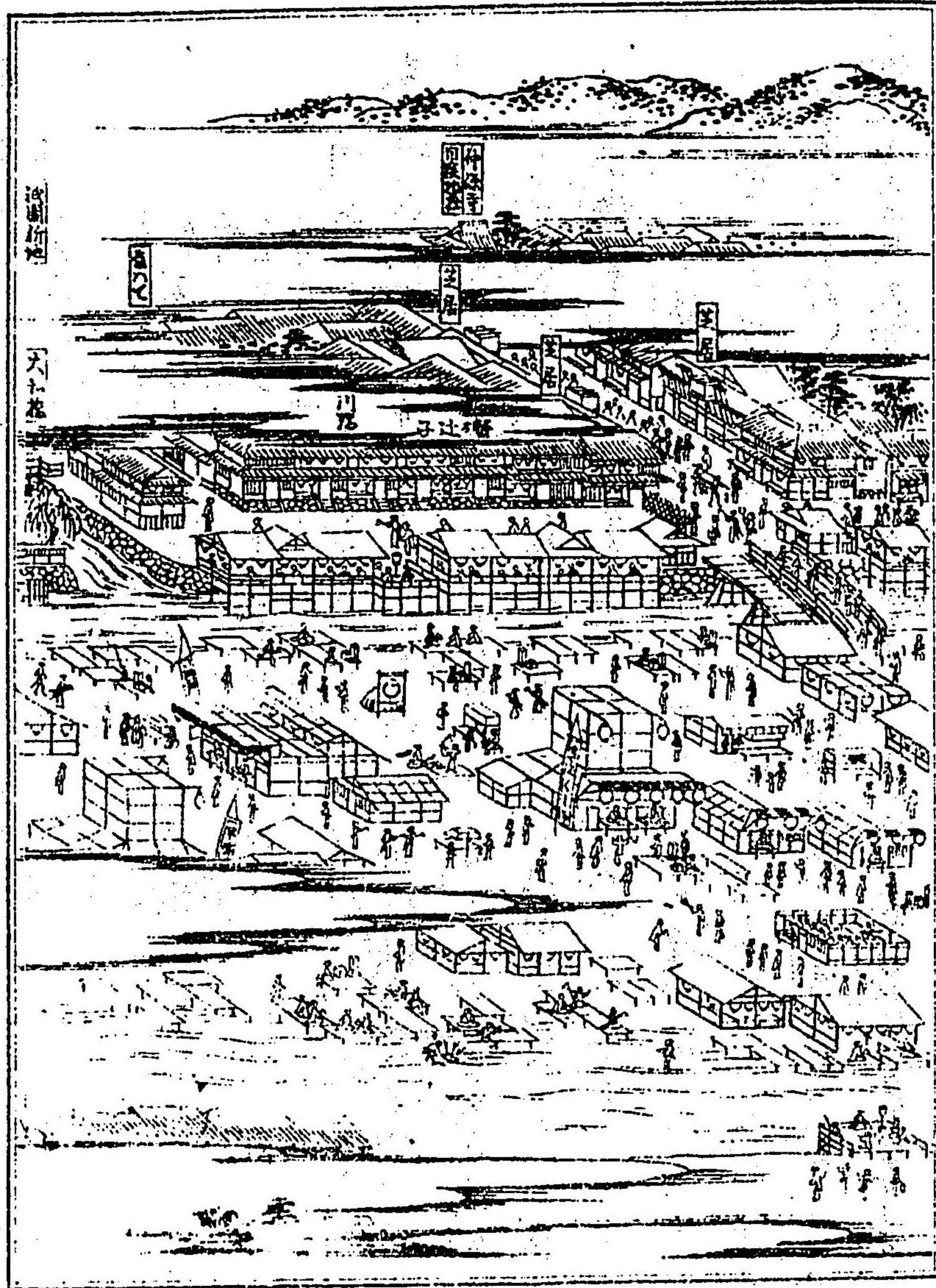
小治は小  
 馬九通綿  
 ありむり  
 大政所町  
 祇園神樂乃  
 所族所あり  
 した糸清の草  
 ろみそふあ  
 け  
 け



今も六月  
 七日より  
 十四日まで  
 井坂  
 水所と  
 湯冷  
 清泉にて  
 水服  
 水服  
 疫





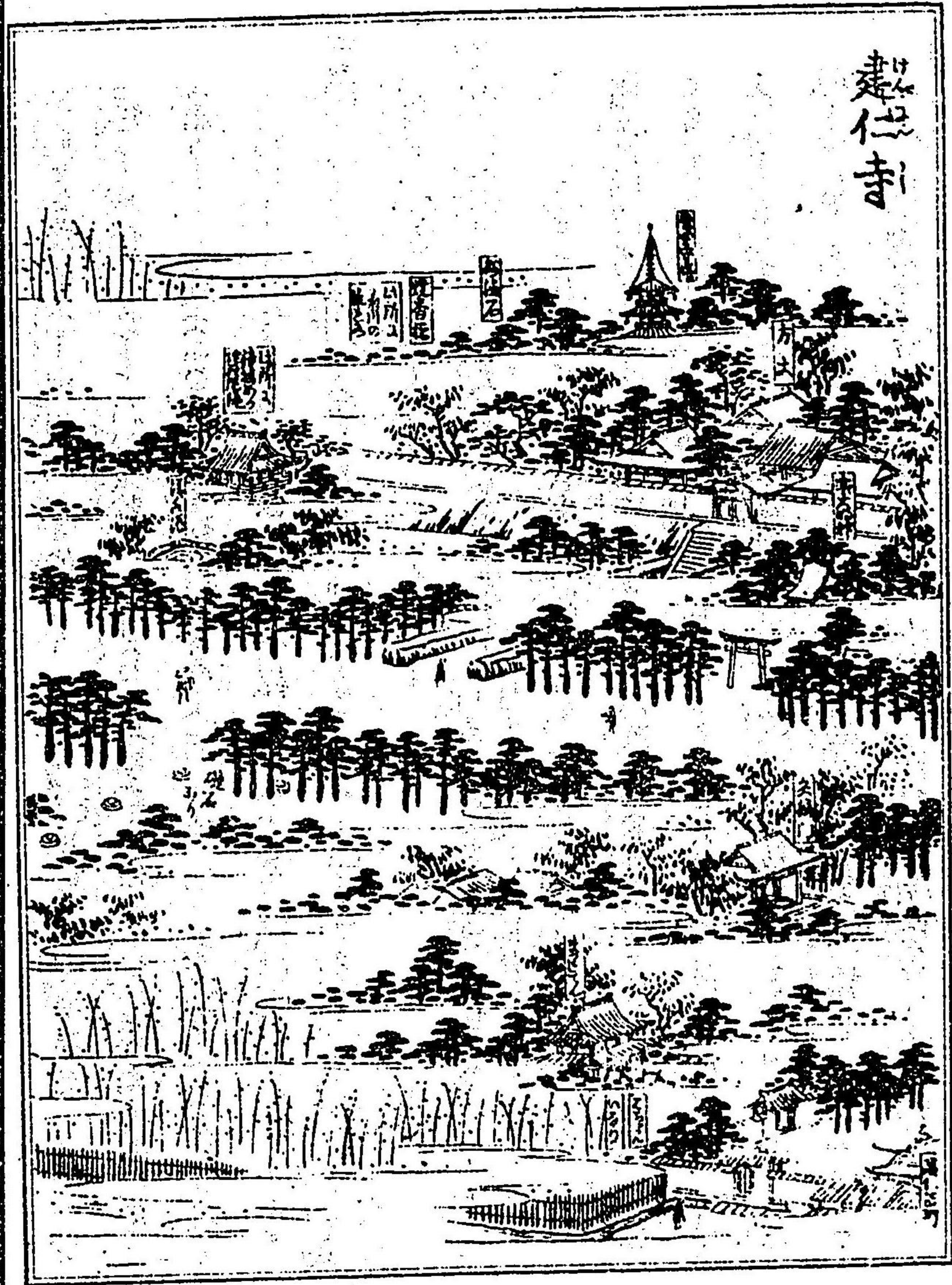


四條の川に... 有明... 海の... 法師... 都の...

川... 四條... 出雲... 男女... 河原橋... 物群集... 兼應... 四條... 仲原...

地藏菩薩... 病平... 宿... の他... 宮川... 後世人...

東山建仁... 五... 國吉備... 七月五日... 寄附... 以て... 興禪護國院...



歸朝の時、提樹の宮院あり、今、今、提樹の宮院あり、今、河原院、佛殿の  
 小二の鐘堂あり、東に大鐘あり、是、融大僧上座の殿舎、融大僧上座の殿舎、後、小佛  
 閣と名、河原院と号し、所あり、鐘を荒廢の後、鴨川七条の南に深淵  
 小流に榮西國師、足、榮西國師、足、官史、官史、許を求て、當寺に招き、當寺に招き、鐘を  
 引よ、引よ、對東、對東、動、動、後、後、國師、國師、は、は、と、と、力者、力者、是、是、後、後、西、西、唱、唱、入、入、國  
 師、國師、は、は、長、長、首、首、座、座、と、と、呼、呼、ん、ん、て、て、了、了、な、な、し、し、教、教、の、の、力、力、者、者、大、大、勢、勢、足、足、後、後、西、西、唱、唱、入、入、國  
 と、當、當、寺、寺、小、小、の、の、と、と、今、今、鐘、鐘、を、を、引、引、よ、よ、は、は、多、多、分、分、中、中、に、に、運、運、送、送、さ、さ、る、る、は、は、所、所、謂、謂、り、り、鴨、鴨、川、川、七、七、条、条、の、の、南、南、七、七、町、町、  
 又、又、後、後、毎、毎、夜、夜、子、子、の、の、時、時、り、り、教、教、九、九、十、十、聲、聲、棒、棒、を、を、晨、晨、鐘、鐘、の、の、八、八、十、十、聲、聲、の、の、合、合、百、百、八、八、棒、棒、と、と、音、音、の、の、陀、陀、羅、羅、  
 尼、尼、經、經、の、の、誦、誦、と、と、撞、撞、ゆ、ゆ、は、は、此、此、鐘、鐘、の、の、聲、聲、に、に、建、建、仁、仁、寺、寺、に、に、陀、陀、羅、羅、尼、尼、の、の、地、地、法、法、水、水、池、池、と  
 號、號、し、し、中、中、門、門、と、と、名、名、す、す、と、と、呼、呼、ぶ、ぶ、平、平、家、家、は、は、一、一、門、門、關、關、教、教、監、監、也、也、禪、禪、居、居、乃、乃、は、は、摩、摩、和、和、支、支、天、天、安、安、  
 長、長、久、久、曆、曆、一、一、年、年、唐、唐、す、す、り、り、將、將、來、來、り、り、佛、佛、像、像、の、の、應、應、驗、驗、を、を、て、て、妙、妙、徳、徳、石、石、の、の、方、方、の、の、燒、燒、木、木、橋、橋、の、の、石、石、橋、橋、の、の、樂、樂、神、神、廟、廟、を、を、國、國、師、師、に、に、勅、勅、遣、遣、り、り、て、て、當、當、寺、寺、に、に、鎮、鎮、守、守、す、す、は、は、中、中、玉、玉、吉、吉、徳、徳、津、津、三、三、の、の、尊、尊、三、三、神、神、也、也、  
 安、安、國、國、寺、寺、塔、塔、の、の、鐵、鐵、田、田、有、有、樂、樂、塔、塔、の、の、正、正、徳、徳、院、院、あり、あり、別、別、有、有、收、收、納、納、の、の、由、由、也、也、

愛宕寺



愛宕寺



蛭子社に建仁寺門前ありなり所蛭子命宗西園師勅法しゆり  
建仁寺境内の存跡  
一〇〇〇年九月十六日

普賢山念佛寺の六波羅密寺の西ありしりしときまきりて今いかに  
當寺よりなりて世人愛宕寺と稱し

真言宗なりて同基弘法大師中興を千観内供を本尊觀音千観の他

ありたるの脇土の毘沙門地藏尊千観内供自他の像を安んじ人姓の橘氏

相列の刺中納言頼顯卿の子の幼名千観九つに依長とて叡山運照

内供の室に入て出家し顯密の碩学ありて一世の同常山宮に佛號を

修する事止まらば故に念佛上人とて入堂内小地藏尊を安んじ

像を伏地地藏と稱して每歲正月二日經を讀て法人史仗の札とて後

と天狗宴と稱し車寄松は千観内供はの車寄まつてはま

普陀洛山六波羅密寺の六道の西の真言宗なりて和積院に属する

十一面觀音の立像長を空也上人の他は西園寺に傳れ所又洛陽傳一曰  
村上帝清より天曆五年小疫時行て死するの報を後定上人より伝

憐の十一面觀音の像を能く車小洛中夜自車ありたるは當寺

本尊を觀する供と曲を夜疫人のあつる一日は平愈は村上帝清れと

はるして表例く無厭之衣服のど方民今に例とわると多衣王服と

號し年中に夜を色くあり北の方の地藏尊を安んじ

とまの康禱の物事小日東の食をありたりは地藏尊を信するは女は老を

乃倍そ人出まて何のゆくみくく教をゆり同々は車の御ありのまたり

之におり其言しゆひゆりは女味しこりたりなりは相には夜に地蔵の

為ゆりしては地蔵とてしとりの地蔵も持て居るは

南に方へ師佛と安んじ傳放大師の他は同堂の空也上人自他

は像あり次安んじ池の上人なりと安んじりし自像をきよみなりと

阿古屋塚 本堂の西のありて茶臼の樹あり古塚とよ  
空也上人のせむを相傳はるあり  
神屋よりけりし神事

弘陀のひん空くまらるる我けの神といれり



上人の伝説

世の中らるるあるの世をくわたりての世は世ありたり  
一尊もあまの佛の人の世は世ありたり

坊皇寺の建仁寺の南松系通あり

開基の慶俊僧都中興を弘法大師堂堂より小野堂に像を安置

道元上人の遺廟堂の東に方あり建徳の七月九日未指に人け種松橋

て聖靈を定むりて六道は

天皇延暦十二年小長園をりけまよりのむけ所と法人の葬所

定めぬ由延都記よりして

北本堂より一六道の東に町あり北辰辰ありて松高塔ありて

くけり城南淀川の園松運送の目常夜燈とやの熊野に謡曲

北本堂の曇をぬれ祖の足之應仁の兵火より

燈籠の御まつて苔の燈に松橋あり

吾妻の奇縁として今も芝の所給あり

晴明社の宮川町の東松系の中あり古は比安陪の晴明の塚あり

新道の入家花園よりして次は家前平地なる故に社は建具を

十禅師社と晴明社の南ありむりて境地廣くして樹林木林あり

此林の松千軒ありて武藏坊の慶もいれは主統れ給て

若宮八幡は五条橋東五町よりなる所清水と同神之初は六条佐女

小あり故に佐女半八幡と號れ

は所あり

五条橋を初の松系通より別つての五条通を秀吉公の附け所あり

五条橋通より密に條坊門に桐干共紫銅擬寶珠左右二十六本あり

小の方面より四ッ目小橋の銘あり

奉行 戸浦 祝吉 奉直

此橋上は米より赤い向の橋本の勝本の間く

浦園着く夜くることくやふり

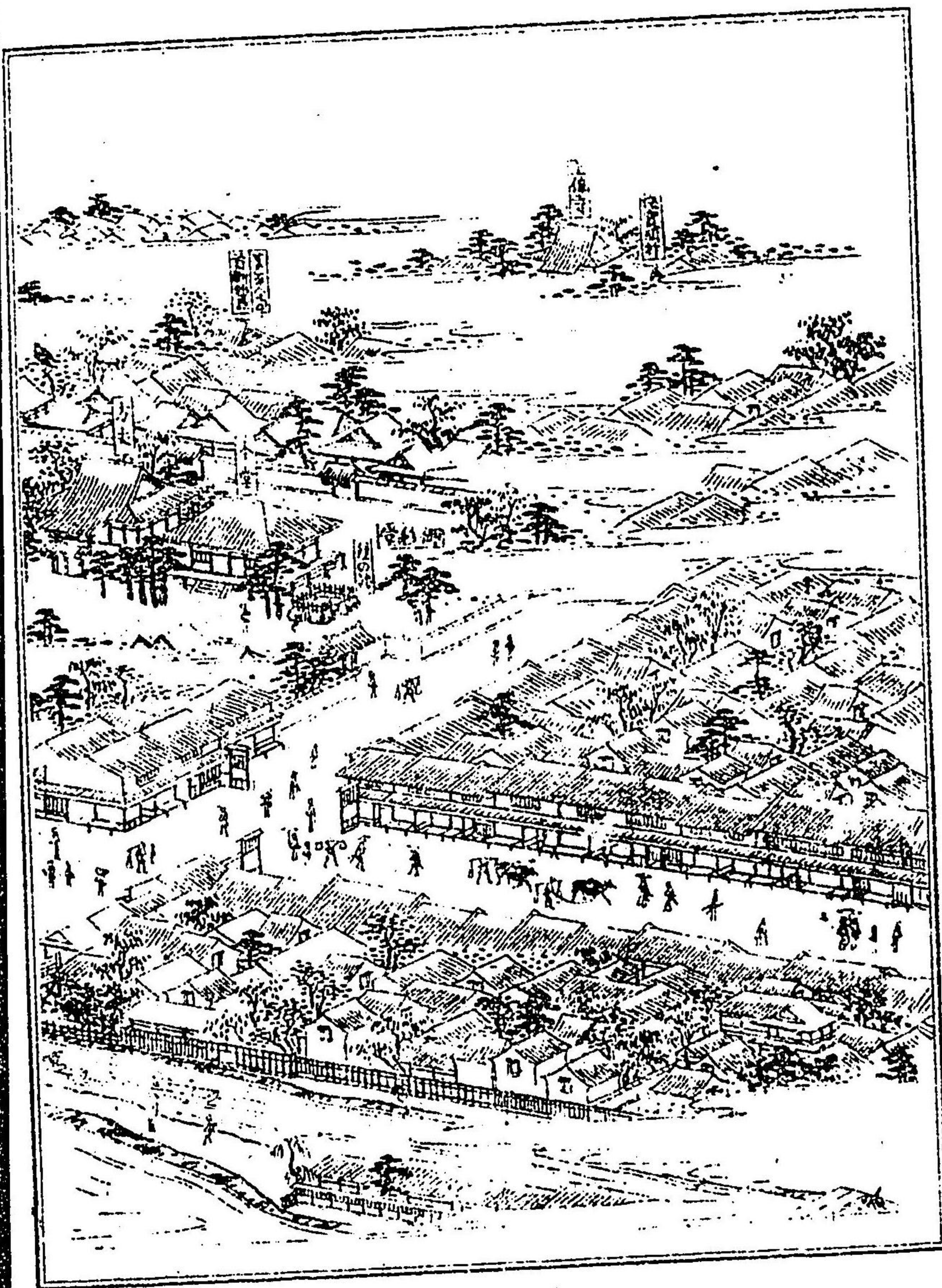
嵐野



岩宮八幡



五條橋



松豊八幡宮の五條橋西爪の首途八幡と称して清和天皇の御宇に貞観年中  
 草創なり其後皇子の貞純親王の御靈を奉養親王の息子の孫王經基公尊  
 崇なりて宮殿樓門葺重再建も封境廣大なり 外封境は十二門あり  
 新善寺神影堂の首途八幡の西のより代天長年中搦鉢谷の建以めん  
 開基弘法大師之中興王阿上人真言を弘め及て時よりあるを弘法阿弥陀仏  
 の安阿弥の位なり 初の本寺の信譽は善寺の如きなり 故神影堂より今中封境なり 脇壇あり  
 一遍上人の像王阿上人の像を安ら方人の名を二尊して阿弥陀観音勢  
 至の弘法大師の位則に法御帝の御持佛の鏡の池に鏡井を堂に而せり  
 地蔵堂の方丈の邊に 當寺始に東洞院春日あり 棟木寺の別所なり 安永年中  
 新町の山より入る正坊中心の廟を建てて業をすんす 其古名安永年中 安永年中  
 院尼公此寺に閑居阿古女御加封なり 其具領後法御帝御宇に安永年中  
 當寺の位藏祐寛阿闍梨所修除滅の修法を加持す 阿上人の位 又後封納して  
 帝の御宇に即平愈は 天皇の御宇に 所當寺を再興 初興より 王阿

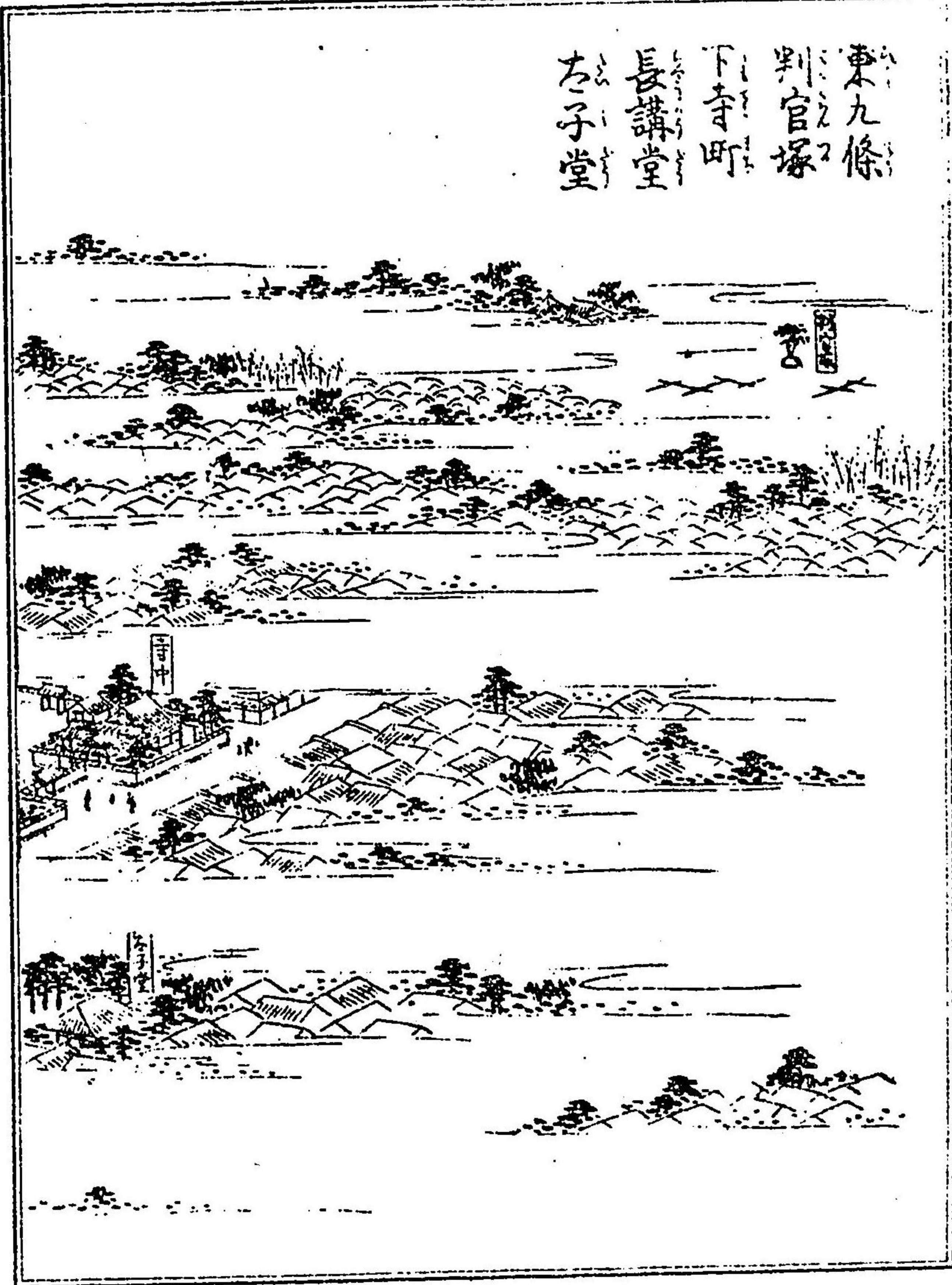
上人と号する廟い若くしてせうを初とあり高貴に献して都鄙に賞  
 賜を蒙りて

河原院の旧わら五條橋通万果法の東八町四方あり 所は融た太の  
 別荘にして墨岡水石の庭を造り遊園を美を擅しと安永年中草創なり  
 四時を越えぬ池と鑿き水を湛へ鳥の戯れ陸奥の松後及び山形津  
 之の白梅を潮と汲せ曾法師の仙臺を調六籍月殿を敷ひて之を荒らふ  
 後寛平法皇は勝地を遊歴して東の修院と號を具は佛園とあり融と號  
 三の字に法陀林寺の本主に康上人の如法とてあり之れ釋迦佛の依り  
 ては院に安永と号す 今融橋の南畔川高杉川の河川あり  
 融上人の遺徳をしのむるに 今融橋の南畔川高杉川の河川あり  
 融上人の遺徳をしのむるに 今融橋の南畔川高杉川の河川あり  
 融上人の遺徳をしのむるに 今融橋の南畔川高杉川の河川あり

本尊寺の下の寺阿弥の角あり浄土を以て智慧院と號して本尊阿弥  
 陀佛の安永の他一名如法佛と號して開基の上の上人なり



本覺寺



東九條  
判官塚  
下寺町  
長講堂  
右子堂

地蔵社のなまをまの西上徳寺の鎮守とあり所難化人なりて則地蔵といふ  
號と本尊阿彌陀佛の八幡の他同基の徳譽上人あり

さる堂白毫寺の上徳寺の南あり 建成就院 示旨の律宗よりなる聖徳

太子の清自化の南無佛の像長き人今之賜壇の四天王の唐化なり

同基の忍性律師を舊の知恩院中門の北浩玄院の後あり 今其地ふし井

慶長年中知恩院再建の時なりといふ

米造堂新をまのなまをまの南あり本尊阿彌陀佛の信濃國善光寺といふ

禱るる本尊我助如來の示記を蒙りて百餘の像を齊明王の同像極金十斤と銘

朝一如來と銘とて爐壇を據る其地中より分身の像現れり

負別阿彌陀佛の米造堂の南連なるなりけ本尊が被末中以東國の僧都なり

佛工安の流阿彌陀佛の像はた大徳徳徳 帰らんとす

ありて是神の今を拜せんとはるるなりけ科卿とて述つた言と語み  
の傍則名を用いて尊像分身と二稱とあり一人の黒のいといふ

東西看より別る其地は今の科の原なり

馬止地蔵 一て馬一むといはる後

後白河法皇の御代に及建堂の南長講堂あり

幸ありて貴賤と論せられ殿園と達する七魂と名帖に記し

と修めり所を故小長講と稱す 平家物語

萬葉寺の南満堂の長講堂の南あり初の間なり

鬼頭天皇の御代に及建堂の東南竹林院の堂内あり

の官女とて初建堂の時よりあり

猶行平御殿の竹林院の南を寺あり

市中山金堂寺の時よりあり

市比賣社 當りあり

延壽寺の金堂寺の南あり

五條の松あり  
 八幡町松あり  
 源氏物語にも  
 うほのおいし  
 夕のうらみ

新古今  
 夕のうらみ

白き花あり

夕のうらみ

夕のうらみ

前を政大



離の池に高倉五條の南宮仙寺の堂前あり井あり舊河原院の封境ありて

真遺跡あり昔より昔月洞ありて因基天江和尚と  
本堂の類ハ 五水がせり

藍染川の五條高倉を經て同之町より八幡町下を南へ流る瀬水あり  
又も河原院に於て 瀬水あり

花岡稲荷社に松系通高倉の西あり  
稲荷町に松系通高倉の居所ありて

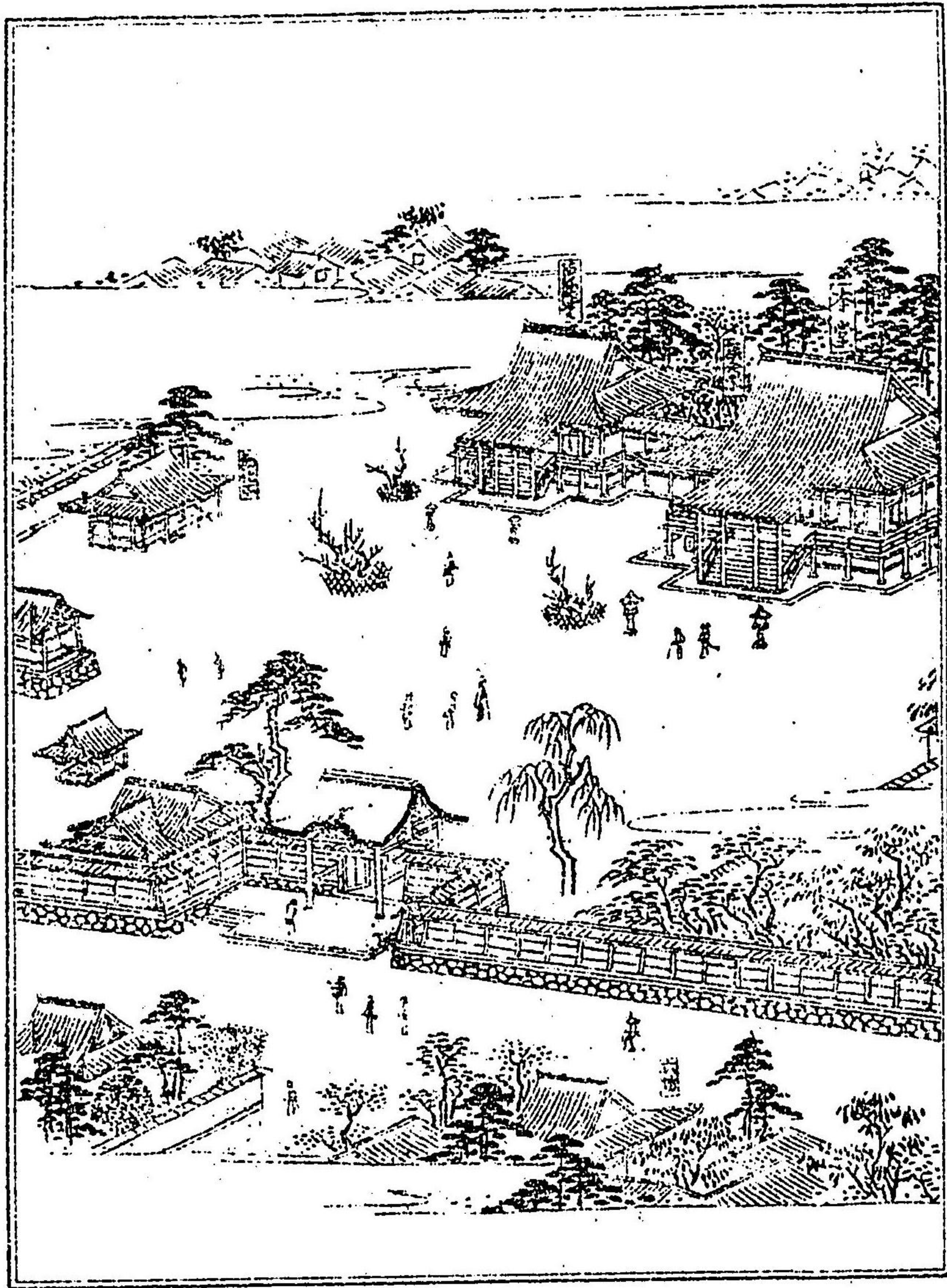
俳書所集校撰と  
古本に書きしは五條高倉の南にありて

五條高倉の南にありて  
又冬の名をともては想稲荷の社にあり

小車社ありて  
又冬の名をともては想稲荷の社にあり

俊成郷の社に松系通高倉の南にありて  
十載集にありて

俊成





汁谷山佛堂寺は五條坊口通あり、此寺は聖人の弘法して佛堂寺  
依と社に本堂あり、阿彌陀佛聖人自化の佛堂と云ふ、此寺は阿彌陀佛堂なる  
の多像の阿彌陀佛と云ふ、此寺は阿彌陀佛の像を尊に後醍醐天皇の御代に  
盜賊寺内に入り、直像と集ひ、此寺は直像と集ひて寺名を直像寺とす  
去れ、其夜より、此寺は去れ、其夜より、  
さるの、此寺はさるの、  
寺に遷座し、寺に佛之寺と改て、此寺は寺に遷座し、寺に佛之寺と改て、  
繪詞傳と書し、此寺は繪詞傳と書し、  
徳を自化の本像法然上人自化の像と云ふ、此寺は徳を自化の本像法然上人自化の像と云ふ、  
第三代覚知上人の息を尊上人の息に、此寺は第三代覚知上人の息を尊上人の息に、  
當寺の草創、此寺は當寺の草創、  
一徒弟の上足、此寺は一徒弟の上足、  
花園寺と聖人の附して花園院とす、此寺は花園寺と聖人の附して花園院とす、

九十四代の寺、花園院の附して花園院とす

後醍醐帝の御代に、此寺は後醍醐帝の御代に、  
東の阿彌陀佛、此寺は東の阿彌陀佛、  
至、此寺は至、  
尊信の僧侶、此寺は尊信の僧侶、  
の住職、此寺はの住職、  
教輩、此寺は教輩、  
に、此寺はに、  
四條、此寺は四條、  
場、此寺は場、  
神明宮、此寺は神明宮、  
大原社、此寺は大原社、  
高麗、此寺は高麗、  
白天神社、此寺は白天神社、

丹州、高麗、白天神社



因幡堂平等寺の松原通馬丸の寺務の天台聖護院の住持僧眞  
言宗の本尊兼律師如來の像を長江の二つ具名盤の上の支那の殿士  
の日光月光十二神の像と安んずる傳記の白の奉尊の空城園精舎四十  
九院の内東山の角隈の院の奉尊の梅檀木の像として釋尊の心く初  
の聖容の如りの伽藍破壊の及んととの耐東方として飛去の一人  
一條院の住持長徳三年因幡國賀露津の海面より飛去の國司攝行平  
郷漁人の命として綱をもちて海を渡りしりて明赫堂の兼律師の  
奉の其後七年後經て長保五年四月七日に行平郷の居館馬丸高はあむとて  
飛去の一人 後先聖座の同州より 則に銀の佛圖を造りて奉尊の一人今因幡堂  
されを領行平郷の息光朝禪師の刻寺務の長保元年四月八日高倉  
院より勅額を平寺寺と號と永曆二年以後月院は所奉の一人今の  
堂六足利義教公の再建より攝行平郷の教像の堂内西の間の安んずるの同  
天夜以社と名を 後先聖座の同州より 鎮守は後白河帝の院宣よりして十八所の社を

勅請の 後先聖座の同州より 親善堂の本尊の慈覺大師の化愛深明王  
弘法大師と堂内より奉尊の佛堂の本堂の西より常の恒連と號し 永年三月  
佛堂のありし日 後先聖座の同州より 執行樂王院より大黒王と安んずる 僧院の祇園寺  
二月七日は所 後先聖座の同州より 執喜不動明王と安んずる梅の坊抄坊より 將井社と號す 稲室社  
社と安んずる又虚空藏と安んずる西之坊より金毘羅と安んずる桂方院の橋  
社あり不動行者と安んずる長伯寺の裸形阿彌陀佛と安んずる慈覺大師  
二條社の禪の禪の女人成佛の證の坊より 後先聖座の同州より 阿彌陀佛の春日の  
化る 後先聖座の同州より 又粟持明神妙見菩薩と安んずる角の坊より 後先聖座の同州より 稻荷大明神  
又當寺の本尊の日本三如來の 後先聖座の同州より 具一として釋尊と世に尊像と  
御用ありし勅會は法事音楽寺ありて嚴をくら代われ 後先聖座の同州より 天竺尼年  
ふ 後先聖座の同州より 毎月の勅使奉向ありて 後先聖座の同州より 祈禱の足と兼律師 後先聖座の同州より  
教團の高辻新町の東よりある所辨財天女 後先聖座の同州より 當社門之別町  
の倉地社 後先聖座の同州より 九月廿日

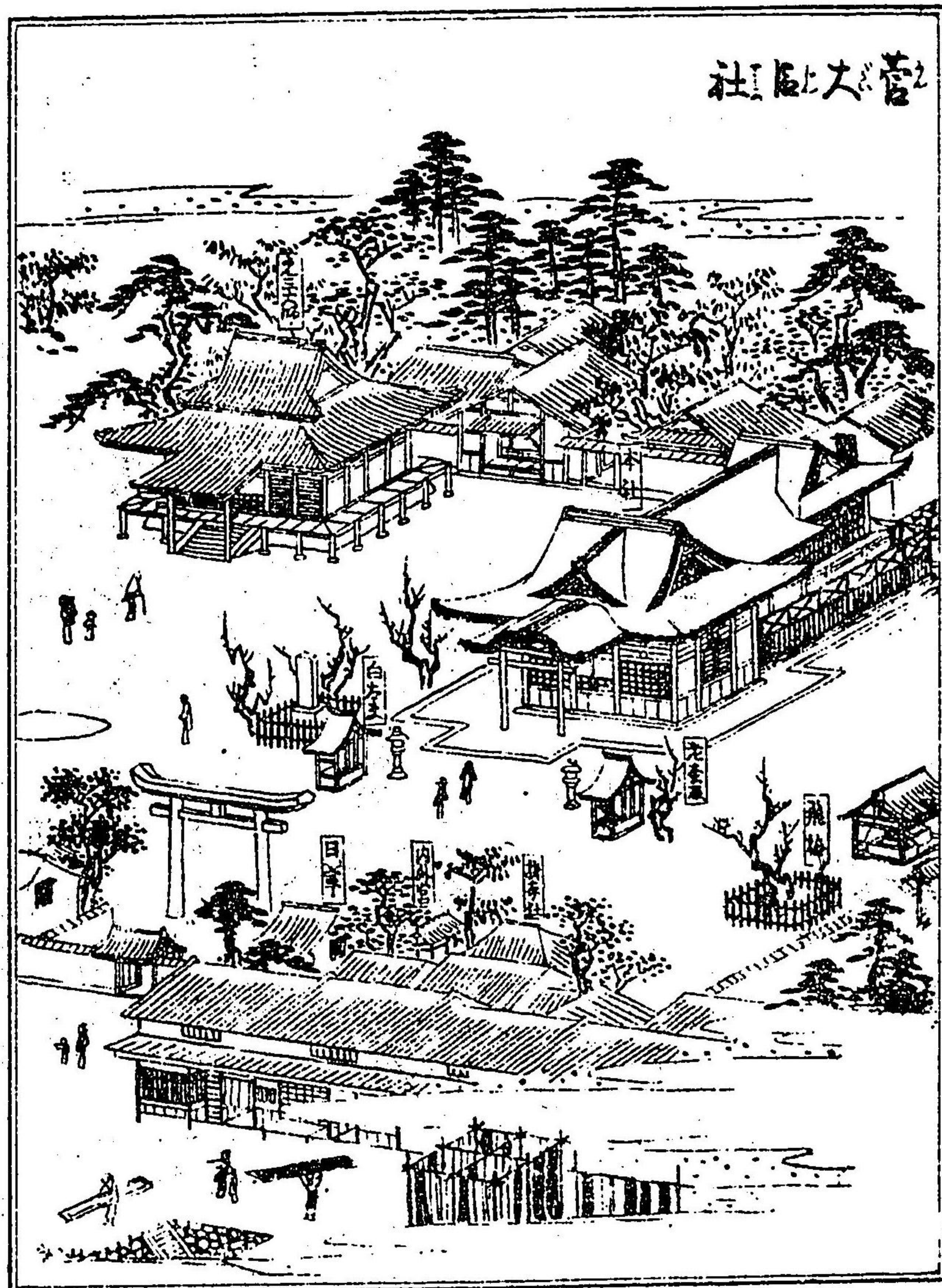
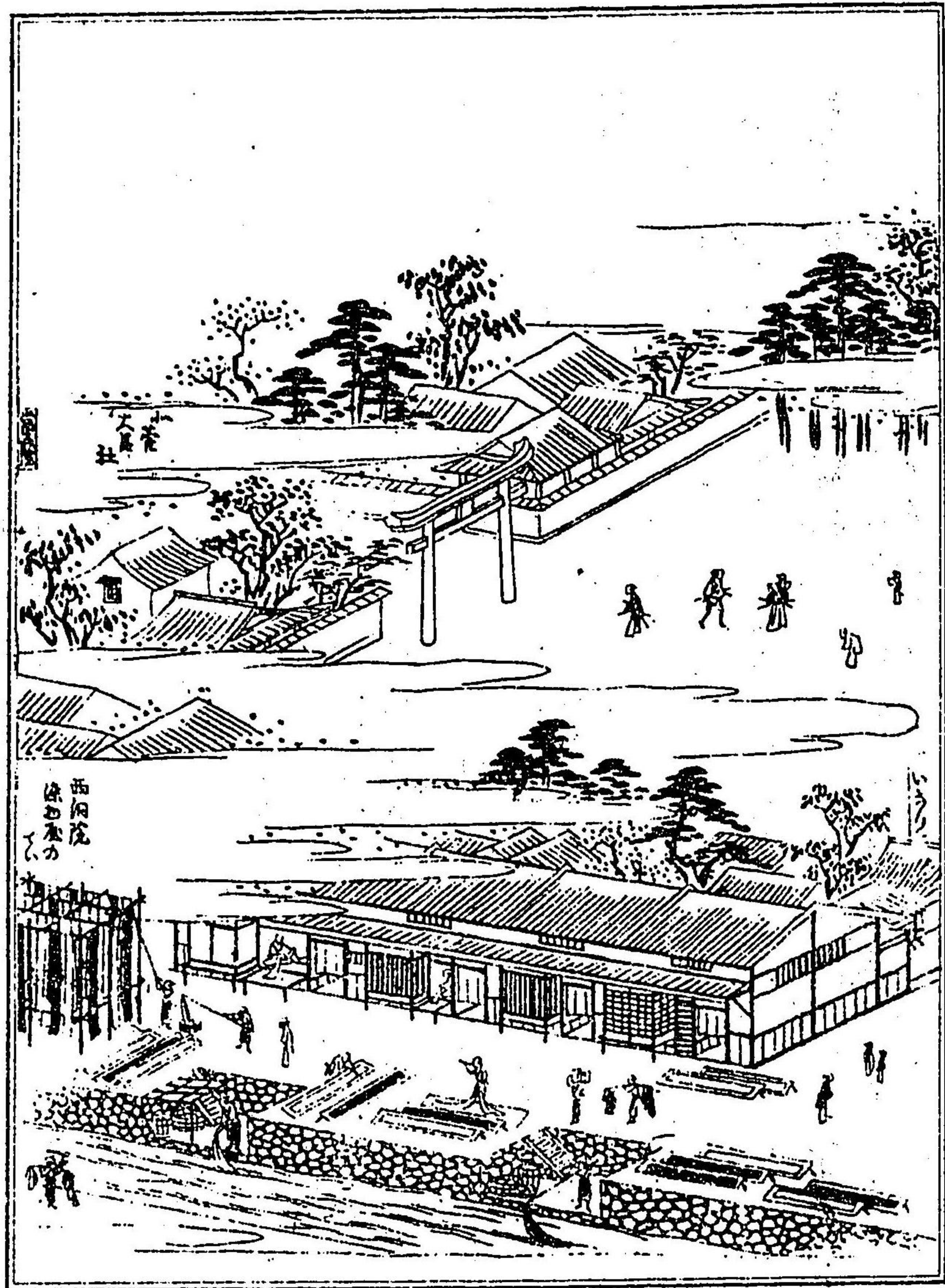
朝日宮の白山通 五条の北ありて新天照を祀り諸社なるの清平貞観年中倭姫  
 神宮の白山通 丹波國東田郡穴生村に造宮し其後正親町院清平二年に令れ地  
 小遷座に 九月 按田皮神石 飛梅天満宮 本社の内より左半座飛梅の  
 神明宮に白山路八條にありて北此の社大匠の殿舎に封境して地は祭を社宮遷  
 拜所之清世ありて社と建る 在り右の通り  
 諏訪社五條の南二町後坊町ありて新天照神宮と名神あり 社宮を合ふは社に  
 新玉津嶋社に松東通玉津嶋町ありて新天照神宮と名神あり 社宮を合ふは社に  
 の勅信 孝徳天皇十一年十月十二日之 爲家天皇の御社に毎月六度  
 たのむらね報らるるは社に初玉津嶋社 前太政大臣  
 菅大社に五條坊の西側ありて新天照神宮と名神あり 社宮を合ふは社に  
 十六日拜殿に額大は宮と書け 竹内門跡良治 天満宮降誕之地 社宮を合ふは社に  
 誕生水 本社南の隅の内より 大師堂 徳と名神あり 社宮を合ふは社に  
 北天宮 菅大社の北門ありて新天照神宮と名神あり 社宮を合ふは社に  
 常楽寺 北天宮の北にありて新天照神宮と名神あり 社宮を合ふは社に  
 金剛寺 北天宮の北にありて新天照神宮と名神あり 社宮を合ふは社に



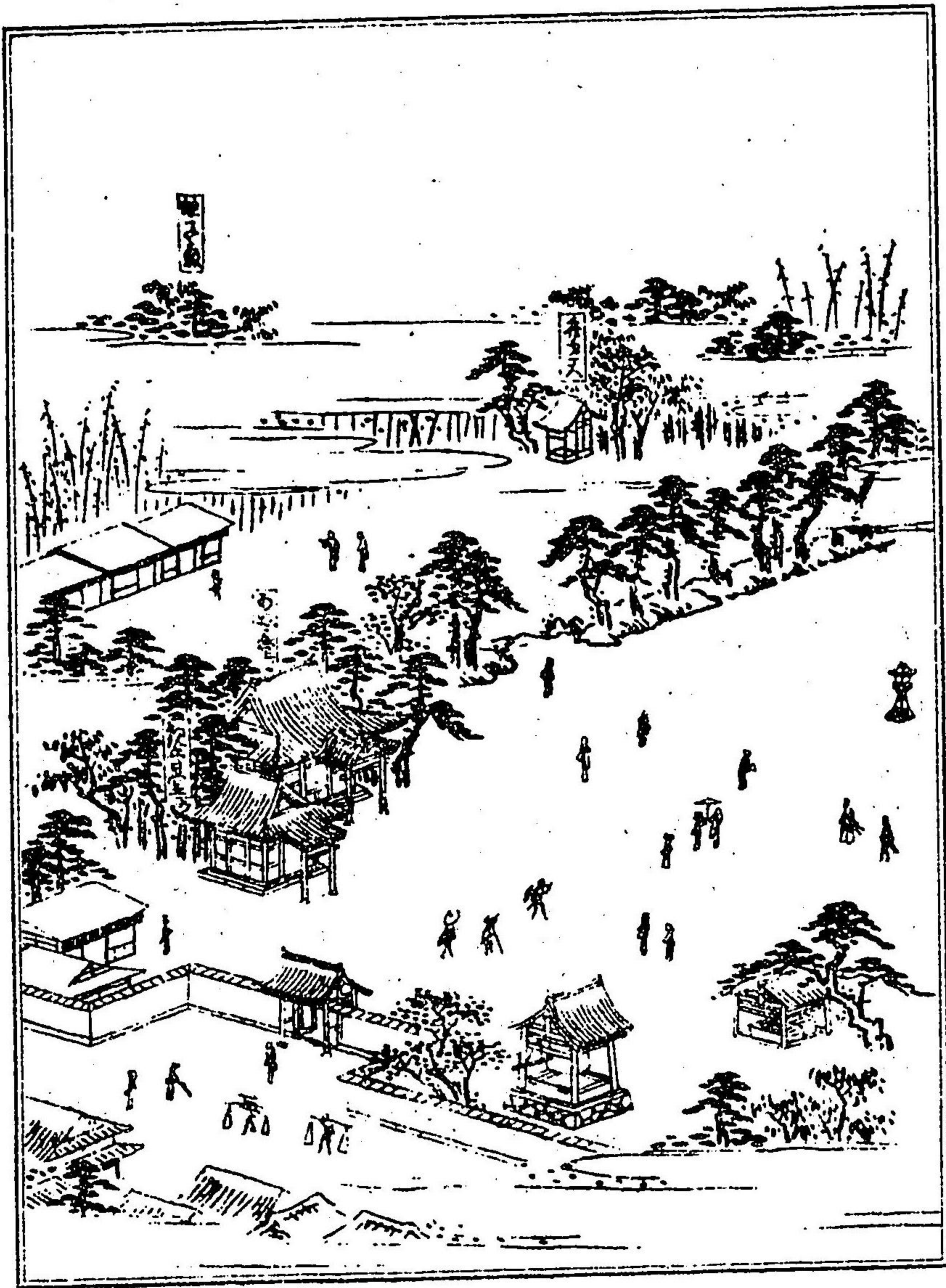
新玉津嶋社

新玉津嶋社  
 前太政大臣

玉津嶋  
 前太政大臣  
 光輝







新住者は醍井通高辻角のり所松列住の時村後成の幼後...  
 荒神社の醍井高辻の角のり所松列住の時村後成の幼後...  
 化粧水の西洞院四條の南のり...  
 藍染...  
 小松内府重盛別業と室町西条の南西側あり...  
 秋恵比須社の猪熊通松列角のり所松列住の時村後成の幼後...  
 天通社の五條坊門松列角のり所松列住の時村後成の幼後...  
 御太刀松の四條松列角のり所松列住の時村後成の幼後...  
 石神は石神通二条南あり...  
 東在寺の四條通宮内角のり所松列住の時村後成の幼後...  
 勅取のり所松列住の時村後成の幼後...  
 主祀神は...



あたごまのり  
 むらさき  
 ねんね  
 桶  
 紅  
 愛  
 節  
 後  
 餓鬼責  
 後  
 湯  
 男  
 孫



壬午の念佛の中興の  
 岡山圓覺上人より  
 函り毎年二月十四日  
 十日十夜本堂におきて  
 修りといふ會の中  
 修りの程を云ふと  
 るの事無量時  
 の草勝縁衣  
 法より多くて  
 扱の道入へん  
 ための方便  
 るべし

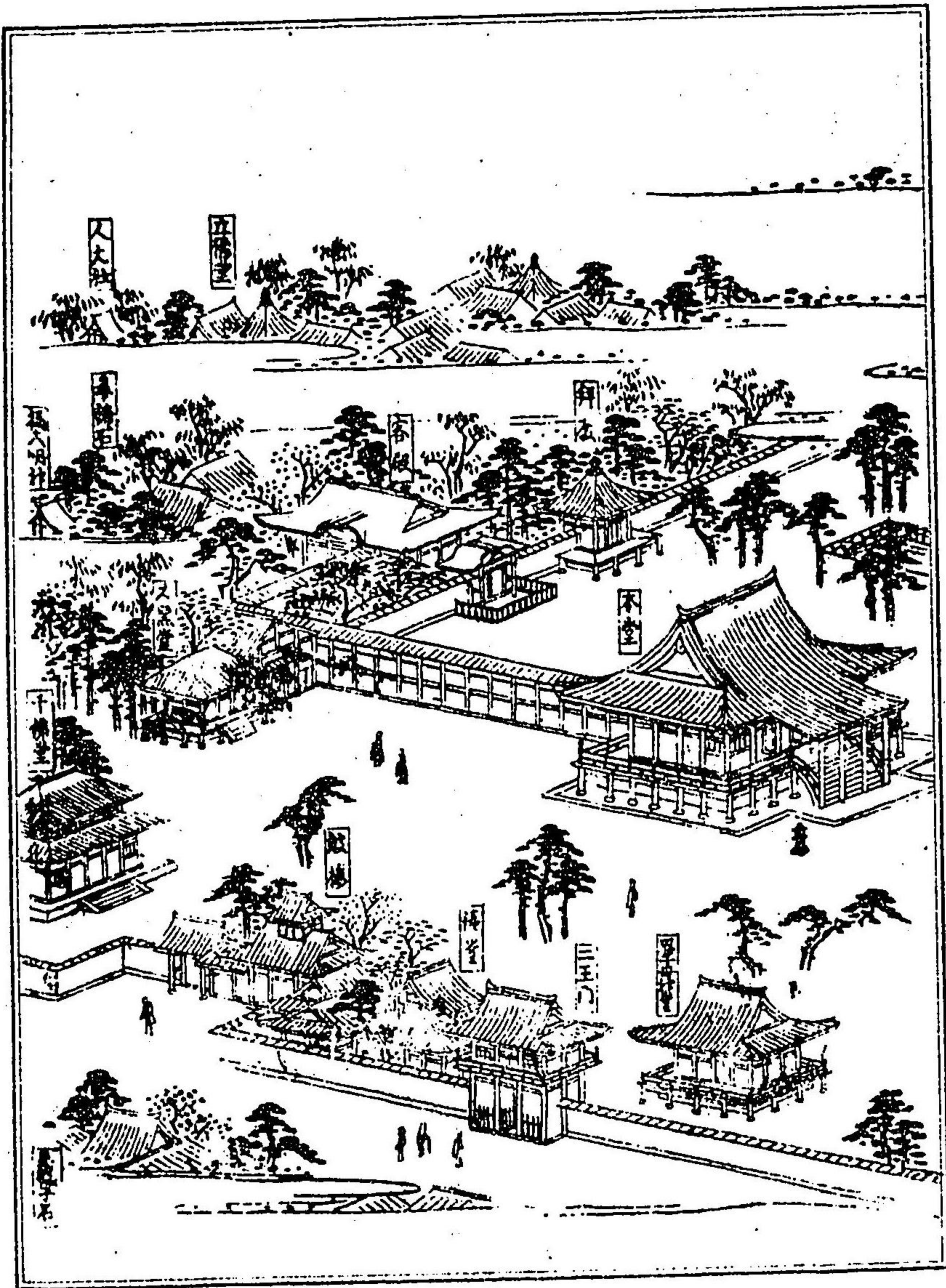


桶  
 ねん  
 ねん

壬午の念佛の中興の  
 岡山圓覺上人より  
 函り毎年二月十四日  
 十日十夜本堂におきて  
 修りといふ會の中  
 修りの程を云ふと  
 るの事無量時  
 の草勝縁衣  
 法より多くて  
 扱の道入へん  
 ための方便  
 るべし

壬午の念佛の中興の  
 岡山圓覺上人より  
 函り毎年二月十四日  
 十日十夜本堂におきて  
 修りといふ會の中  
 修りの程を云ふと  
 るの事無量時  
 の草勝縁衣  
 法より多くて  
 扱の道入へん  
 ための方便  
 るべし

壬午の念佛の中興の  
 岡山圓覺上人より  
 函り毎年二月十四日  
 十日十夜本堂におきて  
 修りといふ會の中  
 修りの程を云ふと  
 るの事無量時  
 の草勝縁衣  
 法より多くて  
 扱の道入へん  
 ための方便  
 るべし



本園寺





佐女牛の井を  
醒井五束の  
南ふわり井  
小銘あり

佐女牛井  
之を二二  
有徳再建之

足利將軍義政之  
系通ふ龍  
くたげめな  
今川州の  
草履の  
もつかる  
泉もむら  
同き香白  
石梵冷蒼苔  
寒泉港月明  
さうの徳



本願寺の西に流るりの宗河親賢聖人の乳はりの  
植髮聖堂の所あり 龍谷寺の草創り

龍谷の浄土文永九年聖人の息女當信尼云  
日野左衛門信 勅を蒙り後東入谷の  
始願堂を建立し 同公法皇 龍谷院勅願所と龍谷と本願寺は號を賜ふ第二代

如信上人 同公の嫡孫を善光寺の 具須真別大御郷小居に於て覺惠法師 廣徳のあり

龍谷上人 大谷の留守職をもちしより當信上人の母三女を継ぎて後法皇院正安元年  
のより

龍谷寺の論旨を聖徳太子の御宇に於て教皇の御宇に於ては

より門の衆徒あれど如く實正の年を當りて又寺に三井の流法を達上人

小荷擔 近松寺の聖徳太子の御宇に於ては後法皇の御宇に於ては

四一城前古跡の浄土堂を管北陸七別化を 具後文明十一年公別と村郷小居堂

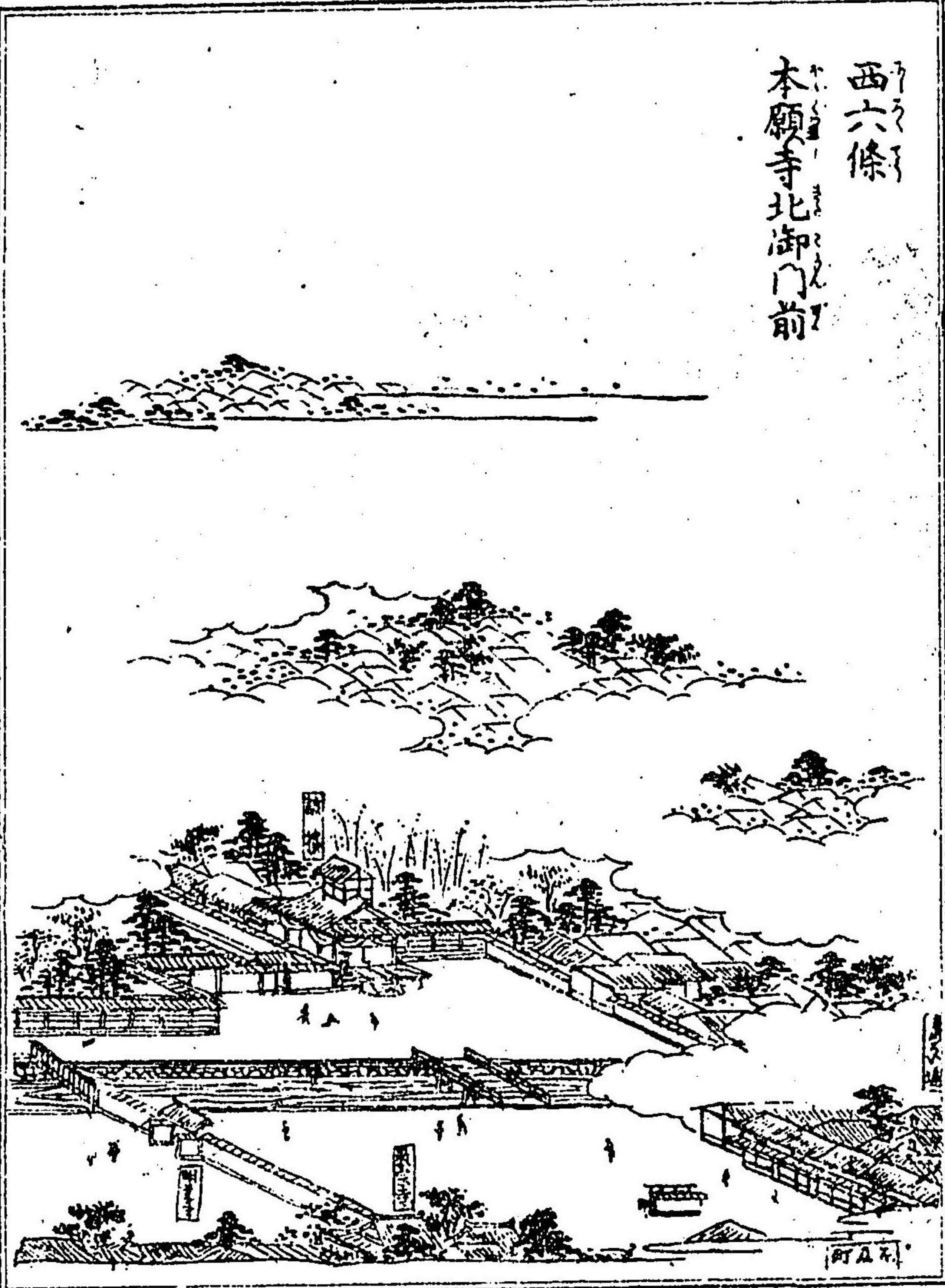
と建し第九代實如上人の御宇に於ては後法皇の御宇に於ては

十一代顯如上人の御宇に於ては勅書と賜の門跡に號を勅許ありて浄土堂を紀別

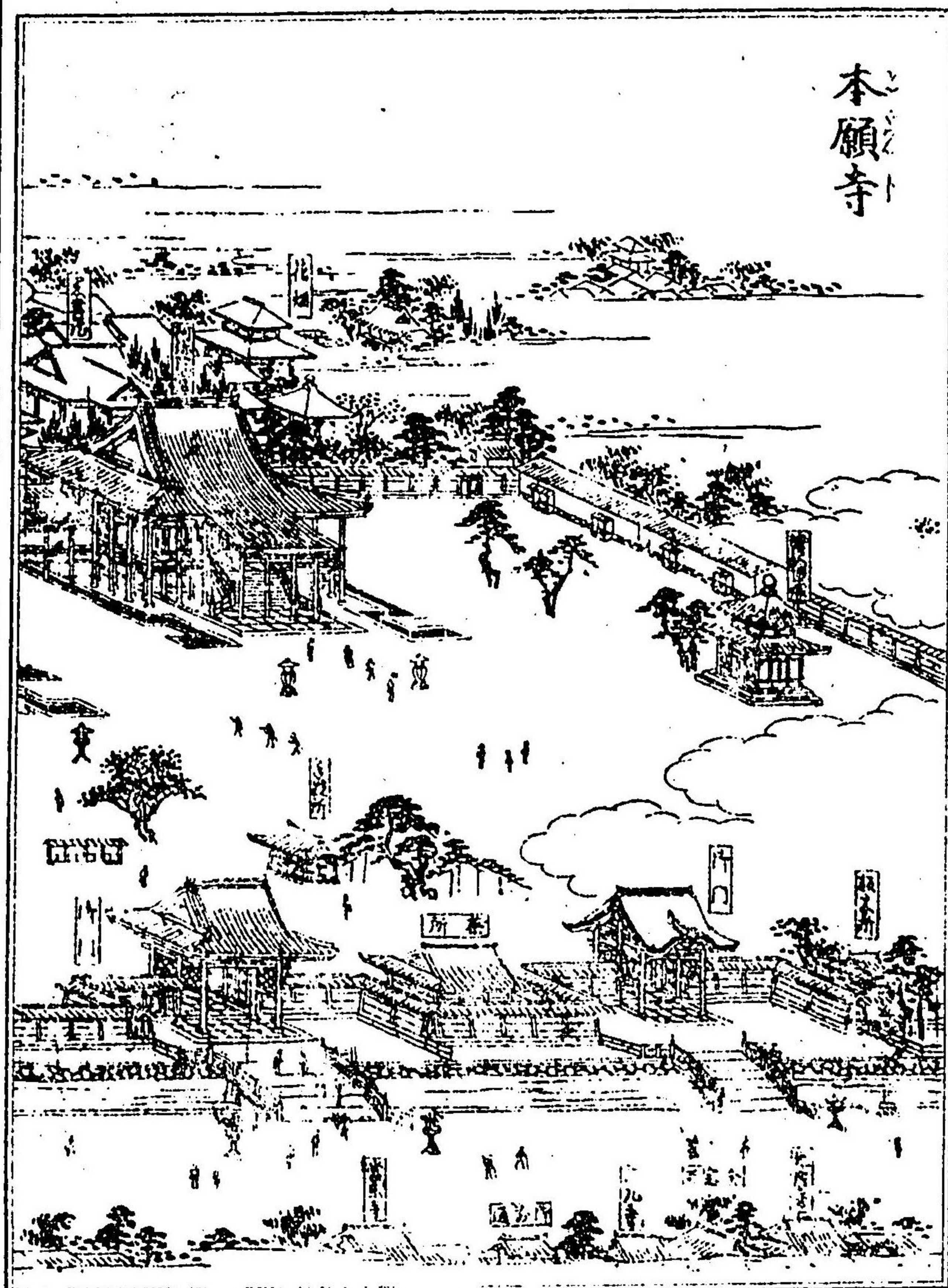
證を授けしより一應正安九年八月六條堀川に移す 妻信長記

本堂(用)の親善聖人自らの教後法皇聖人 信尼の御宇に於ては後法皇の御宇に於ては

掛して... 南山の脇壇... 阿彌陀堂... 鐘鐘堂... 鼓樓... 白書院... 滴翠園... 高橋と飛雲閣と...



西六條  
 本願寺北御門前



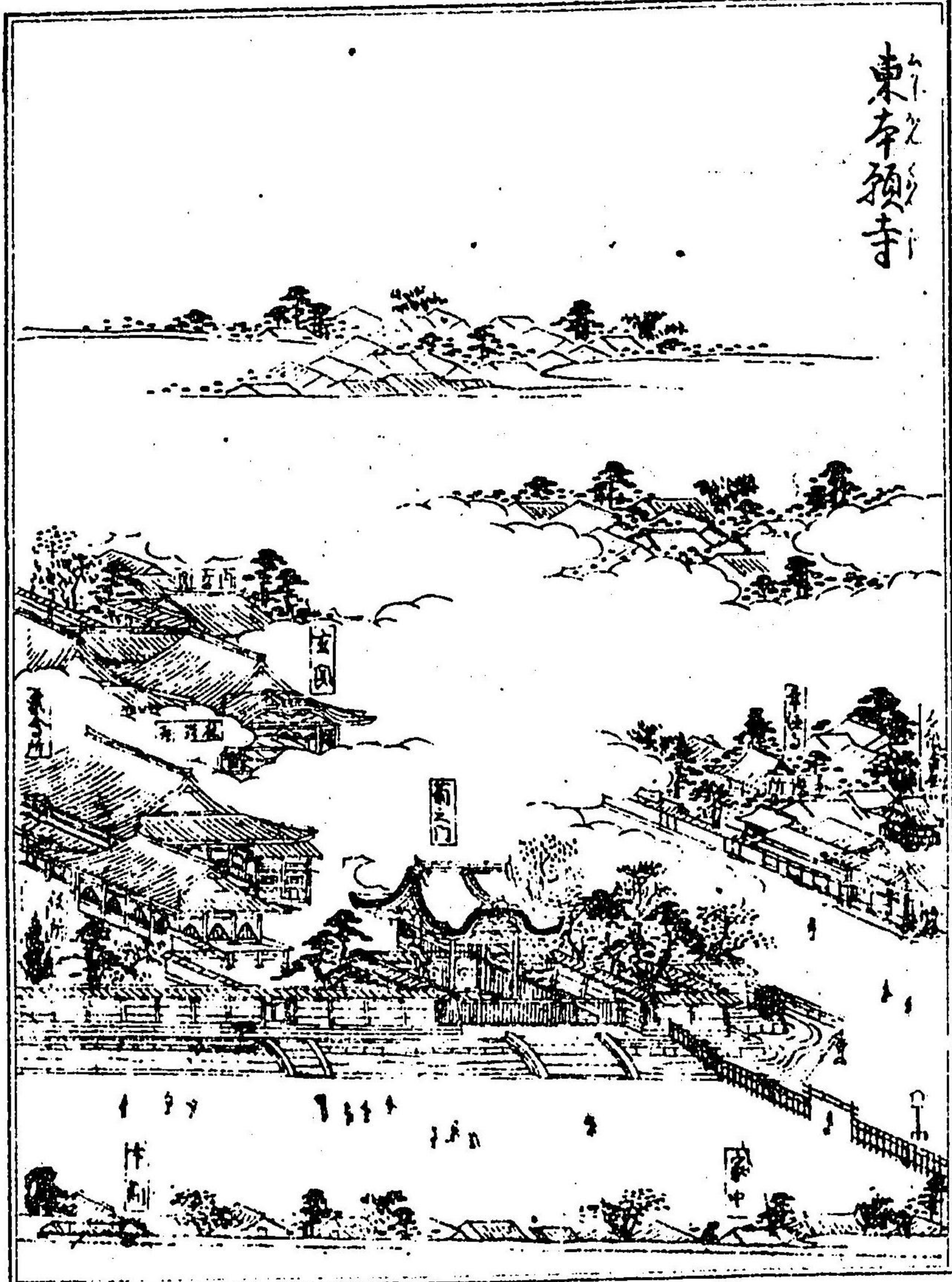
興正寺



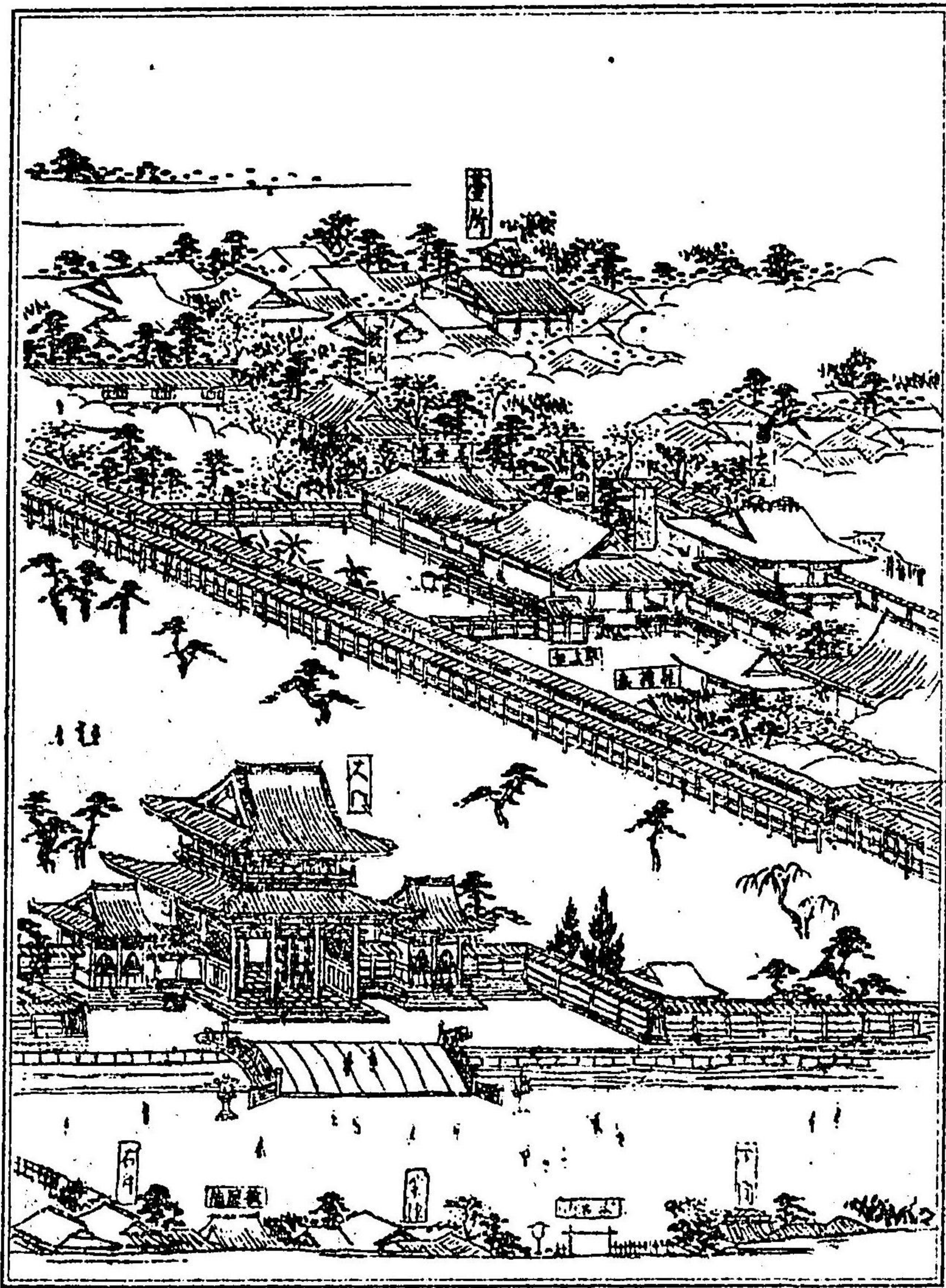
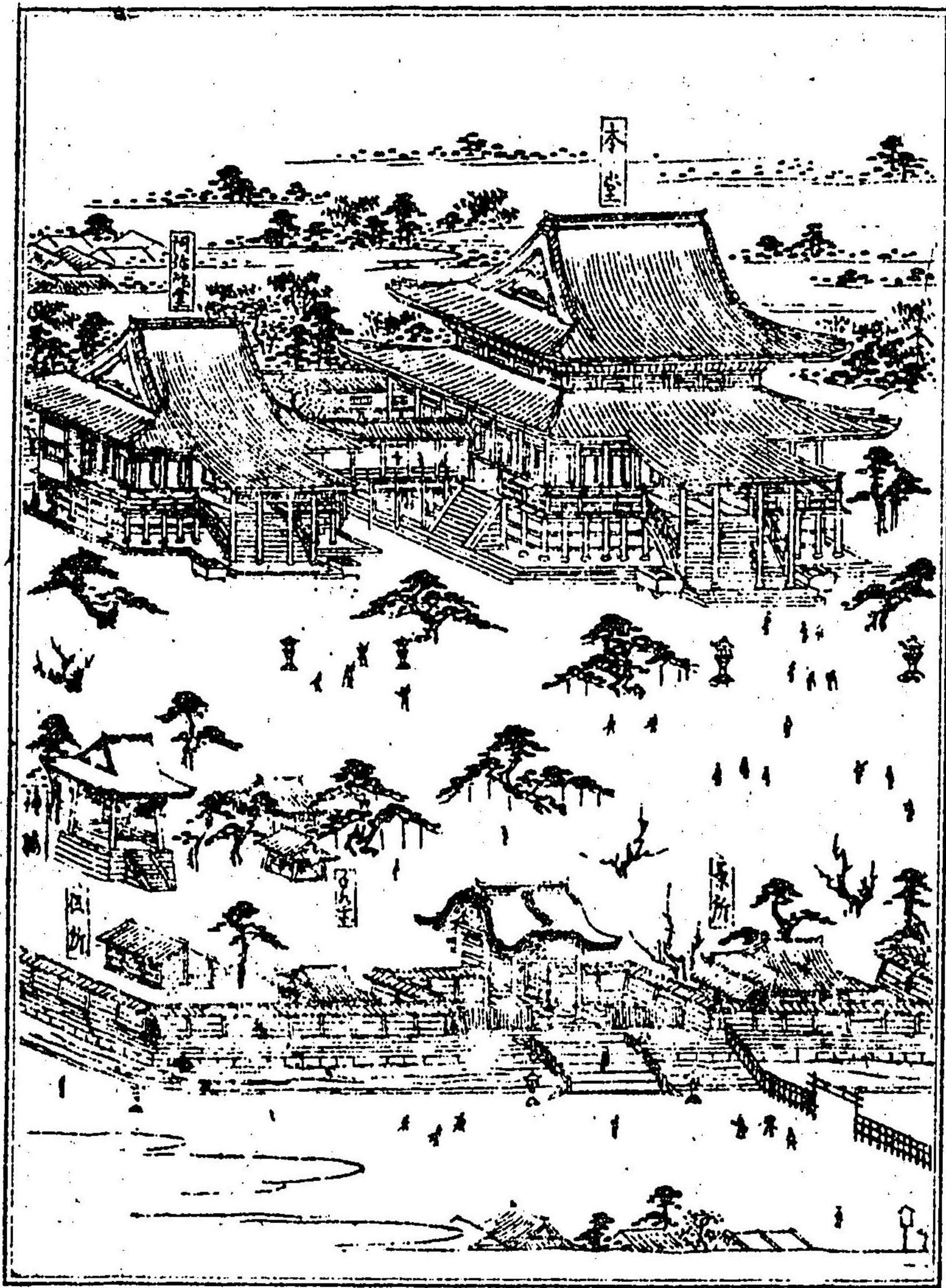
九條白尚實公の所筆之園上の興正寺富士中園の画三十一六部仙一  
 古法眼一之信一筆一之下一と詔賢殿一  
花雲園の記、殿中の東より十六世供上人の傳  
化して當時の法上人筆の條あり  
 池の高樓を巡りて常小松をほいさし水滄浪池と一龍松橋一を踏ん  
 場わりけり松樹をめぐり胡蝶亭の傍より夜をるあり嘯月坡の池の巡り  
浴場七井の井  
 披りて音鶴堂一高園の西の湯殿一醒眠泉一古醒井一  
湯場七井の井  
文如上人の 艶雪林一の梅一を多く青蓮樹一茶亭一を又一燒た亭一を多く一開一た  
碑の銘あり  
 遊一華林園一同一して鳥獸會魚池一のわたり来て今親の芳園一なり  
 常樂寺一西本願寺一本尊阿彌陀佛一春日一の立像一圓基存堂上人一  
上人の傳  
上人の傳  
上人の傳  
上人の傳  
上人の傳  
 興正寺一西本願寺一本尊阿彌陀佛一安阿彌一の依一當寺一の初一宗一祖親一孝聖人一四十一奉一行  
の傳  
の傳  
 心科一神中一の造宮一興正寺一よりけり高一實一真一佛一上人一の傳一廣一のり具一後一今一は一殿一中  
の傳  
の傳  
 庄一付一谷一の一後一醍一醐一帝一の一傳一の一依一寺一を一忍一び一十四一世一經一家一上人一を一行一寺一蓮一如  
の傳  
の傳  
 上人一の一傳一依一依一多一を一依一此一小一堂一を一建一て一回一り一と一用一て一興一正一寺一の一梅一  
の傳  
の傳

東本願寺の馬九六条の南ふのり宗直の親者聖人の弘法して用ふり者十  
 一世類如上人の嫡子教如上人慶長二年本園東の 台命に奉りて六町四方に寺  
 地取揚り新に佛堂をいへり東本願寺御門跡と稱し宗祖より十二世の血脈  
 坂相傳りて本堂の親覺聖人自他に像と安置たり坐像ありて法衣を身に纏ひ  
 小のりて脇壇の前行入僧正具外歴代の畫像と安置餘間より九字十字の石鏡と  
 ありて同く聖人の筆より阿彌陀佛の本尊阿彌陀佛の安阿彌の位之 佛の位之  
 脇壇より聖徳太子法然上人具外三朝の高僧の畫像を安置り大門 本堂のありて  
の坐像ありて 菊門 大門のありて 初め秀吉の壯如くして伏し膝ありて双の華ふ菊の大門の  
本堂あり 阿彌陀堂の門 世の人母の門といふ 撞鐘堂 伏見城中の井戸 玄關に六堂  
備りて長七間 寢殿 大敷向とす 小寢殿 小敷向といふ 白書院 長書院の向  
間三間の一枚板と 小書院の向 小敷の向といふ 小書院 長書院の向  
 小書院の向のり林を穿て集金堂は西ふのり具外殿圓堂舎等花飾ははく  
 して作境不勝きる繁きものてありて略に  
 東殿 舎ありて 台命よりて増地取揚りて東本願寺に別館とて舊け所と

東本願寺









東殿

東を換寺別荘  
多う俗に百  
屋をといふ

河原院の回廊より池の東の古墳あり  
 池水の東の古墳川より流るる常小谷より水戸を獅子に  
 といふ臨地殿の庭に小坂遠別れぬり  
 炬火殿の七條鴨川の西よりある所指斎本社社末社を神歌まといふ又指斎本  
 礼の日神徳臨幸の時七條河原より松明と照し神樂と迎ふあり社の  
 香銅で故小名をいふ  
 指斎のいさりの名日  
 金老寺の七条間の町は約當あり七條道場と稱し時宗より本尊阿彌陀仏を奉  
 脇壇の二遍士の像あり  
 通久のれんげんを大に刻みぬり  
 僧とあり時と建長寺中へ始に台敷と名にぬり  
 成興寺の九條馬九あり本尊観世音の慈母大師の化有り  
 宇賀社の九條の東よりある所宇賀社といふ所の東西の徑と宇賀はみりあり

教内紹智の家の西沼茂也落のあり鼻祖創仲紹智の千利休の高弟あり

師小向て白太吉公の寵余余紹智の遠慮あり近き書りんと諫りて

利休忌不興うて紹智を退々いへ大徳寺の三玄院に寓居に利休の滅後流業

竹二信し専業道より其後鷹司通町より 新町の西へ入るなり

頼寺の門主良如上人の招りて今の地正徳院故小宗道の下流と稱て利休

嫡傳の正流なり古田織初のおもひあり 大坂初院の付いふ徳院に

开根水の堀川通生酢屋橋の南ふあり 此年書家高石若水と井筒右入

彫刻と入公卿の詩をとり其序文あり 御徳のむろいなる香匂たりし能く依愛し祝ふ今今の竹枝ふ

あり所こいいて興列ふ實の境電の末よりいひ吹浪のありこゆは

そとせしやうとて其用は其の用なりなりゆりのゆりゆり水邊にて

所以とせしやうとて其用は其の用なりなりゆりのゆりゆり水邊にて

實推の轉法輪の序よりて随白雲院に手請りてその上の學問報

思院に付持しゆいふ信は其の序よりて先生の序よりてその上の學問報

こゝゆり公卿の詩をとり其序文あり

稻荷社 佛の御座通の南ふあり系所稻荷社社 不動堂 稻荷社の南ふあり系所稻荷社社

道祖神 不知堂の南ふあり系所稻荷社社 書聖天満宮 通祖社の社月あり系所稻荷社社

稻荷御旅所 通祖社の南ふあり系所稻荷社社 寛文若石 通祖社の南ふあり系所稻荷社社

春日森藏王春 梅の御座通の南ふあり系所稻荷社社 寛文若石 通祖社の南ふあり系所稻荷社社

古御旅所 八條坊の南ふあり系所稻荷社社 寛文若石 通祖社の南ふあり系所稻荷社社

御旅所 八條坊の南ふあり系所稻荷社社 寛文若石 通祖社の南ふあり系所稻荷社社

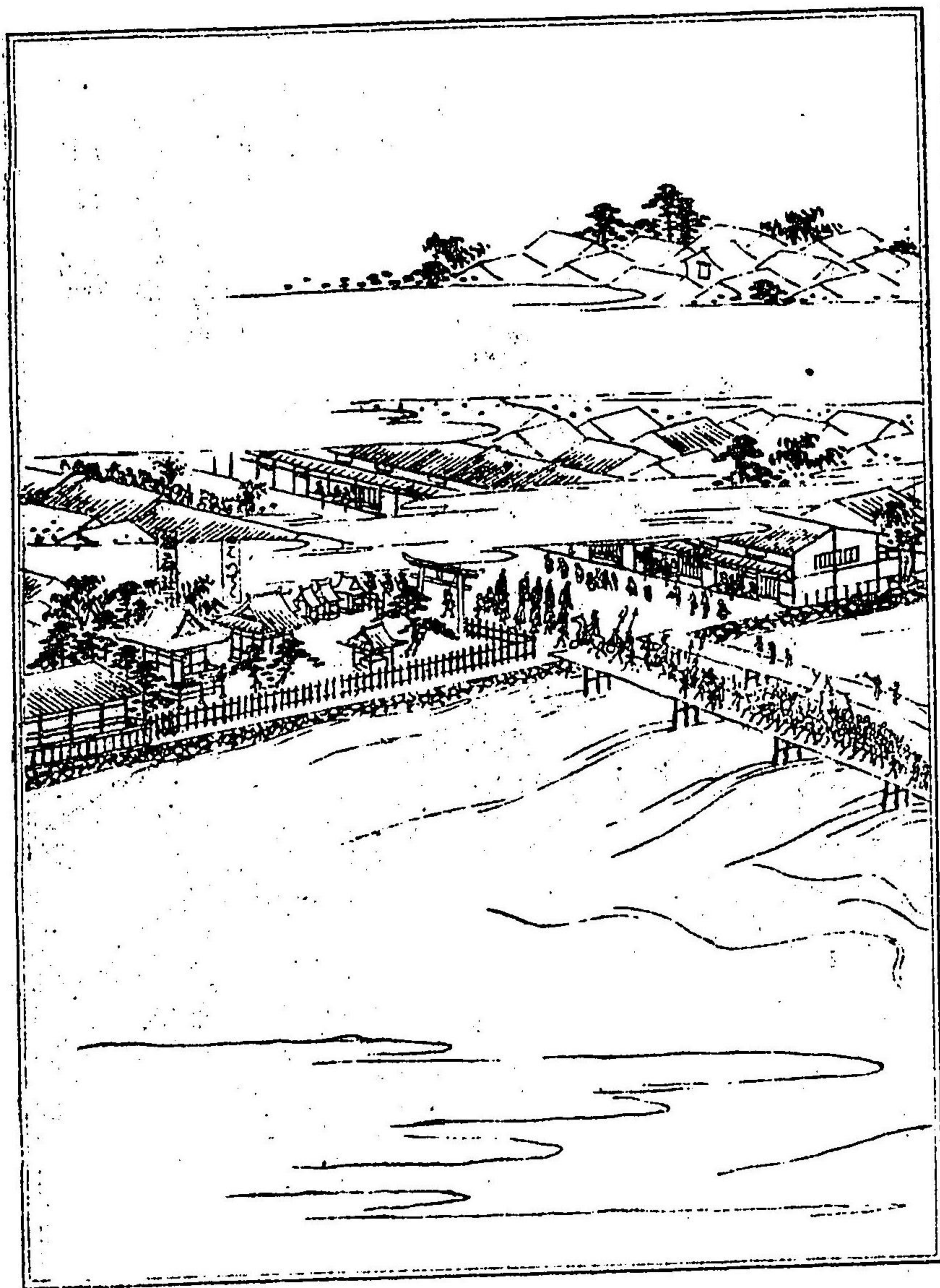
御旅所 八條坊の南ふあり系所稻荷社社 寛文若石 通祖社の南ふあり系所稻荷社社

御旅所 八條坊の南ふあり系所稻荷社社 寛文若石 通祖社の南ふあり系所稻荷社社

栗嶋社 堀川の西生酢屋橋通の南ふあり系所稻荷社社 古井 堀川の西生酢屋橋通の南ふあり系所稻荷社社

清盛の館 西八條殿の南ふあり系所稻荷社社 西の方面の南ふあり系所稻荷社社

住吉社 西の方面の南ふあり系所稻荷社社 西の方面の南ふあり系所稻荷社社



月見櫓

坂川の舟生跡を櫓より  
おろしのふかえんは信濃  
國更林即後原山イ  
でらりて世の  
人月見櫓と  
りいなり  
ゆ

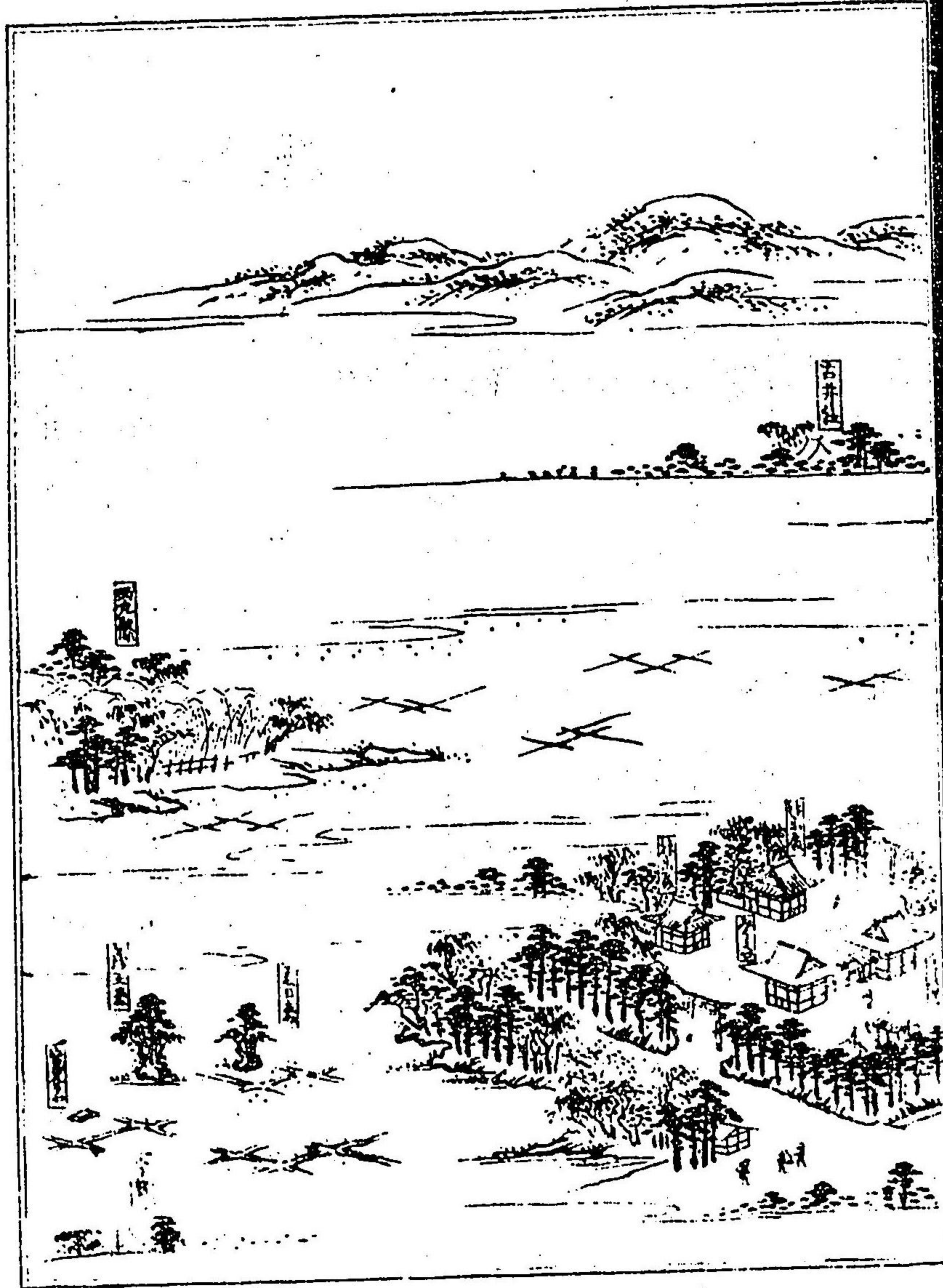


芥根水の坂川  
生原橋の南小あり

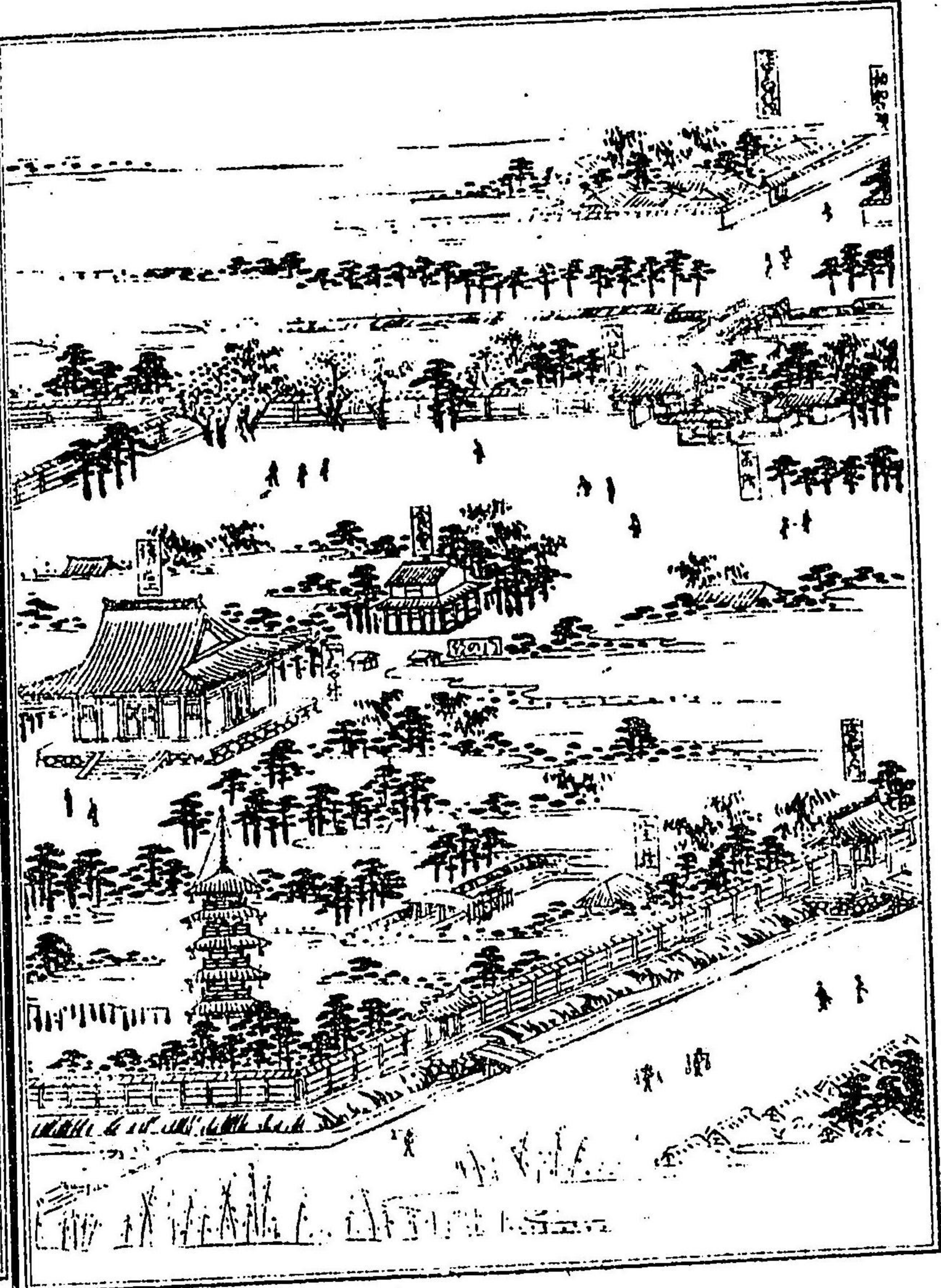
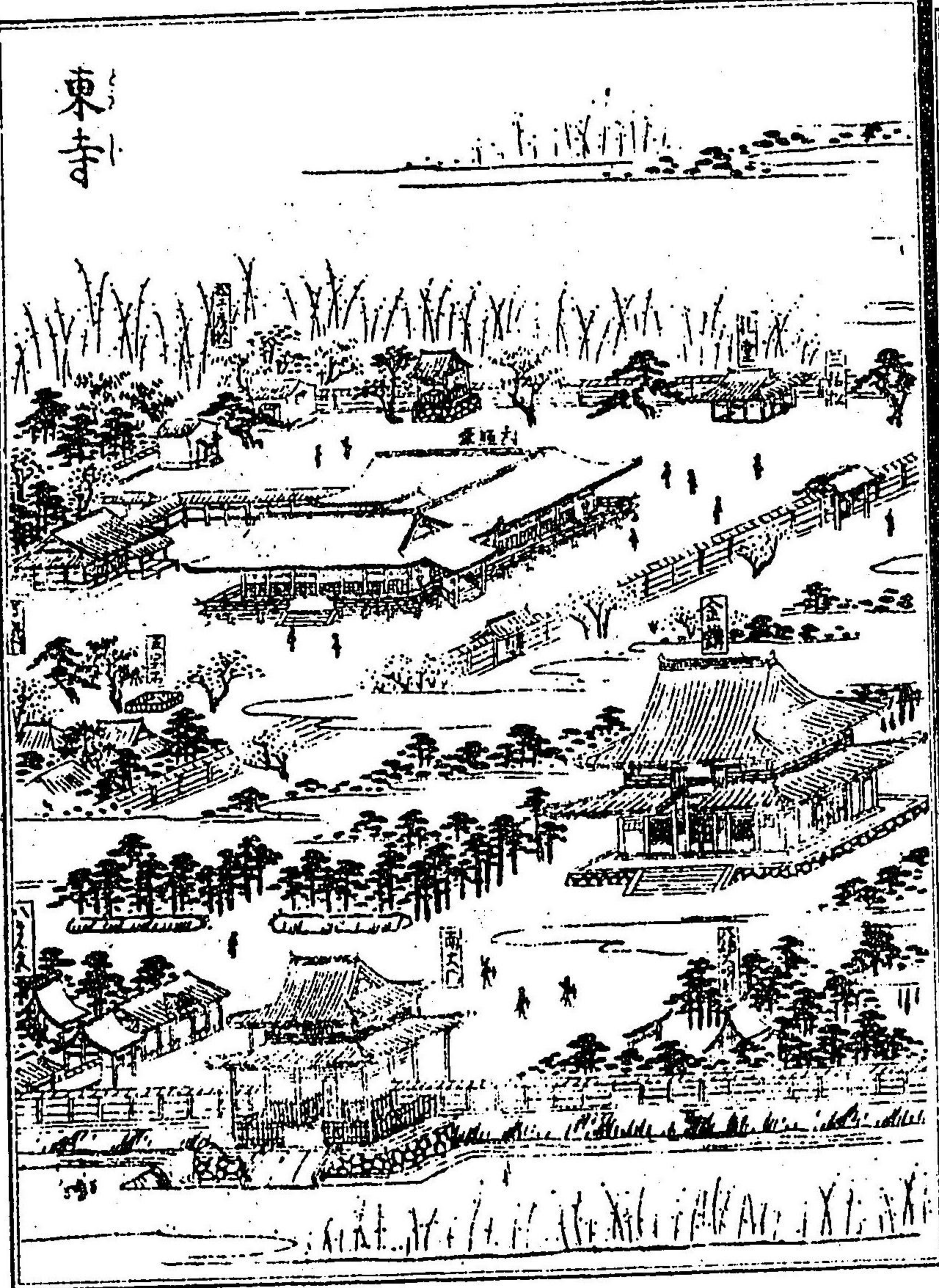
融公千載毛  
今見石泉清  
若使陸生品  
南零應鏡名

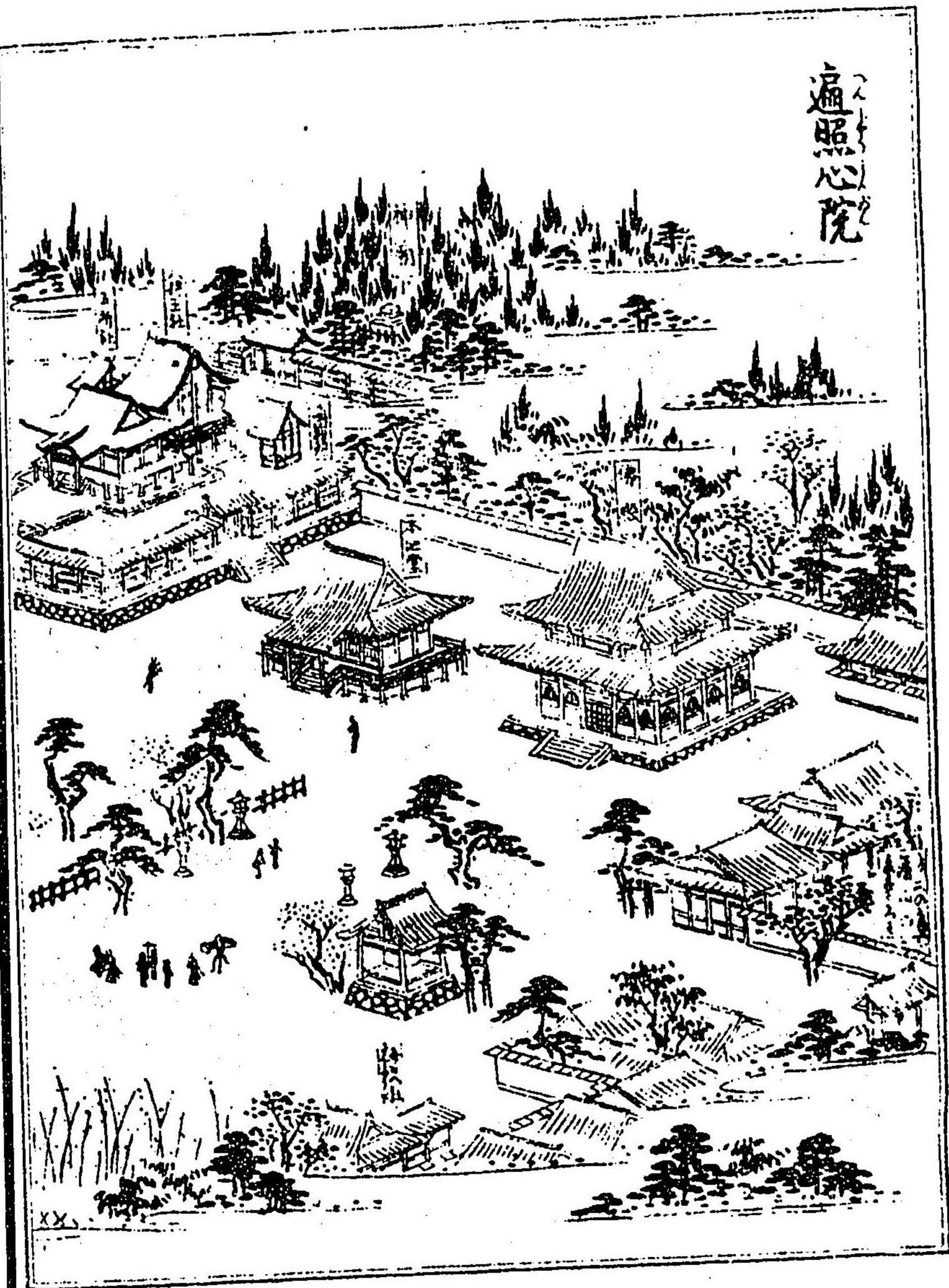
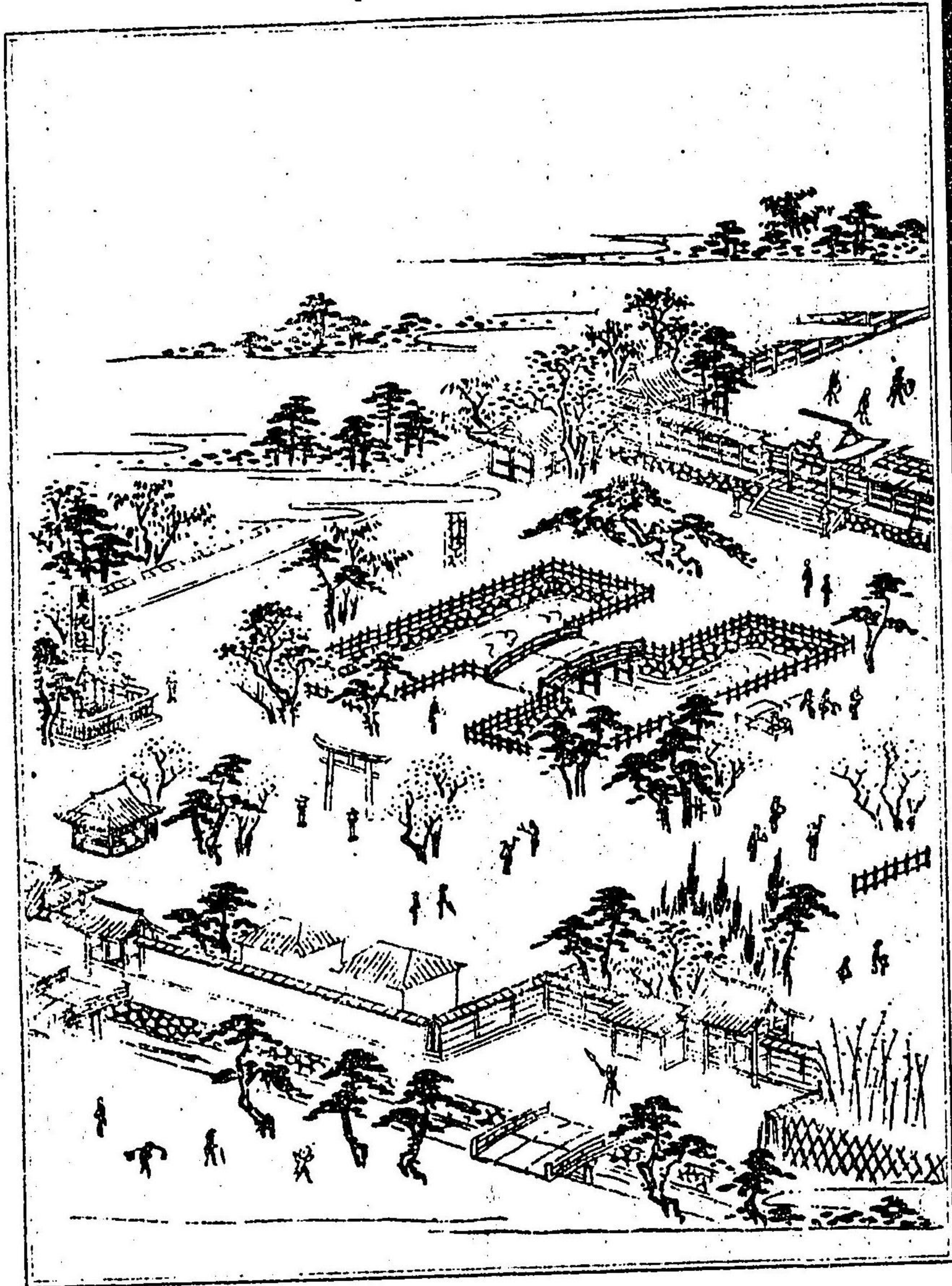
寛雅公





東寺







八幡宮教王護國寺秘藏傳法院東寺入鹿寺大宮西八條の南小なる直言の  
 原より用祖弘法大師普化の大師の鳩臚館より末朝の宸宮を修す  
 漢朝の鳩臚館不空三藏の精舎と宮一真例を准じて弘仁四年たふ  
 空海に給ひ右寺に守教の場小抄弘法大師の説別多度郡屏風浦の寺にて  
 光仁帝寶龜五年に延じのり十八歳して之を以て至り志佛経ありて連下出  
 家して延暦十四年東大寺の檀小のぼり具足戒をけり空海と改む垂仁  
 たりて別高市郡久米道場の東の下の大毘盧遮那神變加持經を得  
 たるは又議曉しつたに延暦廿三年八月入唐して唐に留まれば二年二月十一日  
 青龍寺の慧果阿闍梨の場一の經の奥儀真言秘藏を授けり同元年十月  
 歸朝し傳本紅花法に弘むありて白峯山を初ありて内裏にありて説經乃名  
 僧と名の空海ありてのり所は空海と論旨とありて空海の白紙ありて大日神  
 變の真言なる阿字の如く即身成佛とあり諸家には空海とありて説論に  
 空海とありて八帝空海即身成佛とありてのり所は空海と論旨とありて空海の白紙ありて大日神

觀心入息首より五佛の寶冠より身より五色の光明と放ら面鏡金身より毘盧  
 遮那佛あり帝の御座よりよりより諸家の僧の合掌とありたりたり後論  
 ありたり宗の日本に弘む弘仁七年に別高野の場を金剛峯寺を建立し仁明帝  
 御宇承和二年二月廿二日高野に六年の具法延暦廿三年弘法大師  
 と謚を置下しあり日本小生不思想の人一人あり生ありて死する空海  
 金堂 本尊入息師佛開去の日月天あり焼失の後 講堂 本尊の入り日如來殿の  
 對面あり 食堂 本尊の千手千眼觀世音聖觀音正の祀あり地蔵思願の天女  
 夜叉神 唯神の夜叉神とあり大師の所化あり 五重塔 四仏あり  
 燒失の後 師當の再建ありは塔と西南の方へ傾くらん 灌頂院 秘藏傳頂  
 のりくの方よりとあり具法とあり 八幡宮 當寺建立以前の秘法あり  
 寶藏 大師の秘法とあり 藏經 藏經あり 南大門 二階の塔門の  
 西の側慶の能 慶賀門 東の門とあり 蓮華門 西の門とあり大師入定の所は  
 猫瓦 裏の方の茶のの上より茶の道管の付り

西院開祖弘法大師の教を奉るは眼康勝の地あり後堂より大師の地と  
大黒天 西の院の地あり 愛深明王 對持功一五寶石 後堂の自明あり  
三鈷松 西の院の地あり 大師の地あり 歸徳の地あり 戒密教相應の地あり  
松子房松 西の院の地あり  
元弘三年五月六日 後堂の地あり 戒密教相應の地あり  
後堂の地あり 戒密教相應の地あり  
迎奉の地あり 戒密教相應の地あり  
みくは松の地あり 戒密教相應の地あり  
前大信正頼重の地あり

植松 むらやうの地あり 戒密教相應の地あり

維城門の舊地あり 戒密教相應の地あり 四塚の地あり 戒密教相應の地あり

初て建たしむるの地あり 戒密教相應の地あり

今東野の地あり  
戒密教相應の地あり  
戒密教相應の地あり  
戒密教相應の地あり

萬祥山大通寺遍照心院ハ條橋の地あり 戒密教相應の地あり

天徳五年小覺の地あり 戒密教相應の地あり

倉石太右實朝の地あり 戒密教相應の地あり

同山一戒律之論直言寺兼子の地あり 戒密教相應の地あり

佛殿 戒密教相應の地あり

六孫王社系所の地あり 戒密教相應の地あり

神廟 戒密教相應の地あり

神龍池 戒密教相應の地あり

阿弥陀佛 戒密教相應の地あり

方丈の地あり 戒密教相應の地あり

満仲公誕生地 戒密教相應の地あり

福大明神森 戒密教相應の地あり

由未詳あり



鴻原領城町は朱雀野にありは新主古ハ鴻原館の地多り中頃ハ觀音寺邊  
 の封境ありて西口の白田宮の堂の口より又領城郭ハ方里小海  
 二條の南方之所あり具先ハ東と殿 遊楽の地あり天正十七年永正  
 左衛門林又一郎といハ浪人上訴ありて領城町と免許され其の郭と號  
 しぬり地多ク新屋と號し又柳の雙樹ありて柳町と稱に 柳ハは遠  
 也具より十二と年と歴て慶長七年に條の今人の室町新町西洞院  
 五條橋通の南より方々町の郭之中ハ小橋之通ありて今ハ二助町と號に  
 六條通ありて西洞院川よりなる地ハ領城町の人なりては附の村一と今ハありて  
 町又糸の南西洞院の居宅異なりは附の七と年より今ハありて  
 又寛永十八年永正の朱雀野に移るは領城と號する其領肥前の  
 領ありて草山昂といふと一の橋を起し初ハなるは附の地あり  
 といふは騷りたりは世の人領ありて異名はけしりて遠くは所の地あり

みやこ名水園云